

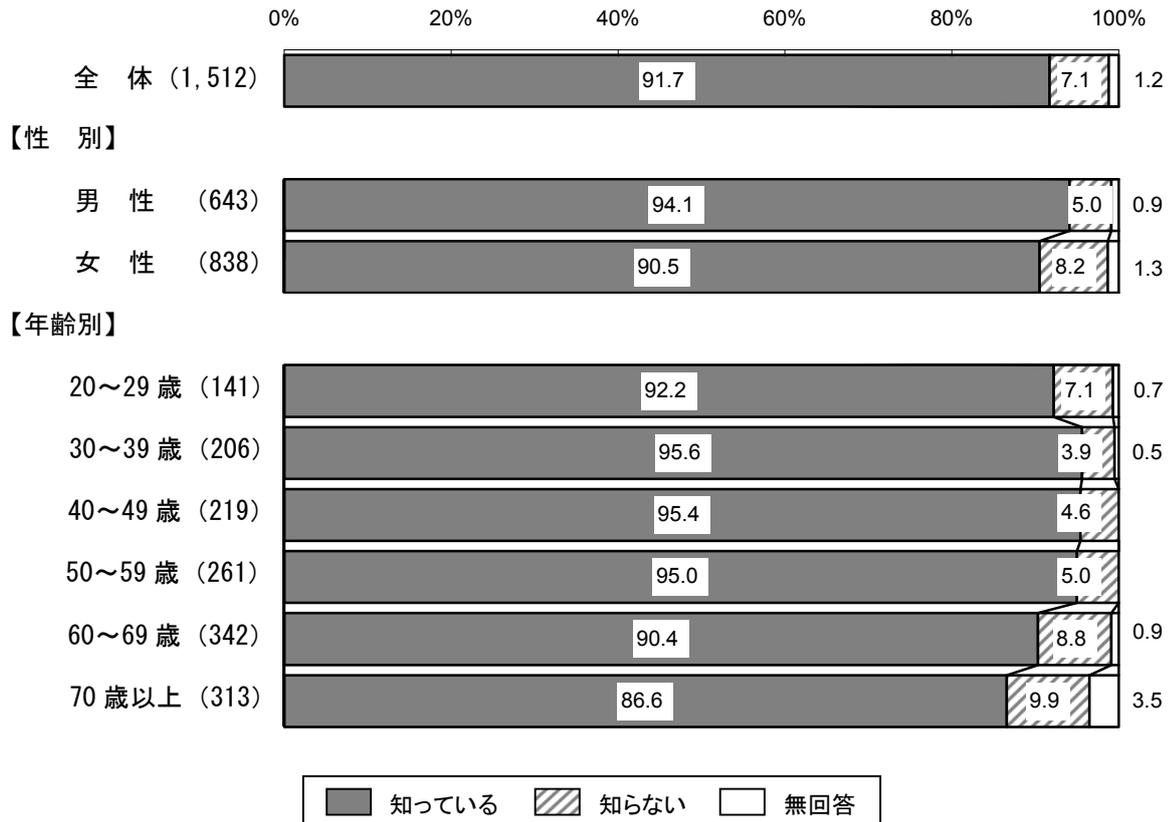
## II 調査結果

# 1 人権問題について

## (1) 基本的人権についての周知度

問1 あなたは、法の下での平等、自由権、社会権（生存権、教育を受ける権利、労働の権利等）等の基本的人権は侵すことのできない永久の権利として、憲法で保障されていることを知っていますか。（✓は1つ）

図1 基本的人権についての周知度



### 基本的人権についての周知度は9割

基本的人権についての周知度は、「知っている」と回答した人の割合が91.7%と9割を超えている。年齢別では、「知っている」と回答した人の割合が、70歳以上をのぞくすべての年齢層で9割を超えている。

【参考】 全国調査（平成19年6月 内閣府 人権擁護に関する世論調査）

<基本的人権についての周知度>

問1 あなたは、基本的人権は侵すことのできない永久の権利として、憲法で保障されていることを知っていますか。

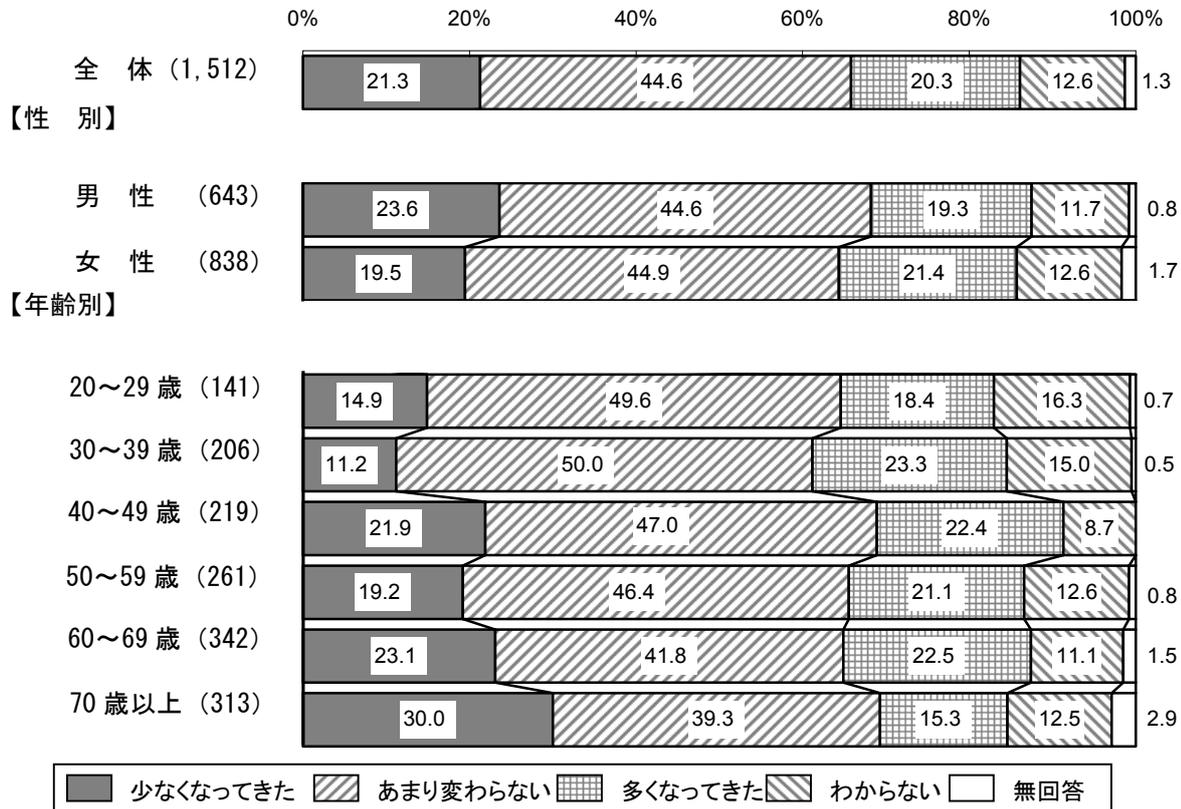
全国 (1,766)	知っている (%)	知らない (%)
	77.8	22.2

知っている
  知らない

## (2) 人権侵害の推移

問2 新聞やテレビなどで「人権問題」とか「人権が侵害された」というニュースが報道されることがありますが、あなたは、この5年の間に、日本で人権が侵害されるようなことは、次第に少なくなってきたと思いますか、あまり変わらないと思いますか、それとも次第に多くなってきたと思いますか。(✓は1つ)

図2 人権侵害の推移



### 人権侵害の推移はあまり変わらないと思っている人が4割

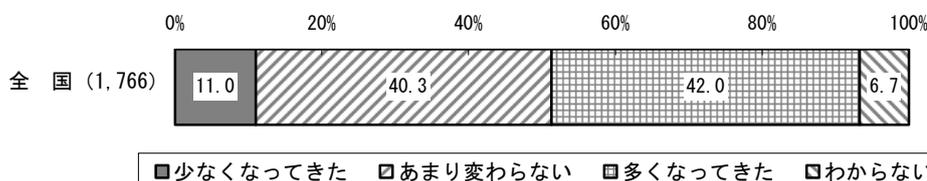
人権侵害の推移について、「あまり変わらない」と回答した人の割合が44.6%と最も高く、次いで「少なくなってきた」(21.3%)、「多くなってきた」(20.3%)、「わからない」(12.6%)の順となっている。

年齢別では、「少なくなってきた」と回答した人の割合が20～29歳で14.9%、30～39歳で11.2%とそれぞれ低く、70歳以上では30.0%と高くなっている。

【参考】全国調査(平成19年6月 内閣府 人権擁護に関する世論調査)

#### <人権侵害の推移>

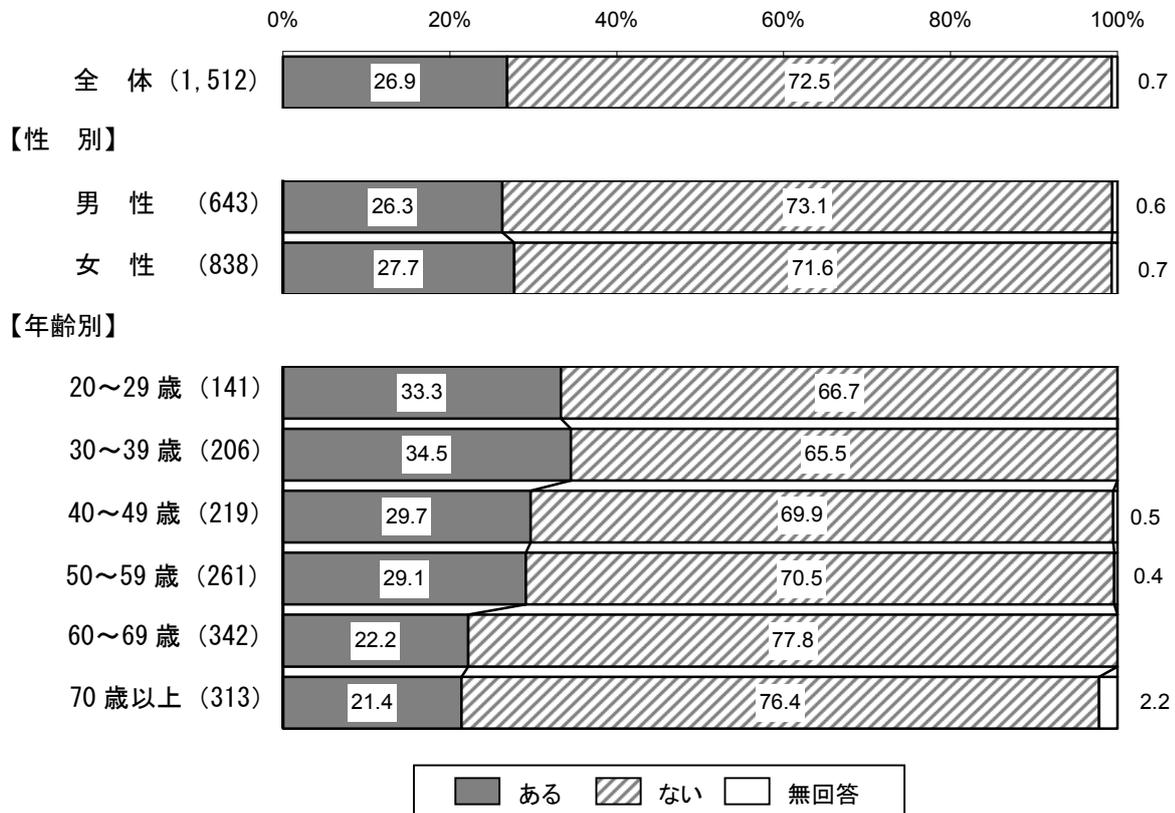
問2 新聞やテレビなどで「人権問題」とか「人権が侵害された」というニュースが報道されることがありますが、あなたは、この5～6年の間に、日本で、人権が侵害されるようなことは、次第に少なくなってきたと思いますか、あまり変わらないと思いますか、それとも次第に多くなってきたと思いますか。この中ではどうでしょうか。



### (3)人権侵害の経験

問3 あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか、それともそういうことはありませんか。(✓は1つ)

図3 人権侵害の経験



#### 人権が侵害されたと思ったことがある人の割合は3割

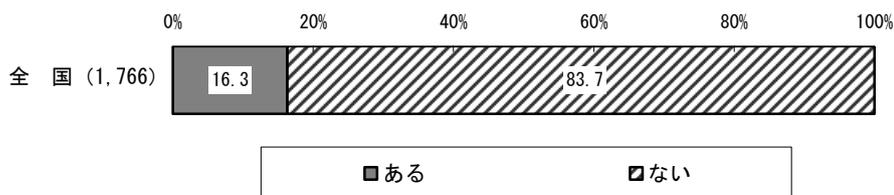
人権侵害の経験について、「ない」と回答した人の割合が72.5%となっているものの、「ある」と回答した人は26.9%となっている。

年齢別では、「ある」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなる傾向にある。

【参考】全国調査（平成19年6月 内閣府 人権擁護に関する世論調査）

<人権侵害の経験>

問3 あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか、それともそういうことはありませんか。



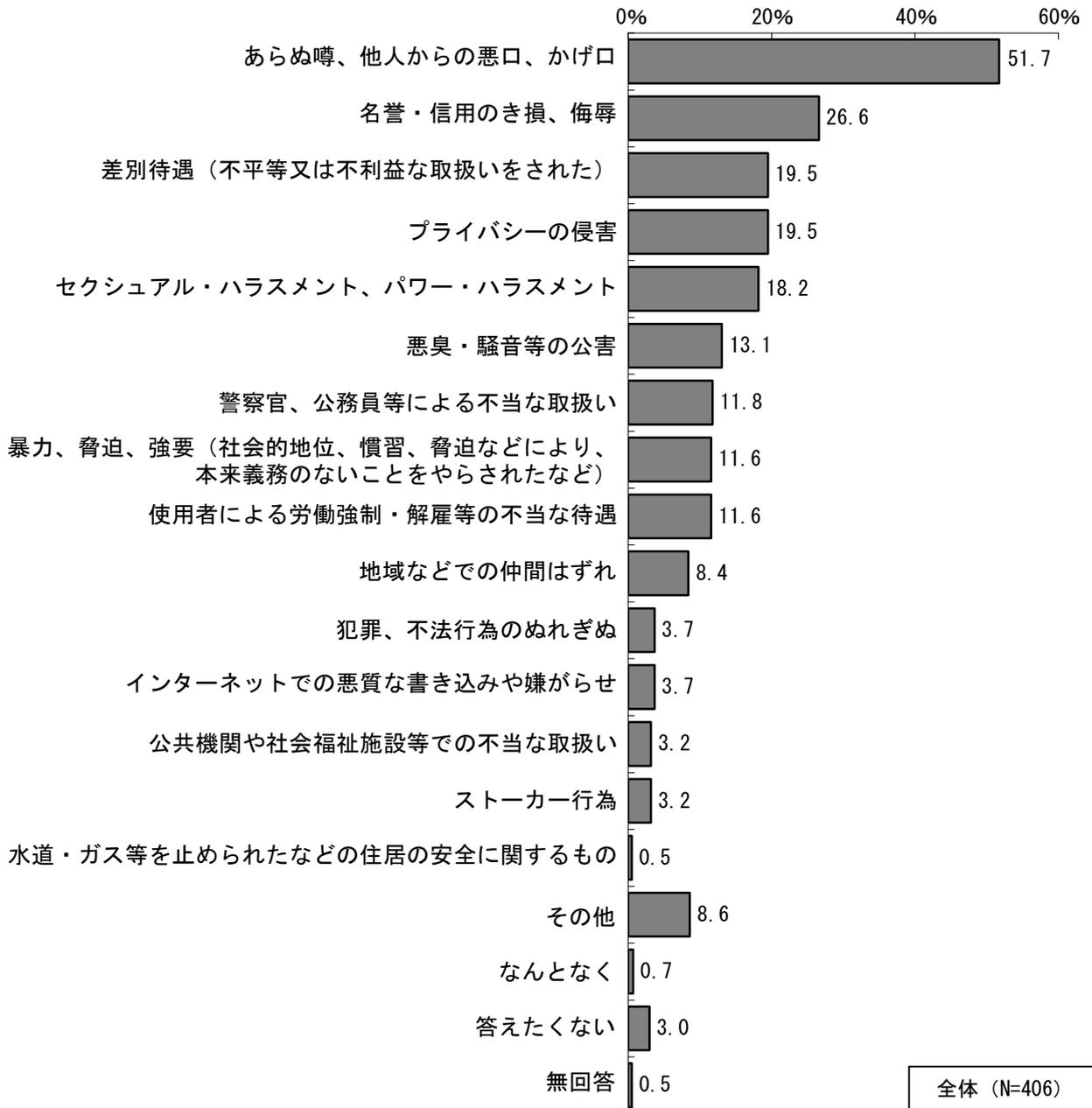
#### (4)人権侵害の内容

問3-1 【問3で「1 ある」を選んだ人のみ回答】

それは、どのような場合ですか。差し支えなければこの中からあげてください。

(✓はいくつでも)

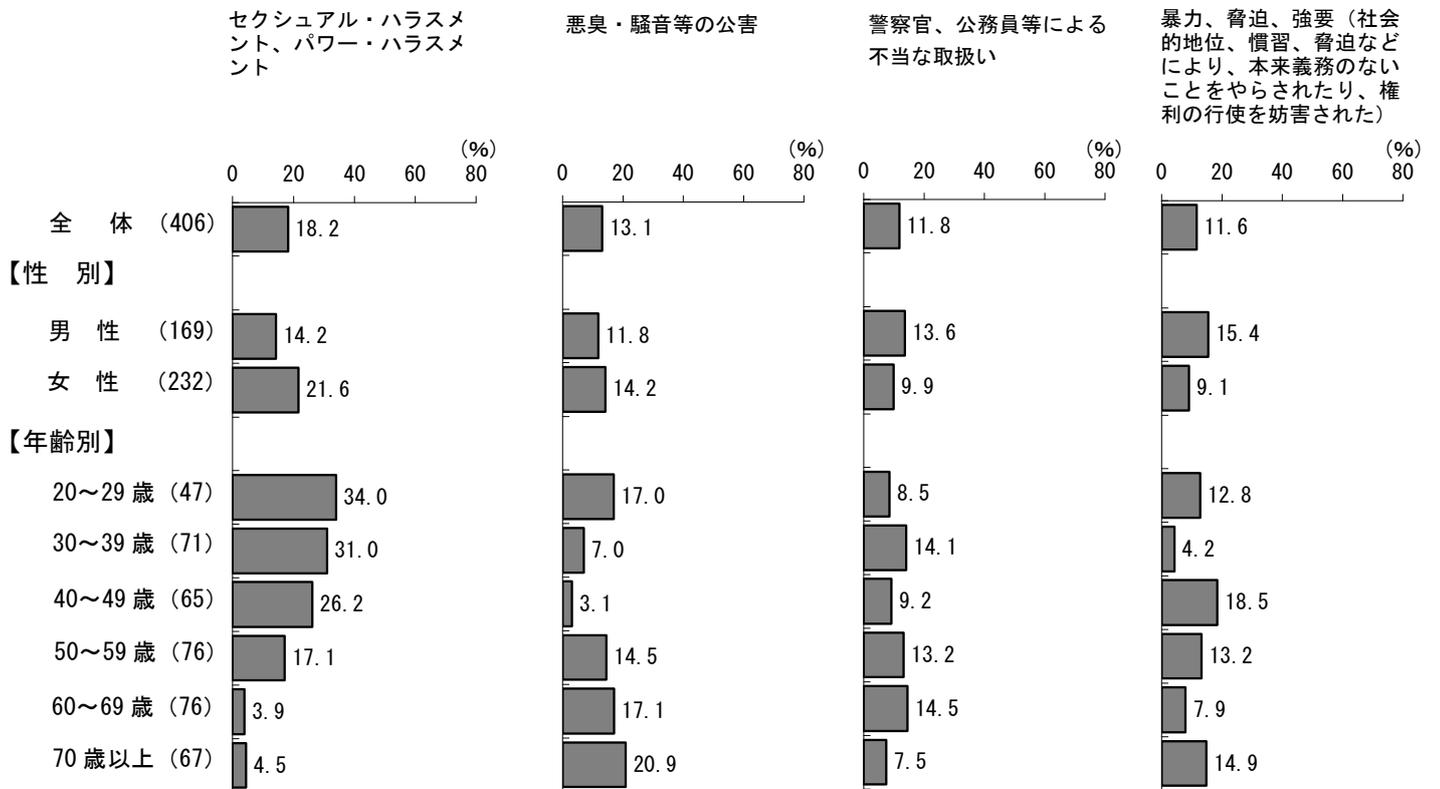
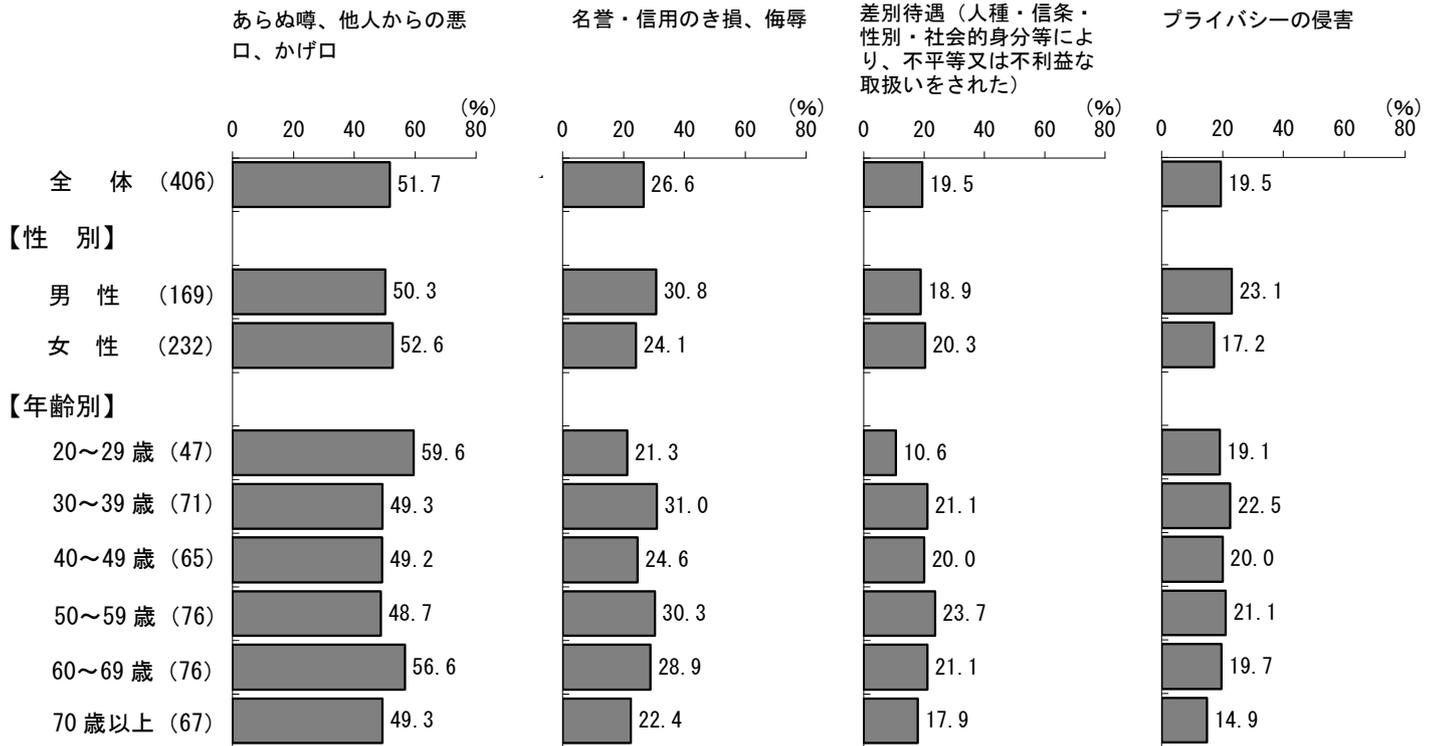
##### ①図4-1 人権侵害の内容【全体】

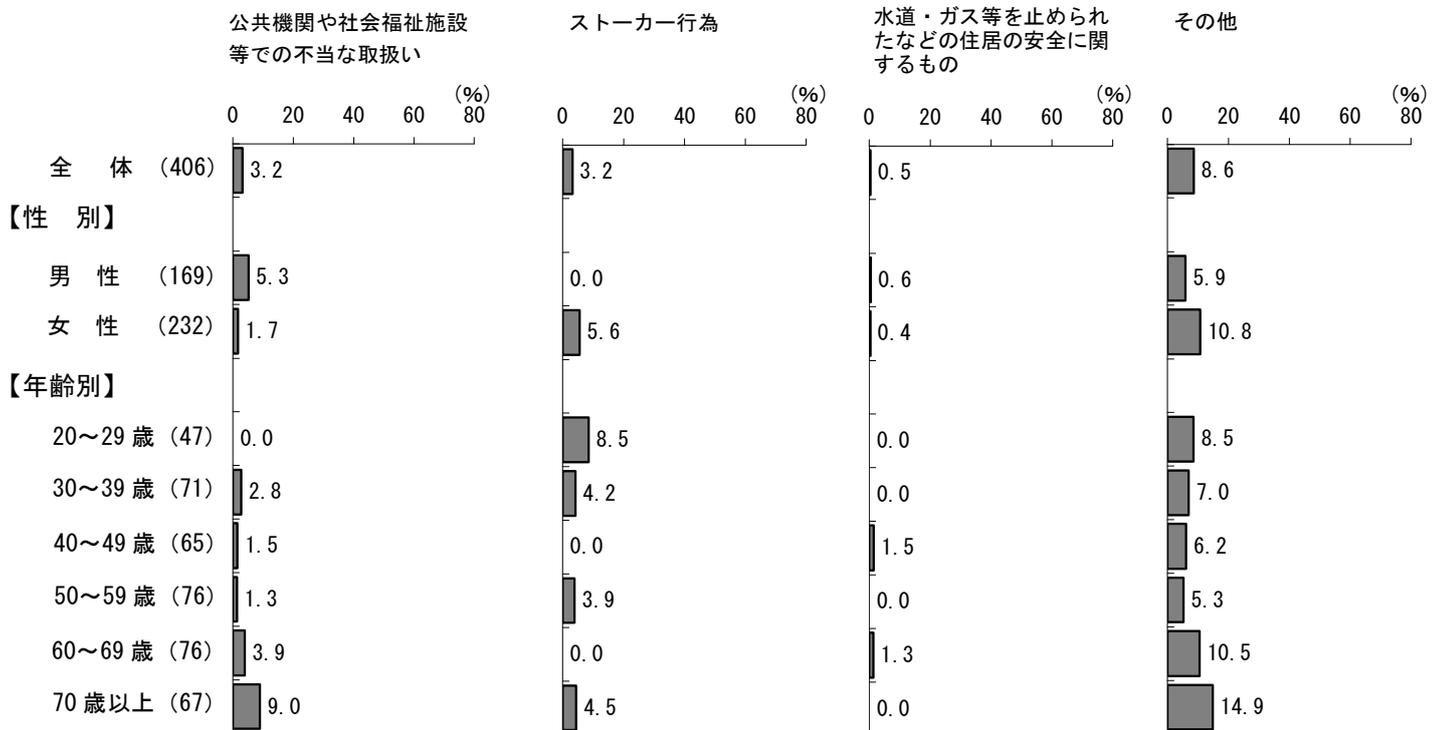
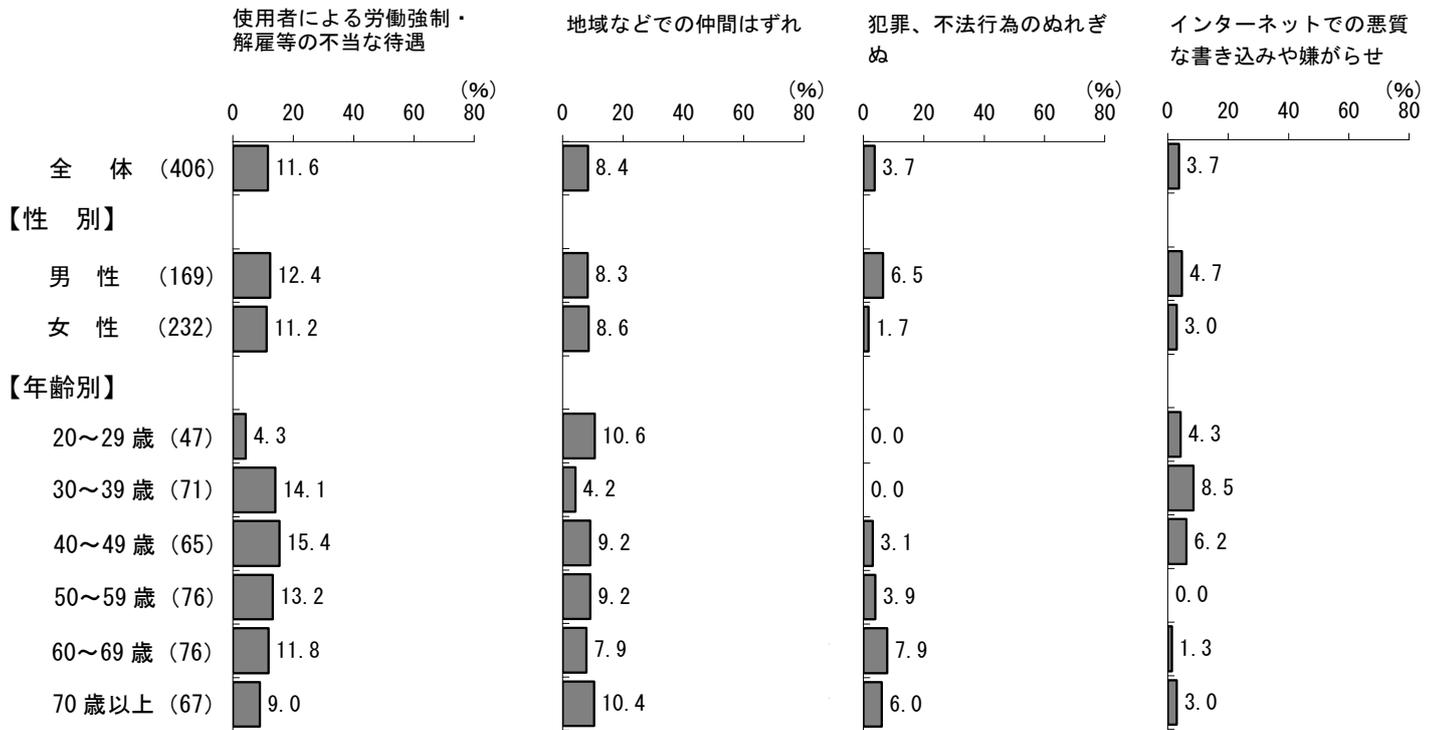


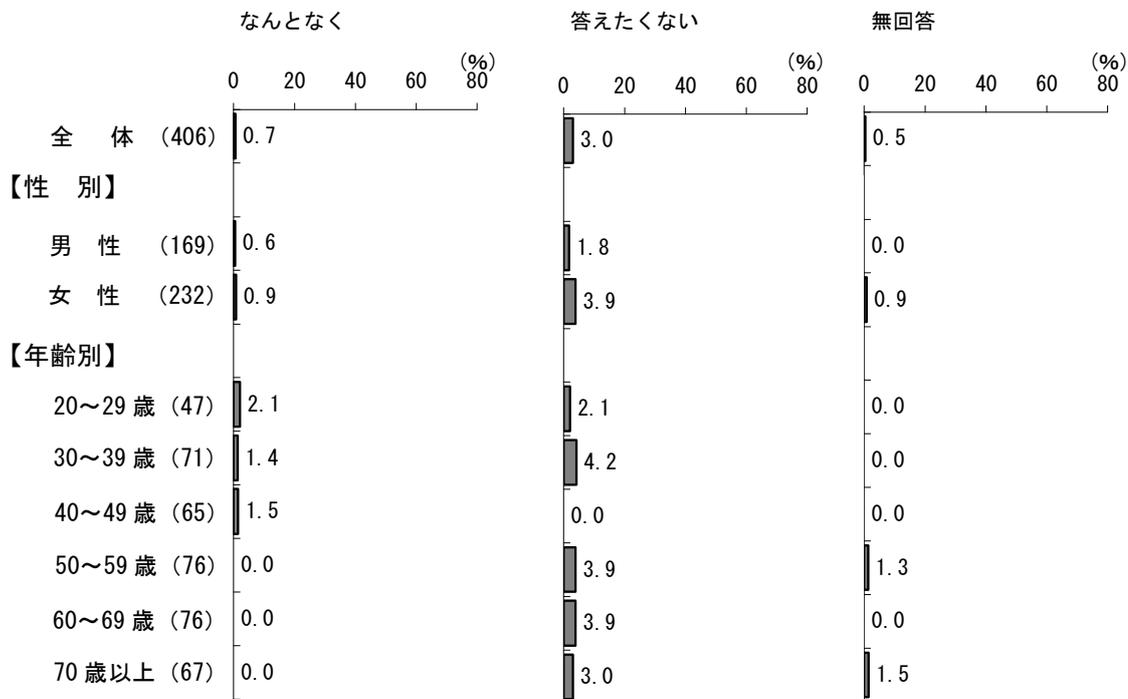
人権侵害の内容としては、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」が5割

人権侵害の内容について、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」と回答した人の割合が51.7%と最も高く、次いで「名誉・信用のき損、侮辱」(26.6%)、「差別待遇（人種・信条・性別・社会的身分等により、不平等又は不利益な取扱いをされた）」、「プライバシーの侵害」（ともに19.5%）の順となっている。

②図4-2 人権侵害の内容【性別・年齢別】







性別で比較すると、男性の方が「名誉・信用のき損、侮辱」(30.8%)、「暴力、脅迫、強要(社会的地位、慣習、脅迫などにより、本来義務のないことをやらされたり、権利の行使を妨害された)」(15.4%)、「プライバシーの侵害」(23.1%)と回答した人の割合が、女性の24.1%、9.1%、17.2%と比べそれぞれ高くなっている。また、女性の方が「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」(21.6%)、「ストーカー行為」(5.6%)と回答した人の割合が、男性の14.2%、0.0%と比べそれぞれ高くなっている。

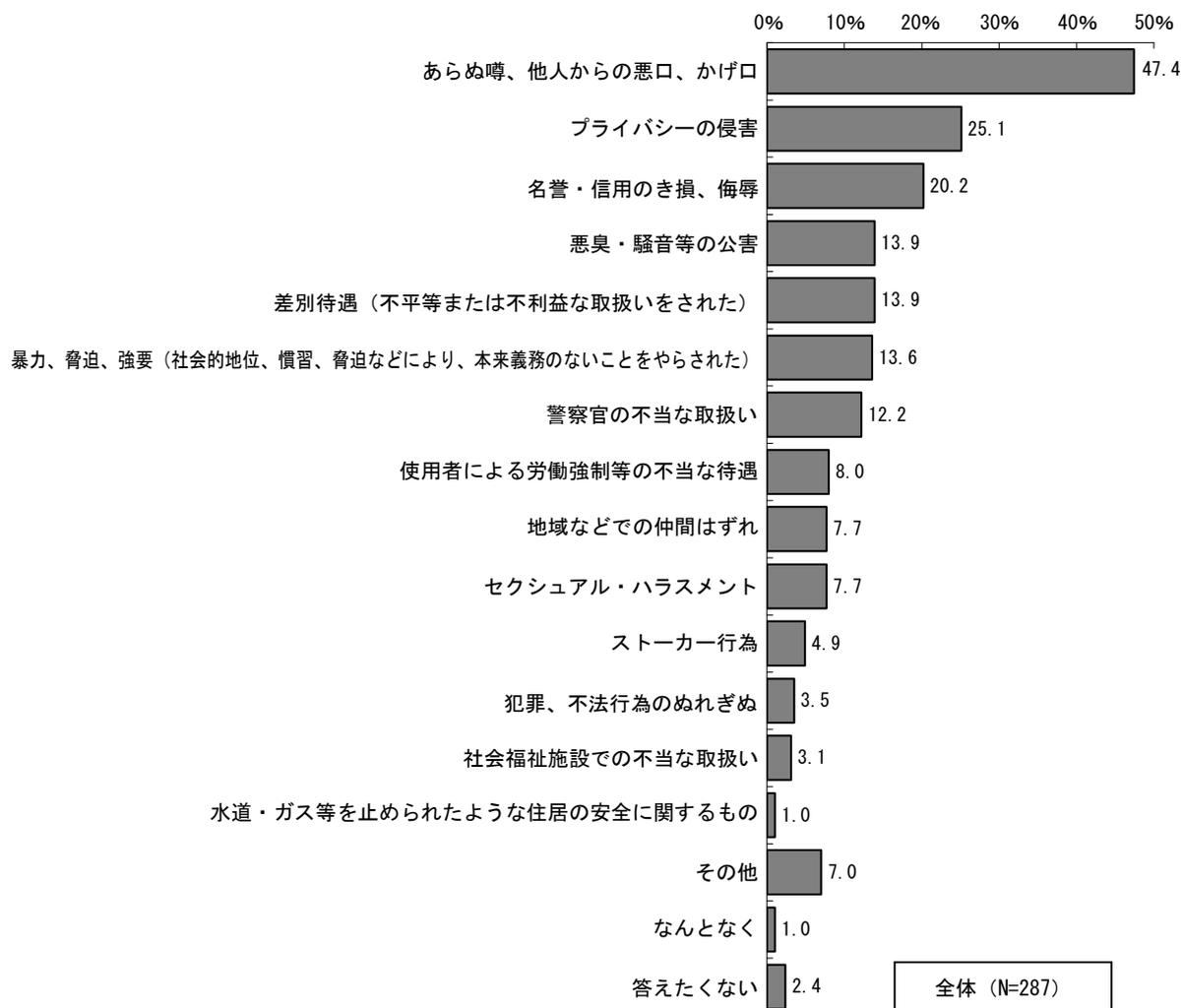
年齢別では、「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなる傾向にある。

【参 考】全国調査（平成 19 年 6 月 内閣府 人権擁護に関する世論調査）

<人権侵害の内容>

（問3で「ある」と答えた者に聞く）

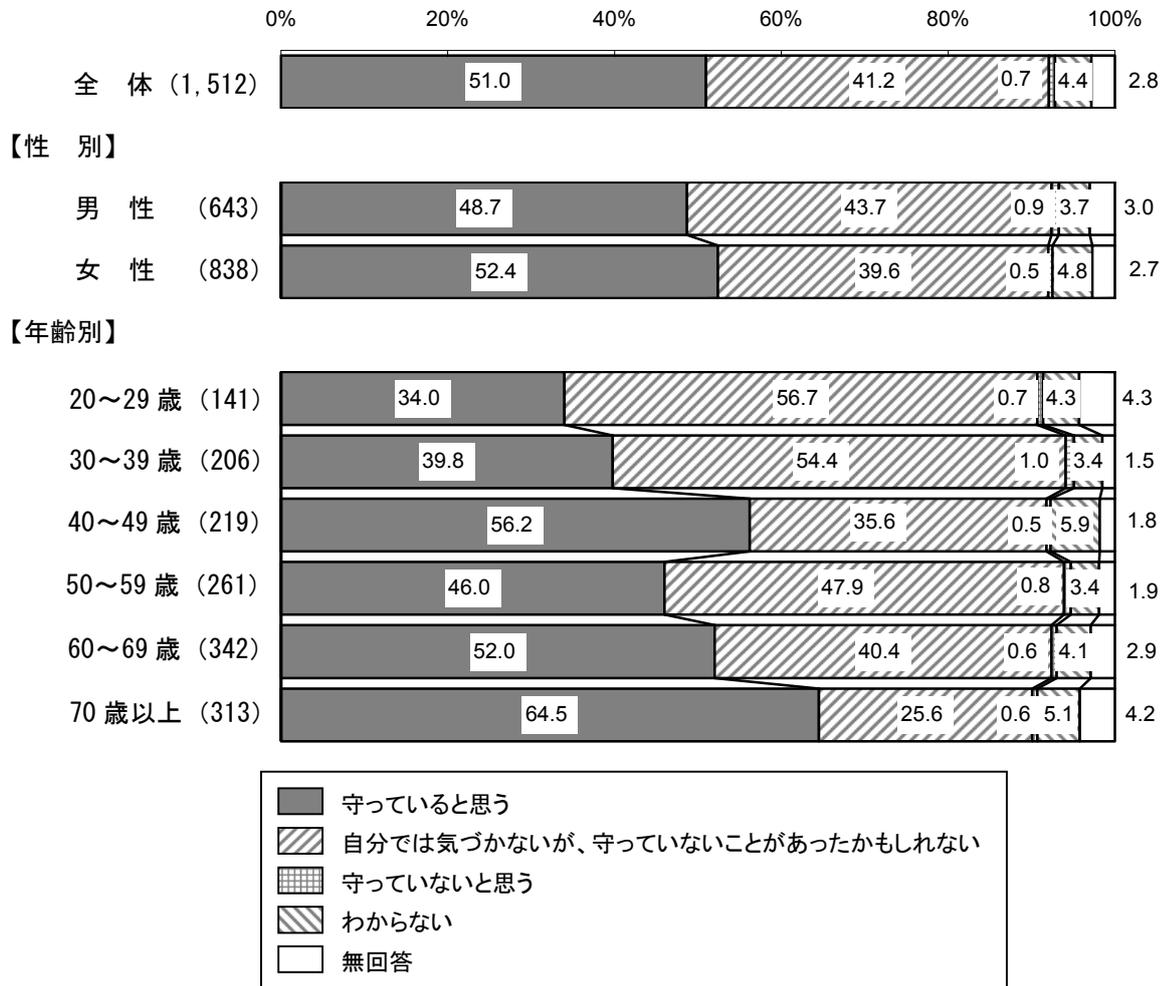
問3-1 それは、どのような場合ですか。差し支えなければこの中からいくつでもあげてください。



## ア 他人の人権の尊重

問4 あなたは、他人の人権を守っていますか。(✓は1つ)

図5 他人の人権の尊重



### 他人の人権を守っていると思う人の割合は5割

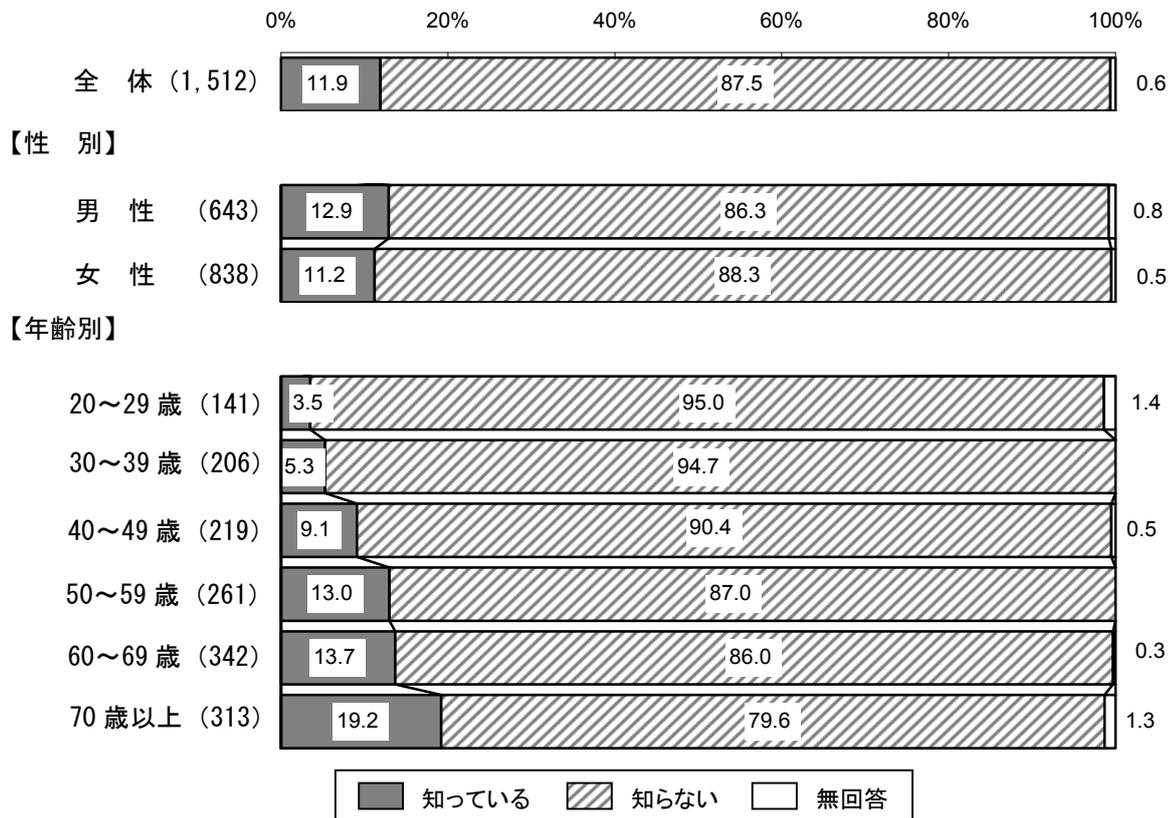
他人の人権の尊重について、「守っていると思う」と回答した人の割合が51.0%と最も高く、次いで「自分では気づかないが、守っていないことがあったかもしれない」(41.2%)、「わからない」(4.4%)、「守っていないと思う」(0.7%)の順となっている。

年齢別では、「守っていると思う」と回答した人の割合が、20～39歳では4割に満たないのに対し、70歳以上では64.5%と高くなっている。

## イ 岡山県人権政策推進指針の周知度

問5 岡山県では、幅広い人権課題への対応や、より一層の人権尊重を踏まえた行政の推進など、人権に関する総合的な取組を推進するため、平成18年2月に「改訂岡山県人権政策推進指針」を策定し、人権施策を推進していますが、あなたは、この「改訂岡山県人権政策推進指針」を知っていますか。(✓は1つ)

図6 岡山県人権政策推進指針の周知度



### 岡山県人権政策推進指針の周知度は1割

岡山県人権政策推進指針の周知度について、「知っている」と回答した人の割合は11.9%、「知らない」と回答した人の割合は87.5%となっている。

年齢別では、「知っている」と回答した人の割合は、年齢が高くなるにつれて高くなっている。

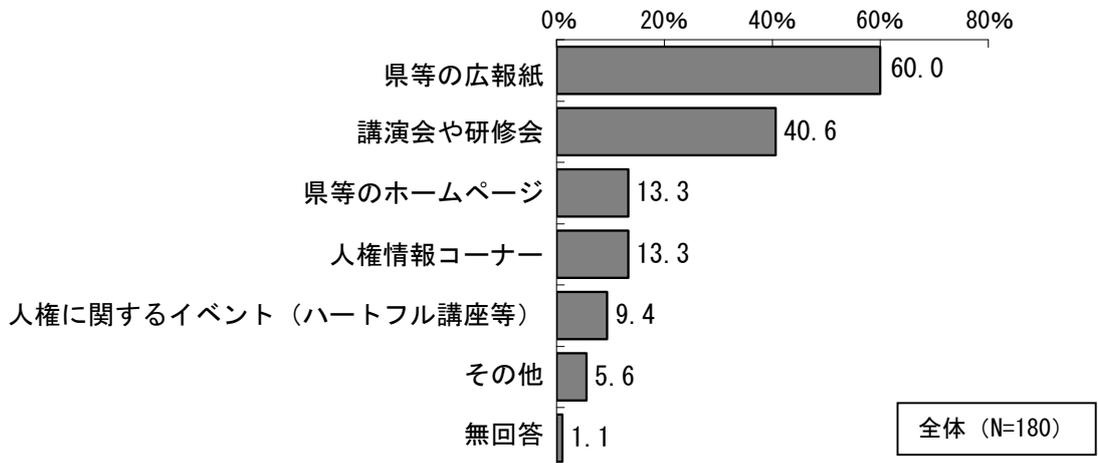
ウ 岡山県人権政策推進指針を知ったきっかけ

問5-1 【問5で「1 知っている」を選んだ人のみ回答】

あなたが、「改訂岡山県人権政策推進指針」を知ったきっかけは何からですか。

(✓はいくつでも)

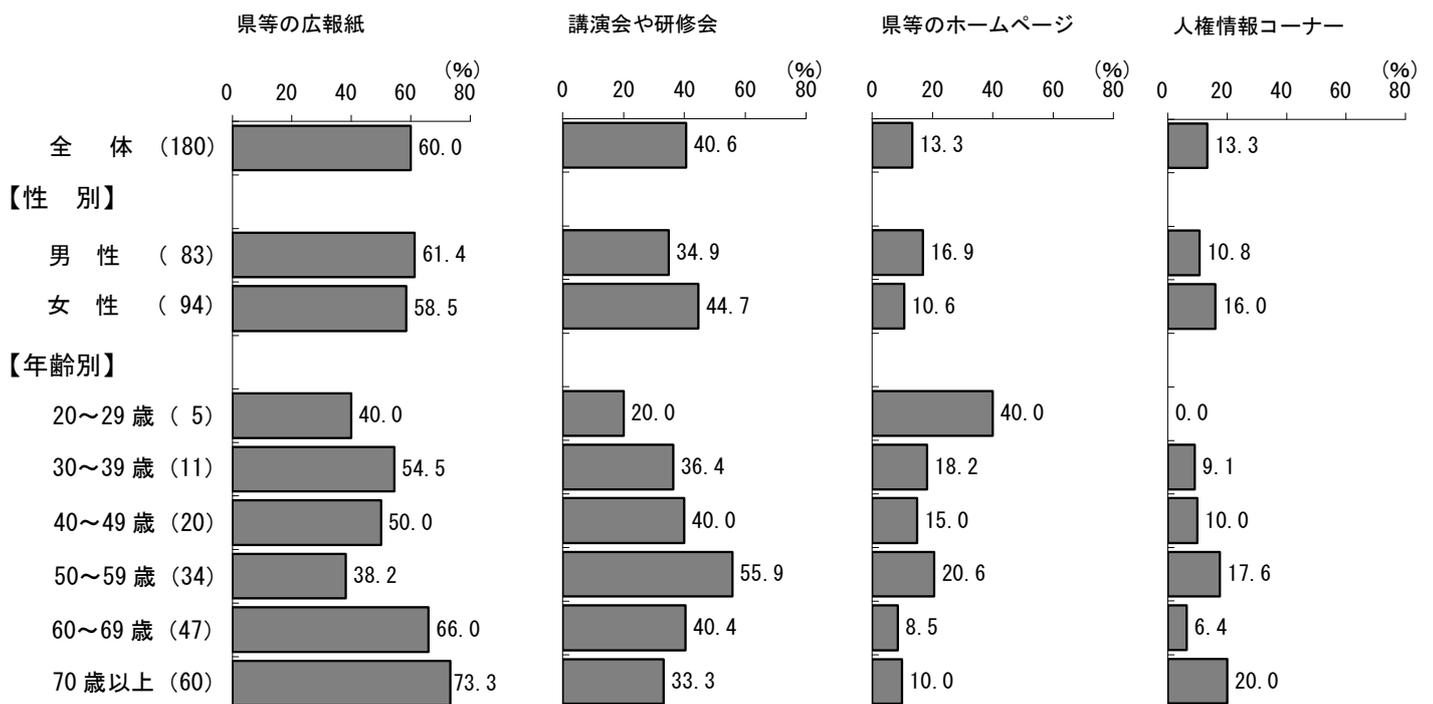
①図7-1 岡山県人権政策推進指針を知ったきっかけ【全体】

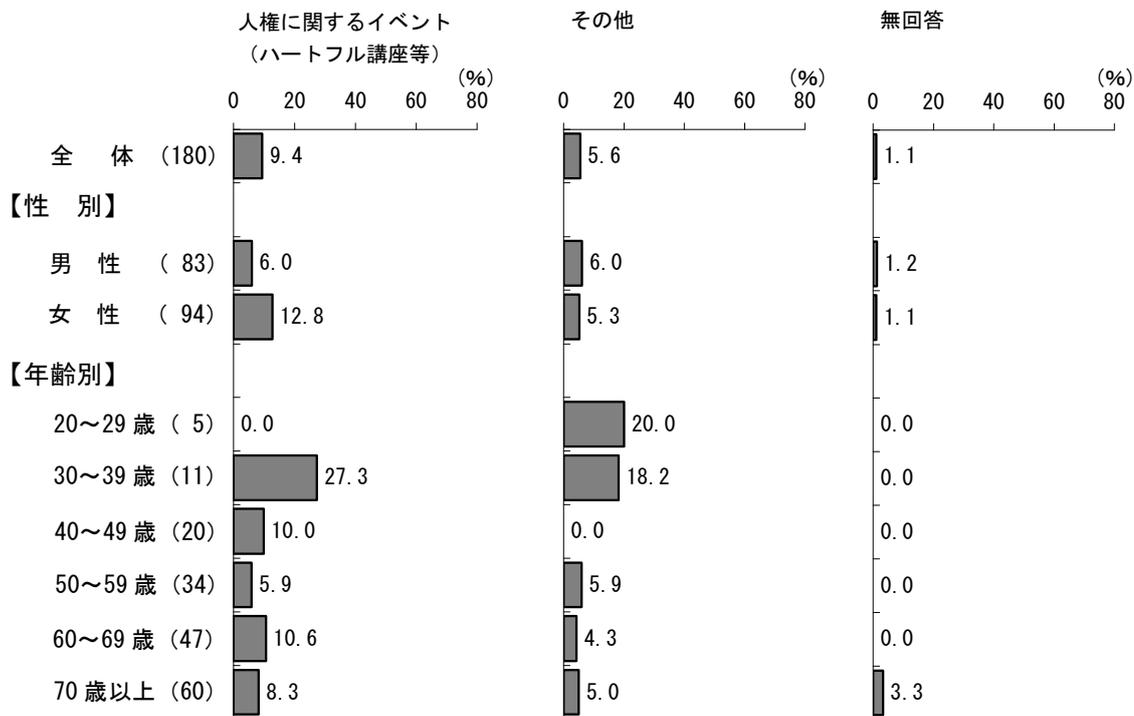


岡山県人権政策推進指針を知ったきっかけは、「県等の広報紙」が6割、「講演会や研修会」が4割

岡山県人権政策推進指針を知ったきっかけについて、「県等の広報紙」と回答した人の割合が60.0%と最も高く、次いで「講演会や研修会」(40.6%)、「県等のホームページ」、「人権情報コーナー」(ともに13.3%)の順となっている。

②図7-2 岡山県人権政策推進指針を知ったきっかけ【性別・年齢別】





性別で比較すると、男性の方が「県等のホームページ」と回答した人の割合が16.9%と、女性の10.6%と比べて高くなっている。また、女性の方が「講演会や研修会」(44.7%)、「人権に関するイベント (ハートフル講座等)」(12.8%)と回答した人の割合が、男性の34.9%、6.0%と比べて高くなっている。

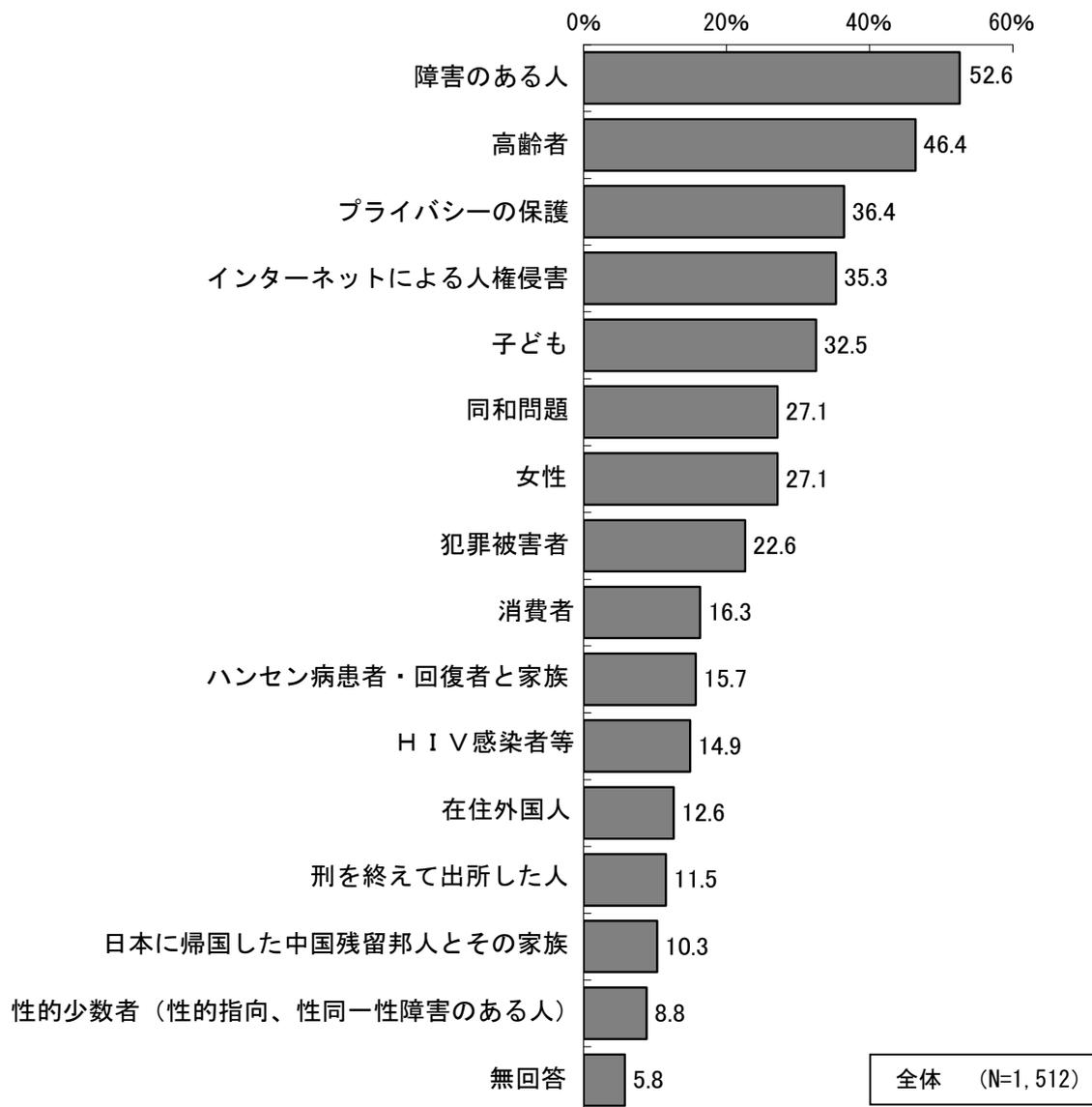
年齢別で比較すると、「県等の広報紙」では60歳以上で、「講演会や研修会」では50～59歳で、「県等のホームページ」では20～29歳で、「人権に関するイベント (ハートフル講座等)」では30～39歳で回答した人の割合がそれぞれ高くなっている。

## 2 主な人権課題に関する意識について

### (1)人権課題に対する関心

問6 「改訂岡山県人権政策推進指針」に掲げている次の人権課題について、あなたの関心があるものはどれですか。(✓はいくつでも)

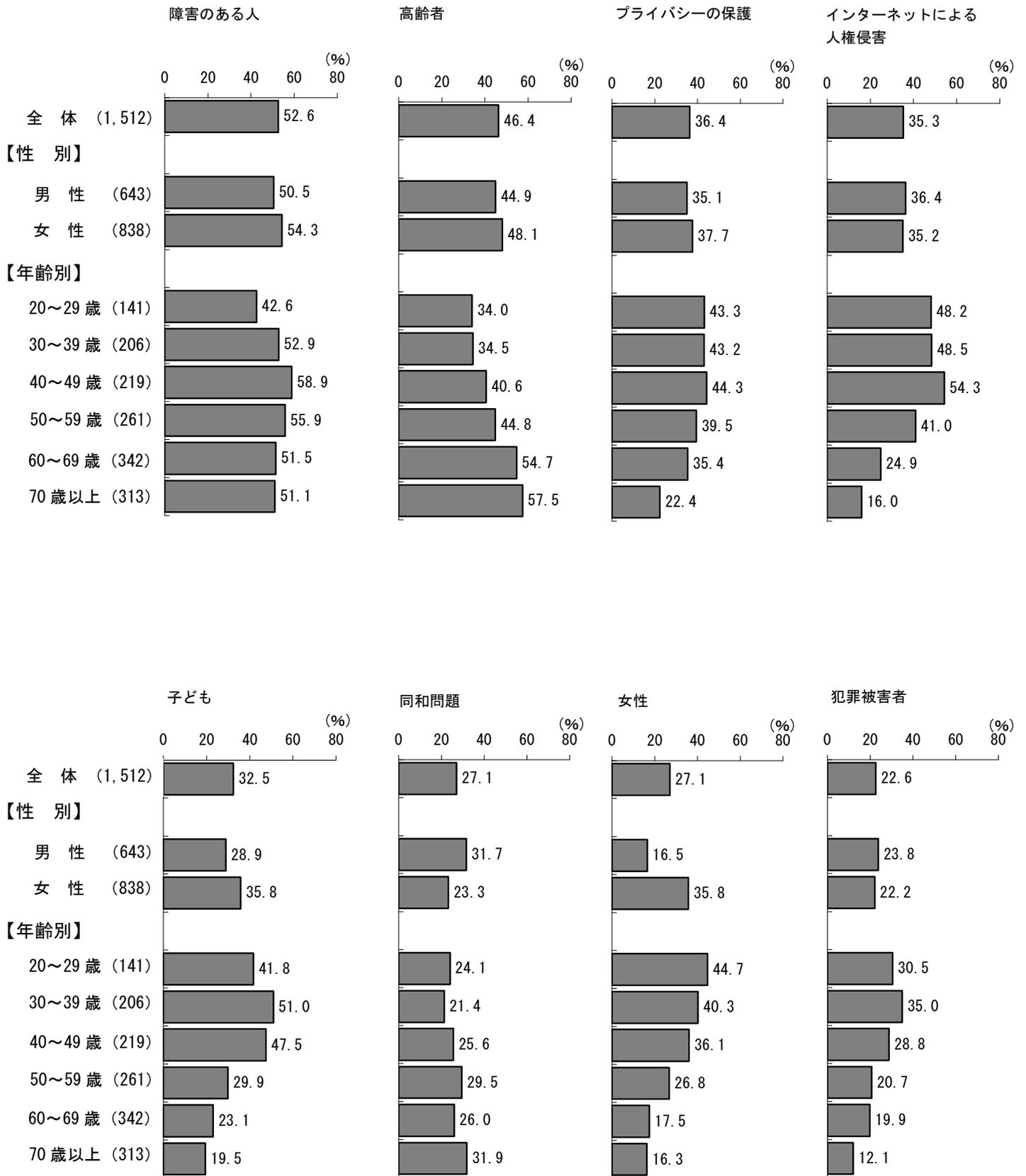
①図8-1 人権課題に対する関心【全体】

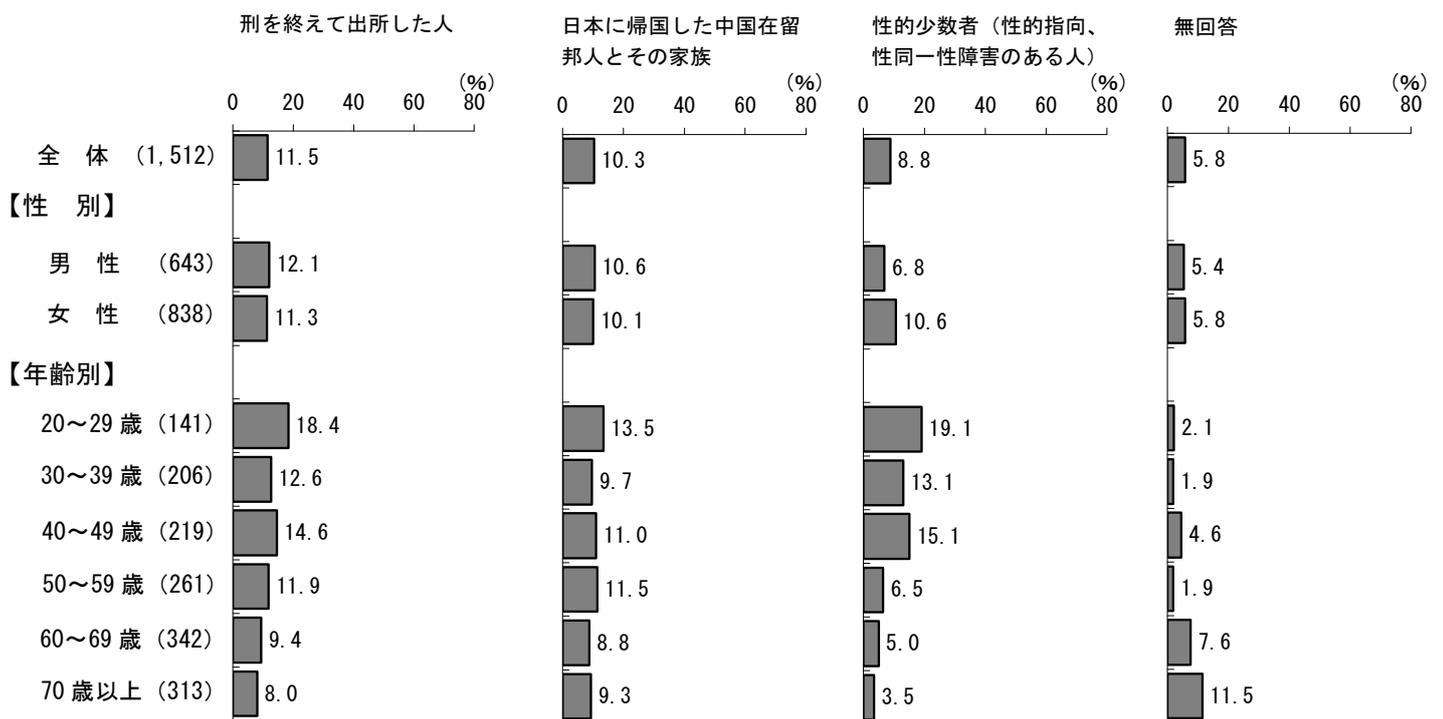
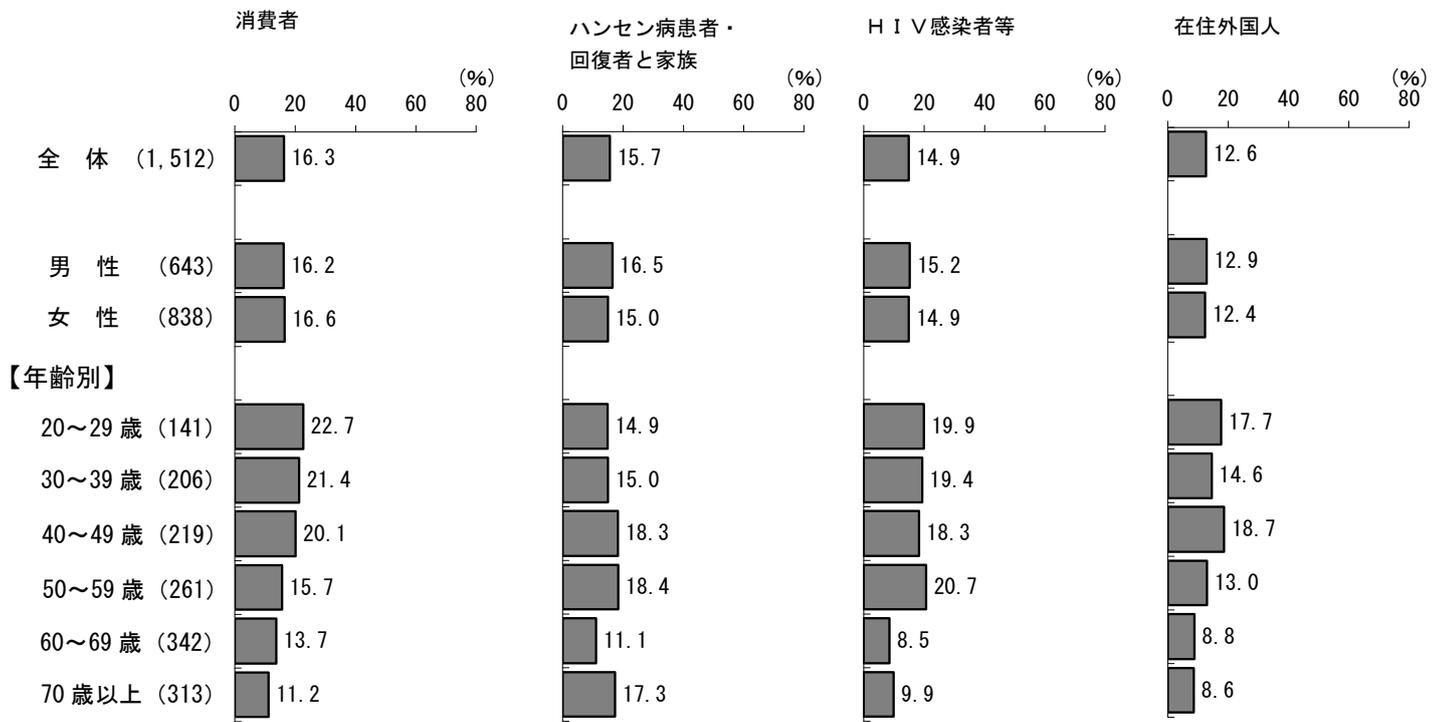


### 関心がある人権課題は「障害のある人」、「高齢者」が5割

「改訂岡山県人権政策推進指針」に掲げている人権課題に対する関心について、「障害のある人」と回答した人の割合が52.6%と最も高く、次いで「高齢者」(46.4%)、「プライバシーの保護」(36.4%)の順となっている。

②図8-2 人権課題に対する関心【性別・年齢別】





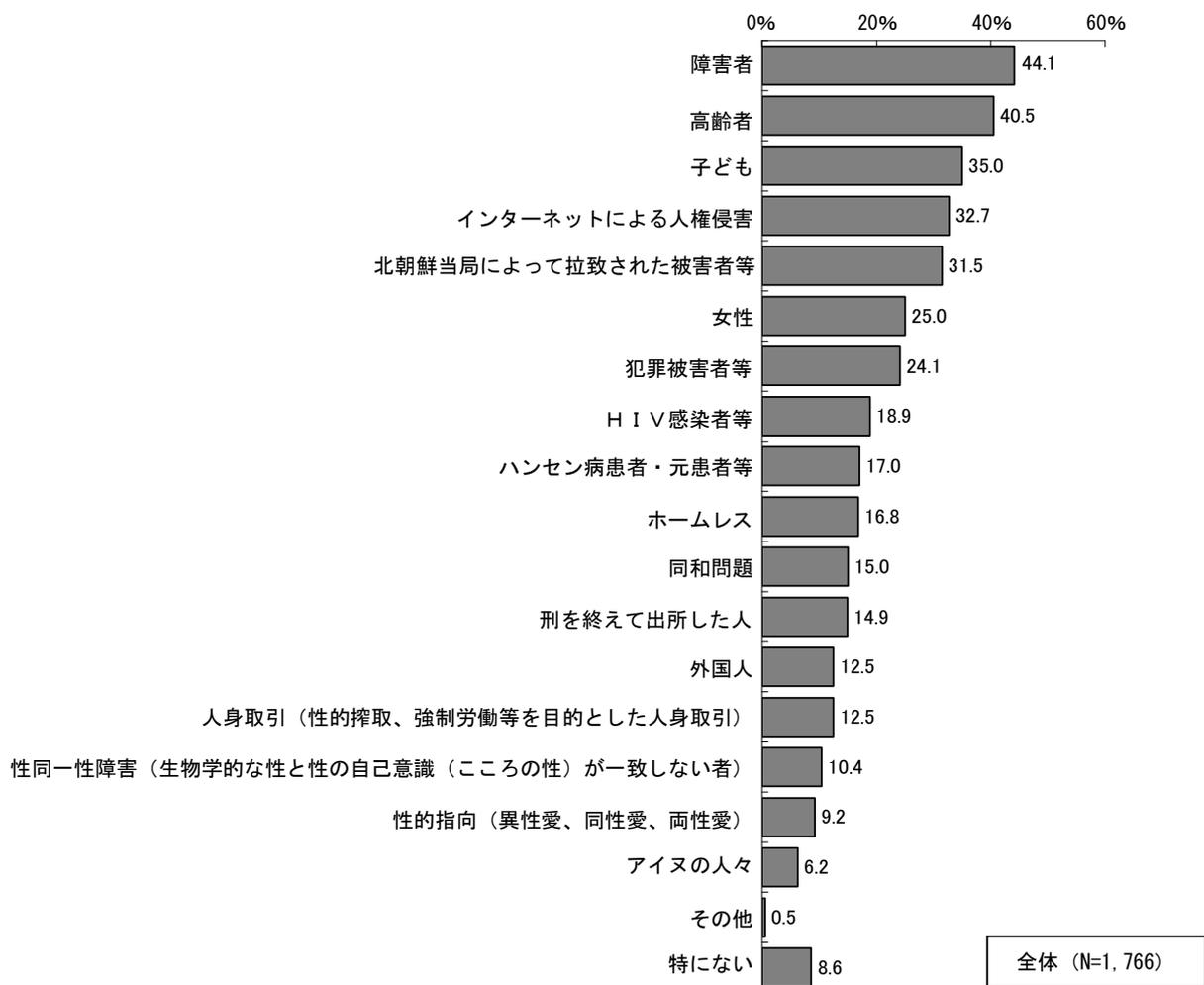
性別で比較すると、男性の方が「同和問題」と回答した人の割合が31.7%と、女性の23.3%と比べて高くなっている。また、女性の方が「女性」(35.8%)、「子ども」(35.8%)と回答した人の割合が、男性の16.5%、28.9%と比べて高くなっている。

年齢別で比較すると、「プライバシーの保護」、「インターネットによる人権侵害」では20～49歳で回答した人の割合がそれぞれ高くなっている。また、年齢が低くなるにつれて「女性」と回答した人の割合が高く、「高齢者」と回答した人の割合が低くなる傾向がある。

【参 考】全国調査（平成 19 年 6 月 内閣府 人権擁護に関する世論調査）

＜人権課題に対する関心＞

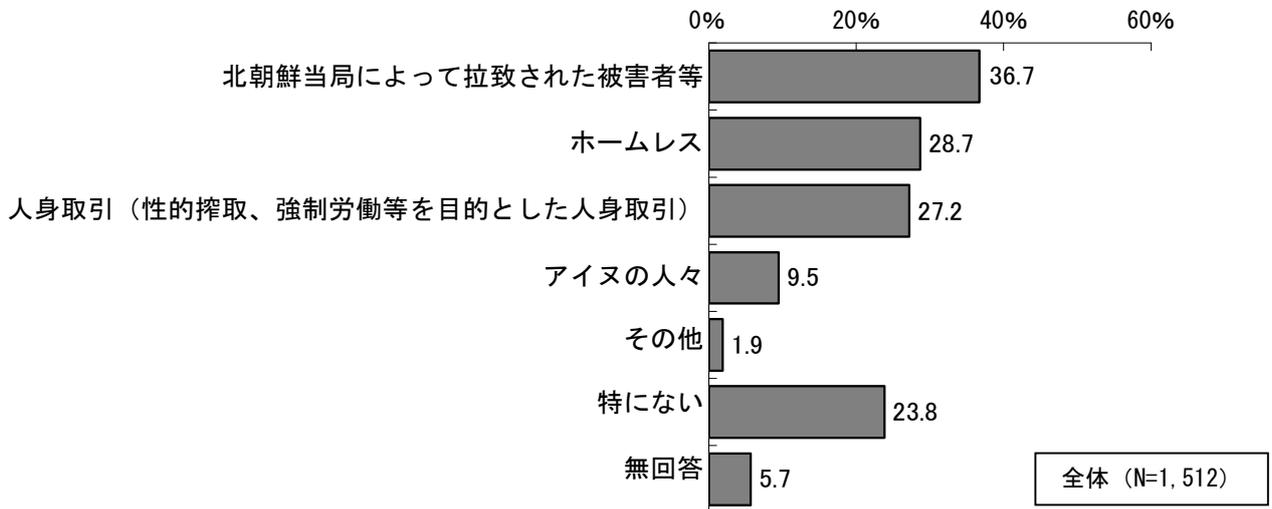
問 5 日本における人権課題について、あなたの関心があるものはどれですか。この中からいくつでもあげてください。



ア 岡山県人権政策推進指針に加えたい人権課題

問7 次の人権課題の中で「次回改訂する指針」に新たに加えたらよいと思われるものはどれですか。(✓は2つまで)

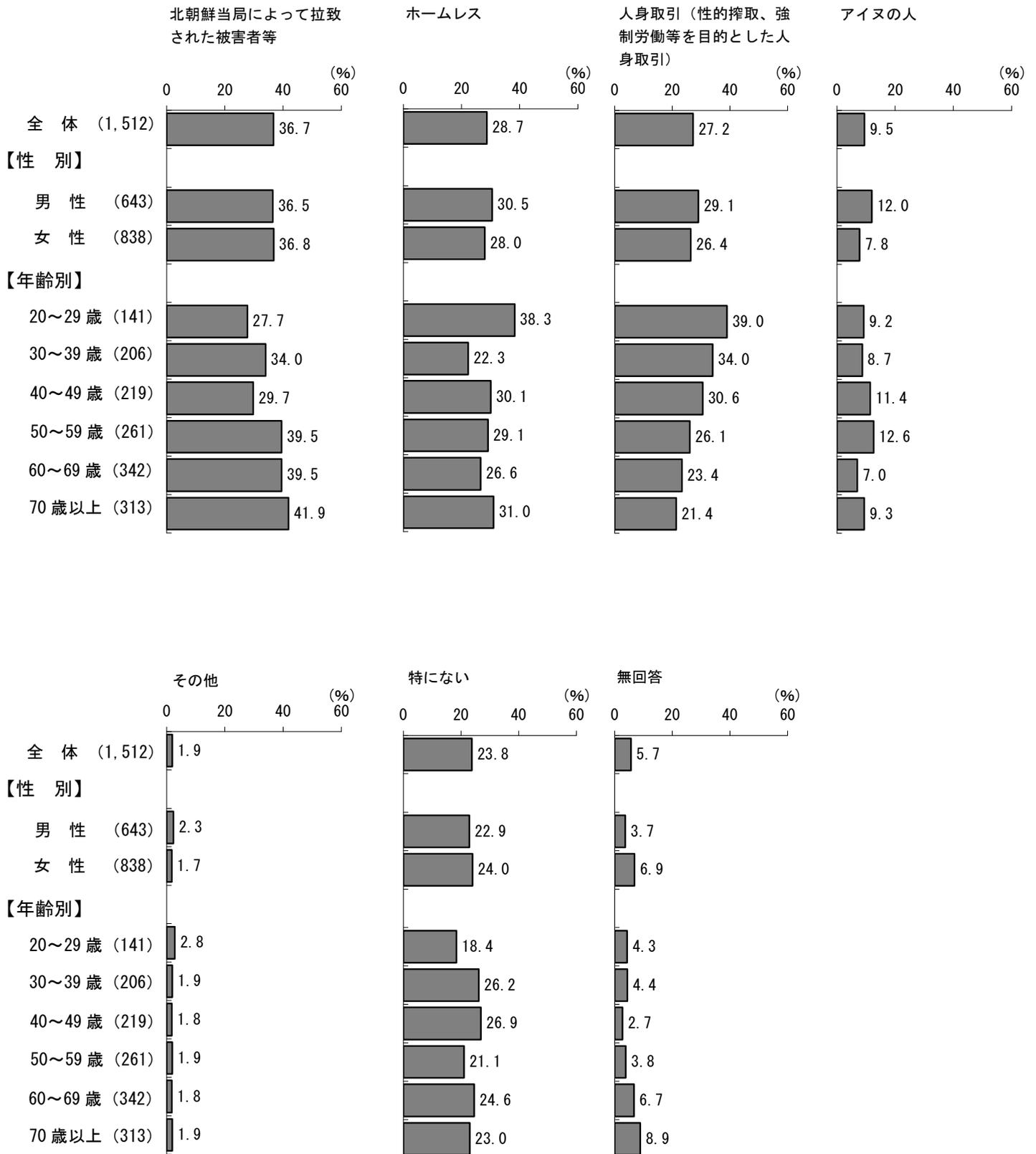
①図9-1 岡山県人権政策推進指針に加えたい人権課題【全体】



加えたい人権課題について、「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」が4割、「ホームレス」、「人身取引」の2つが3割

岡山県人権政策推進指針に加えたい人権課題について、「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」と回答した人の割合が36.7%と最も高く、次いで「ホームレス」(28.7%)、「人身取引（性的搾取、強制労働等を目的とした人身取引）」(27.2%)の順となっている。

②図9-2 岡山県人権政策推進指針に加えたい人権課題【性別・年齢別】

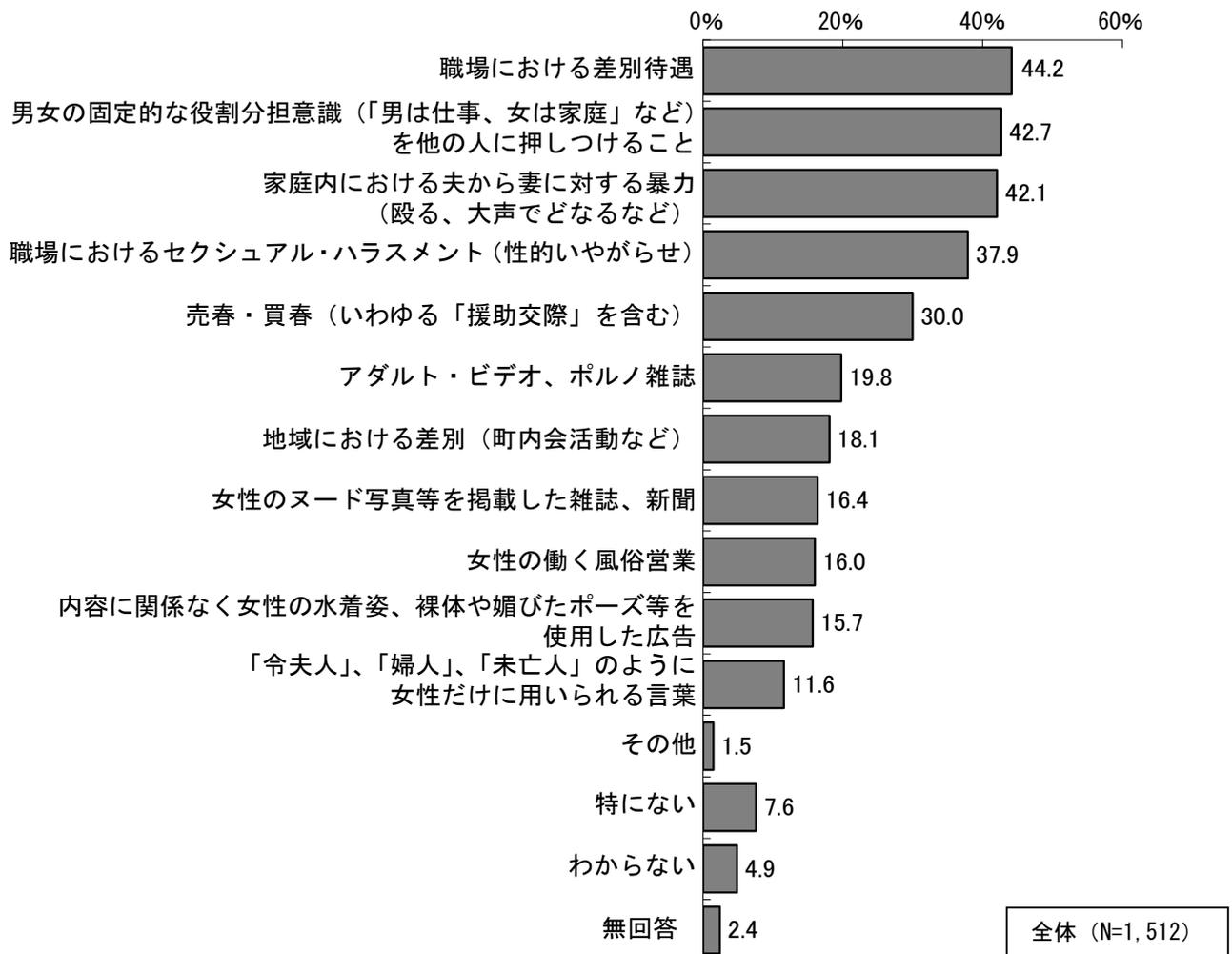


年齢別で比較すると、「ホームレス」では20~29歳で回答した人の割合が38.3%と高くなっている。また、年齢が低くなるにつれて、「人身取引 (性的搾取、強制労働等を目的とした人身取引)」と回答した人の割合が高くなっている。

(2)女性に関する人権上の問題点

問8 あなたは、女性に関する事柄で、人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓はいくつでも)

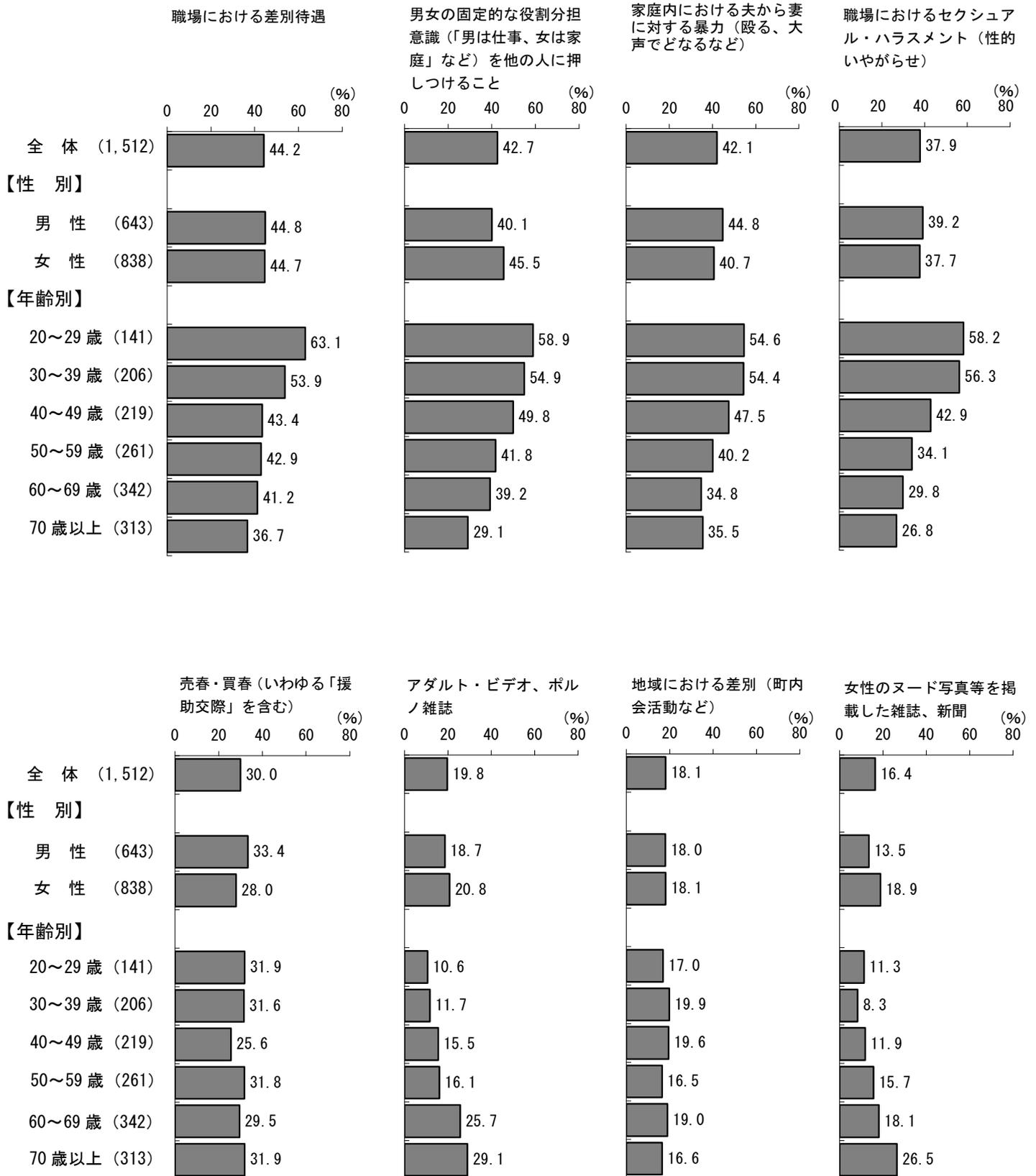
①図 10-1 女性に関する人権上の問題点【全体】

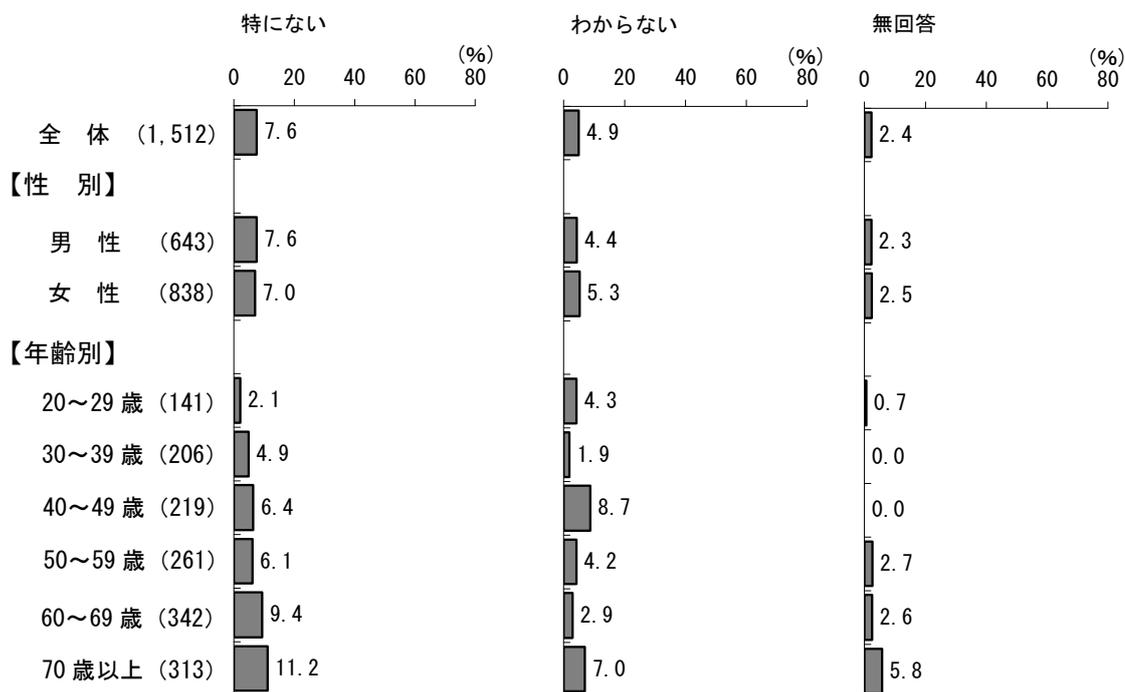
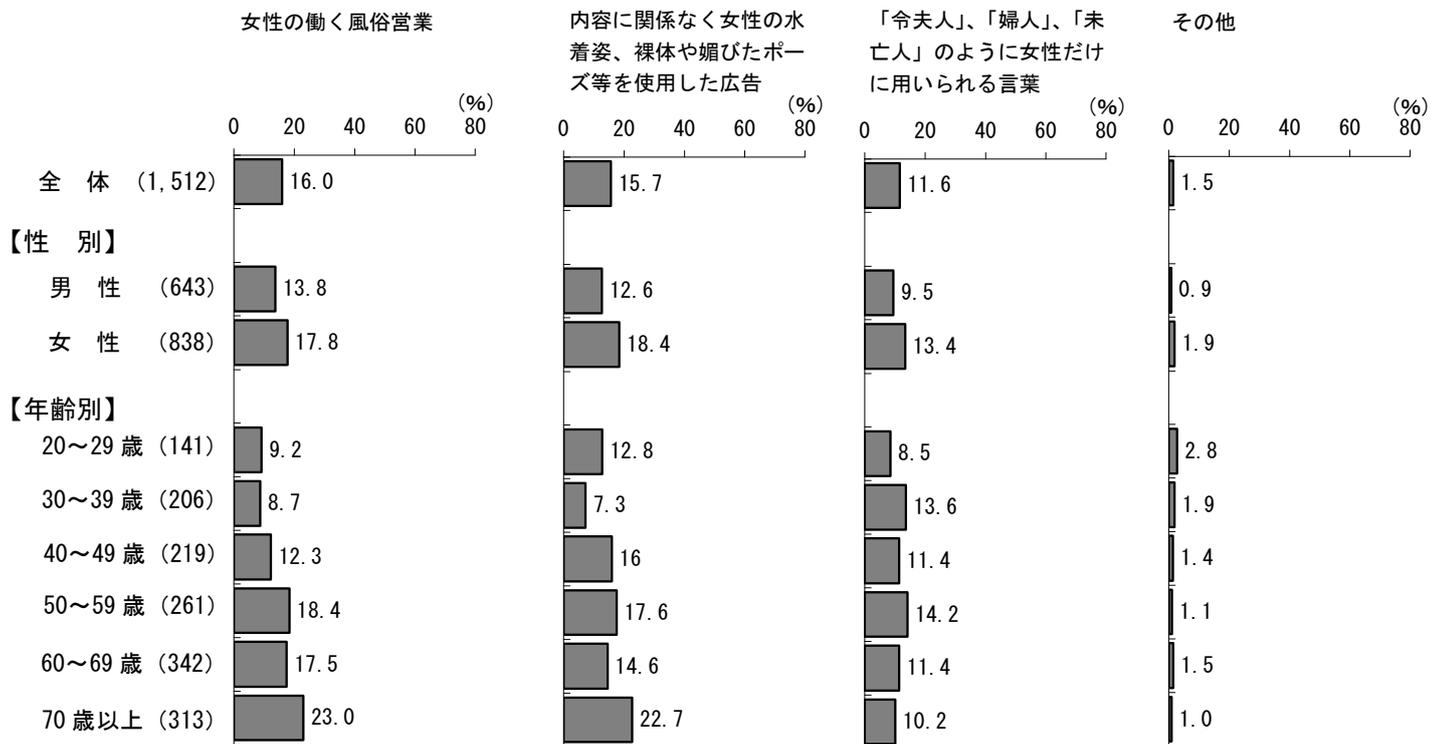


女性に関する人権問題について、「職場における差別待遇」、「男女の固定的な役割分担意識を他の人に押し付けること」、「家庭内における夫から妻に対する暴力」の3つが4割以上

女性に関する人権上の問題点について、「職場における差別待遇」と回答した人の割合が44.2%と最も高く、次いで「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」などを他の人に押しつけること）（42.7%）、「家庭内における夫から妻に対する暴力（殴る、大声でどなるなど）」（42.1%）の順となっている。

②図 10-2 女性に関する人権上の問題点【性別・年齢別】





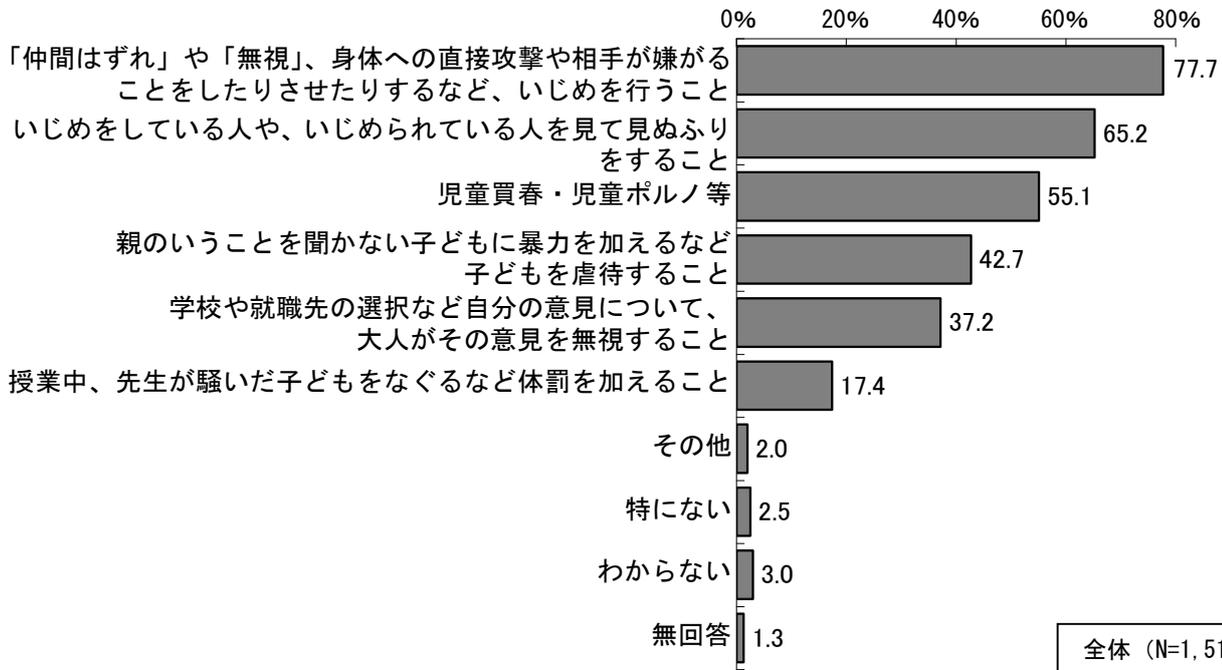
性別で比較すると、女性の方が「内容に関係なく女性の水着姿、裸体や媚びたポーズなどを使用した広告」と回答した人の割合が18.4%と、男性の12.6%と比べて高くなっている。

年齢別では、年齢が低くなるにつれて「職場における差別待遇」、「男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）を他の人に押しつけること」、「家庭内における夫から妻に対する暴力（殴る、大声でどなるなど）」、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」と回答した人の割合がそれぞれ高くなる傾向がある。

### (3)子どもに関する人権上の問題点

問9 あなたは、子どもに関する事柄で、人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓はいくつでも)

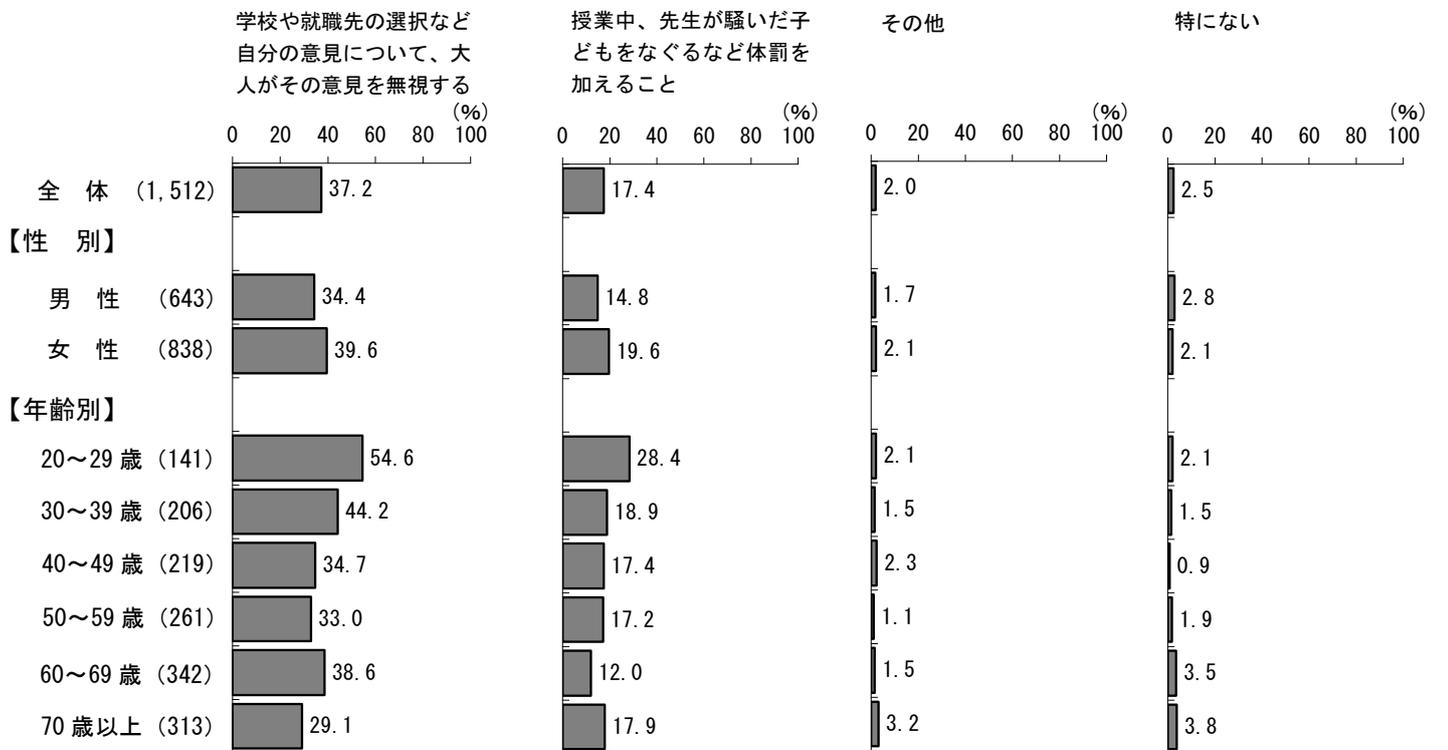
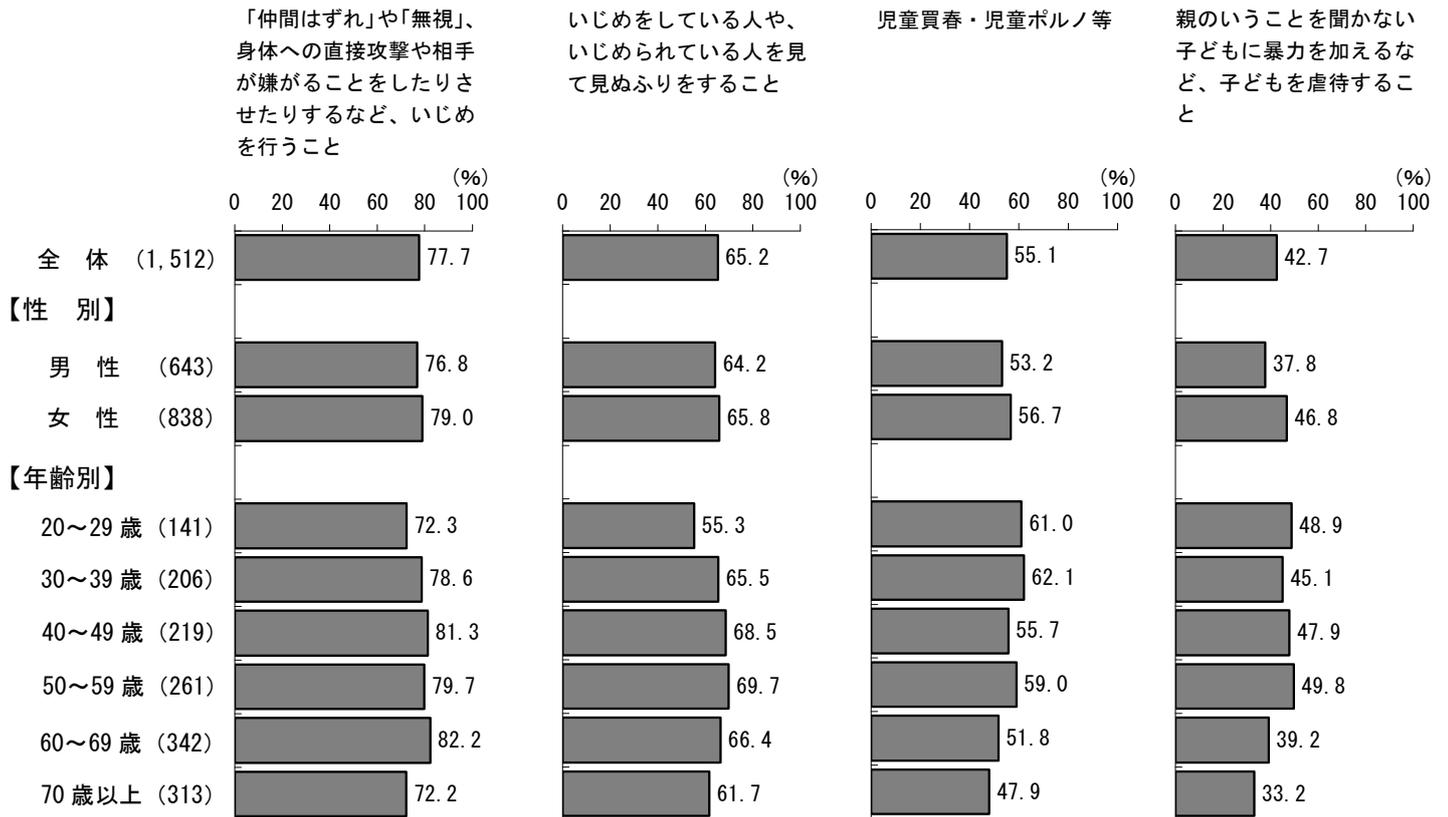
①図 11-1 子どもに関する人権上の問題点【全体】

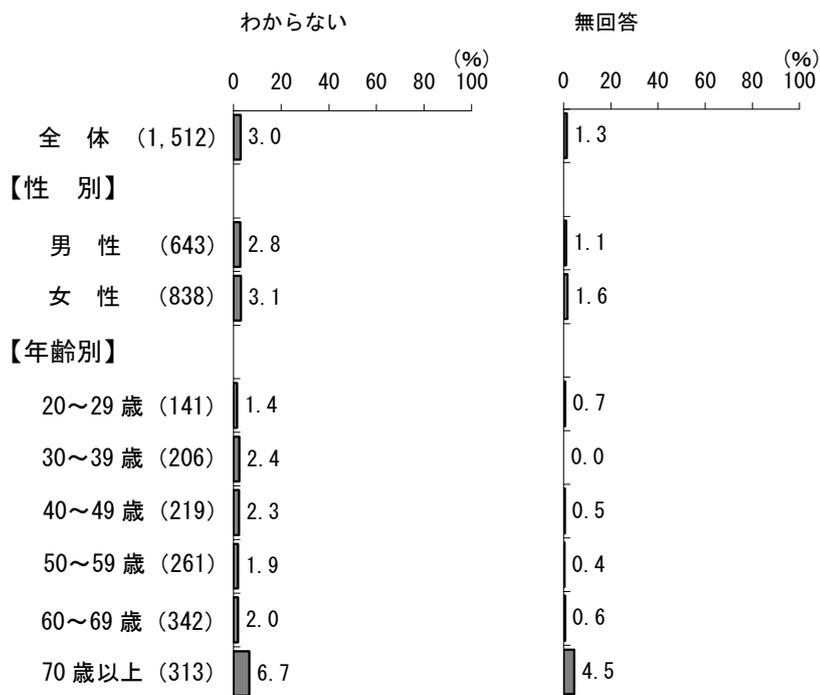


子どもに関する人権問題について、「『仲間はずれ』や『無視』、身体への直接攻撃や相手が嫌がることをしたりさせたりするなど、いじめを行うこと」が8割

子どもに関する人権上の問題点について、「『仲間はずれ』や『無視』、身体への直接攻撃や相手が嫌がることをしたりさせたりするなど、いじめを行うこと」と回答した人の割合が77.7%と最も高く、次いで「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする」(65.2%)、「児童買春・児童ポルノ等」(55.1%)の順となっている。

②図 11-2 子どもに関する人権上の問題点【性別・年齢別】





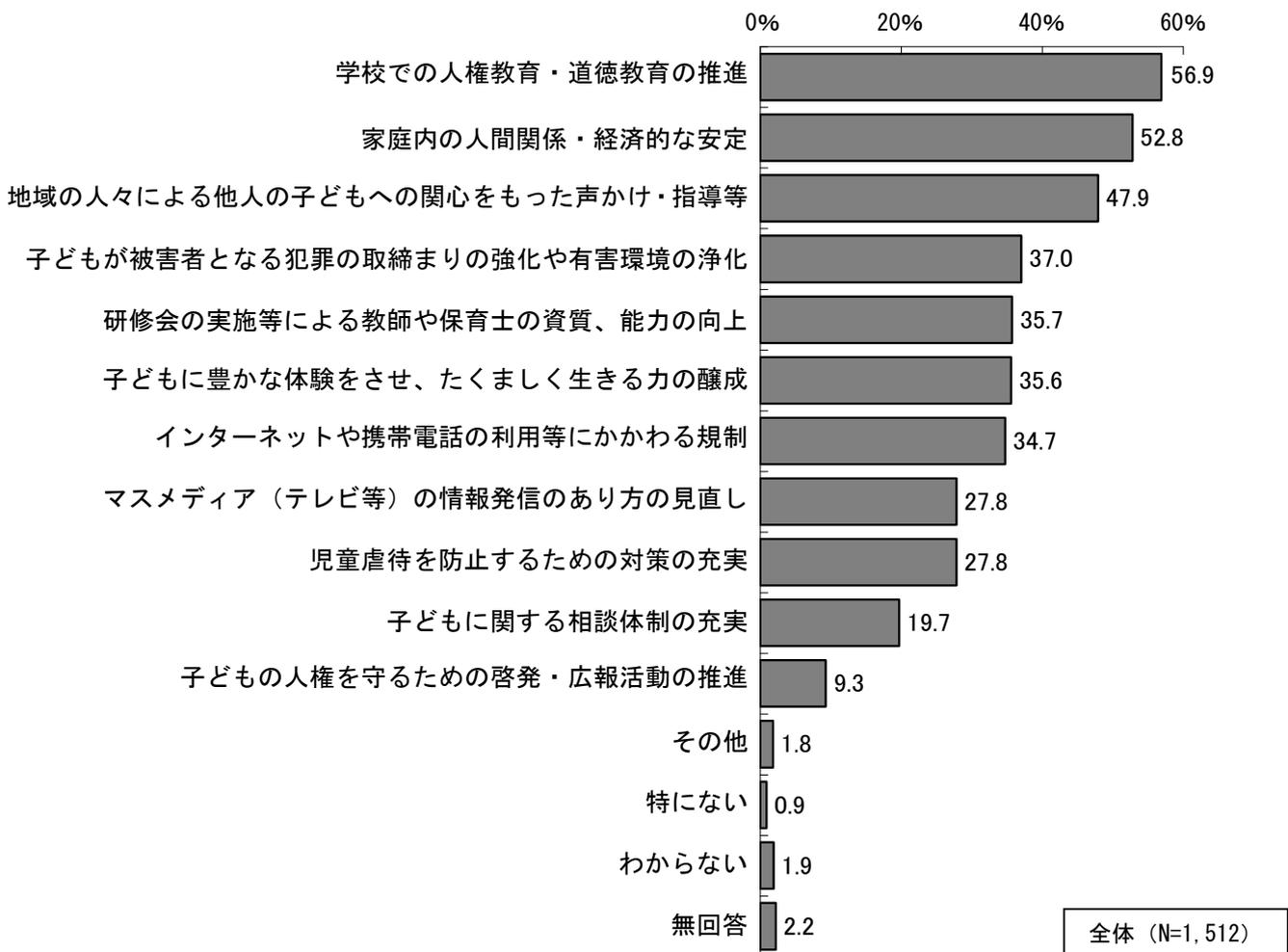
性別で比較すると、女性の方が「親のいうことを聞かない子どもに暴力を加えるなど子どもを虐待すること」と回答した人の割合が46.8%と、男性の37.8%と比べて高くなっている。

年齢別で比較すると、「学校や就職先の選択など自分の意見について、大人がその意見を見做ること」、「授業中、先生が騒いだ子どもをなぐるなど体罰を加えること」では20～29歳で回答した人の割合が高くなっている。

## ア 子どもの人権を守るために必要なこと

問 10 子どもの人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(✓は5つまで)

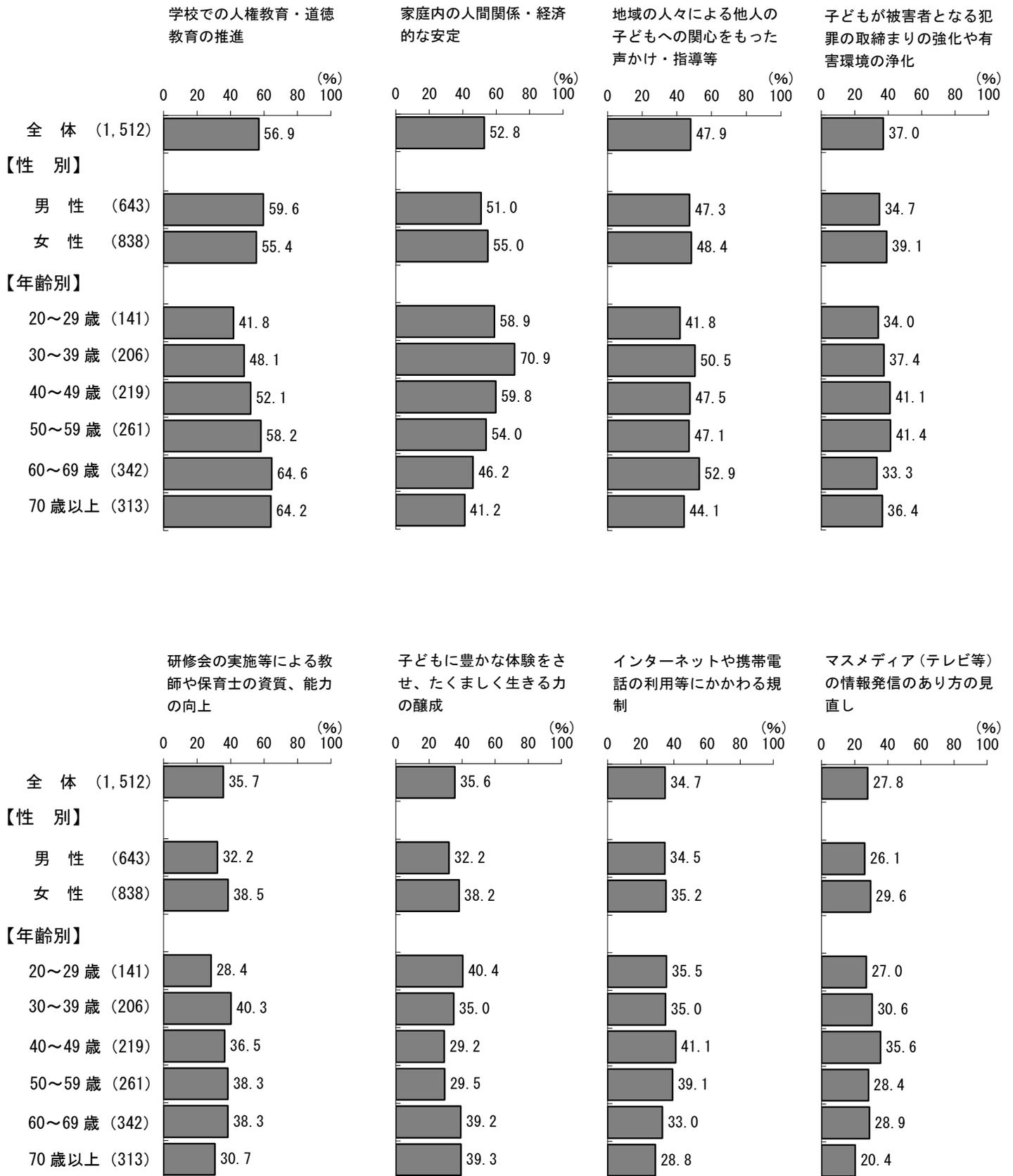
①図 12-1 子どもの人権を守るために必要なこと【全体】

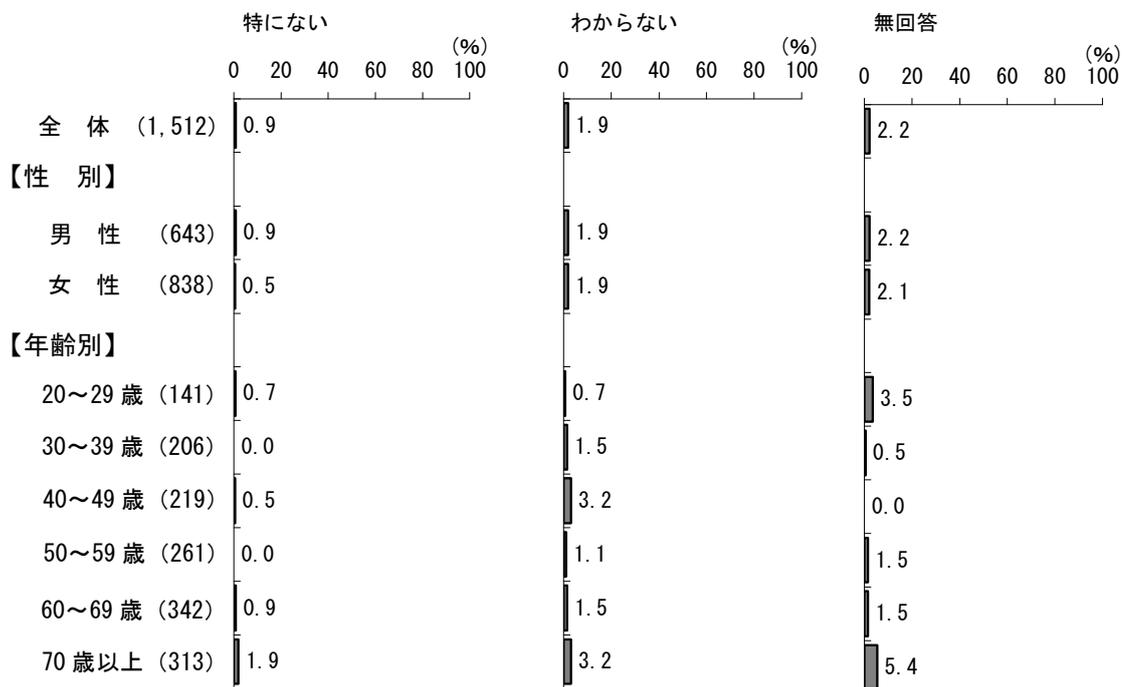
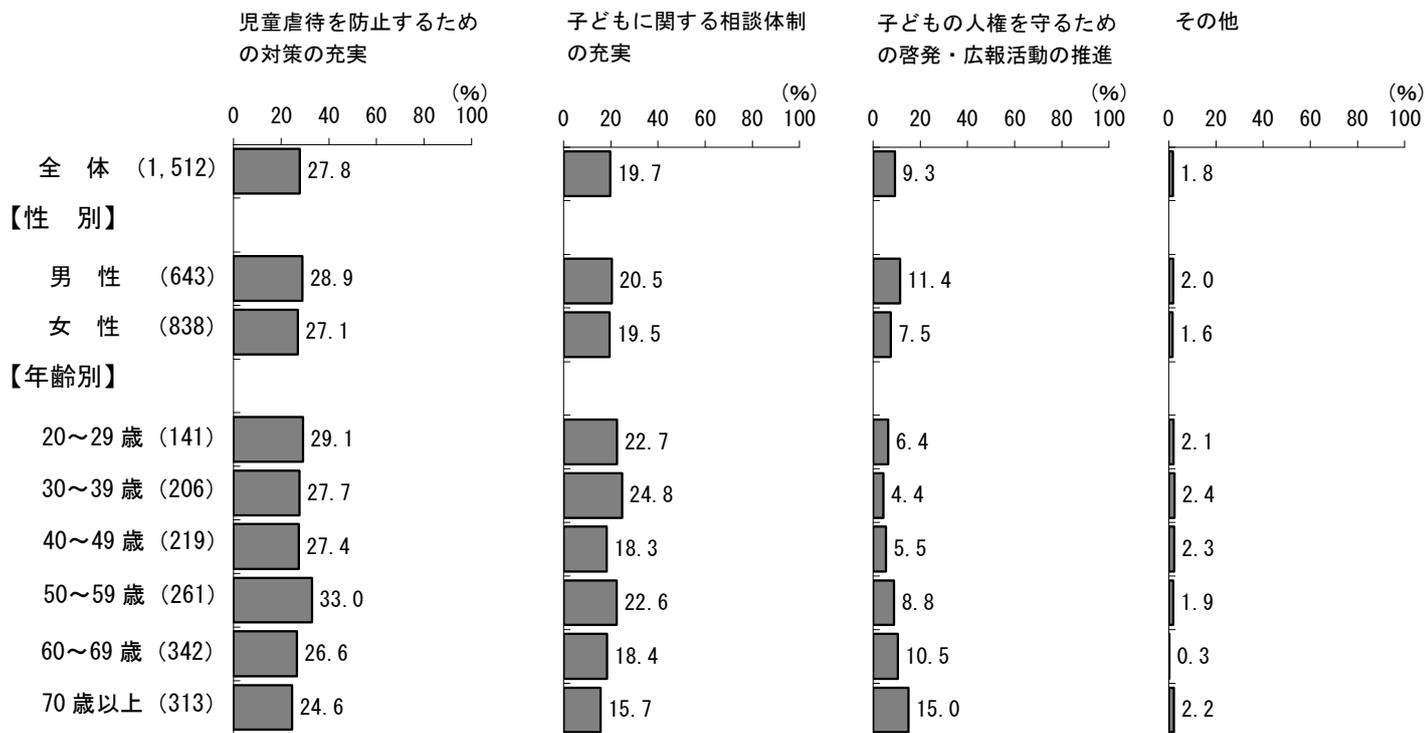


子どもの人権を守るために必要なことについて、「学校での人権教育・道徳教育の推進」、「家庭内の人間関係・経済的な安定」がともに5割以上

子どもの人権を守るために必要なことについて、「学校での人権教育・道徳教育の推進」と回答した人の割合が56.9%と最も高く、次いで「家庭内の人間関係・経済的な安定」(52.8%)、「地域の人々による他人の子どもへの関心をもった声かけ・指導等」(47.9%)の順となっている。

②図 12-2 子どもの人権を守るために必要なこと【性別・年齢別】



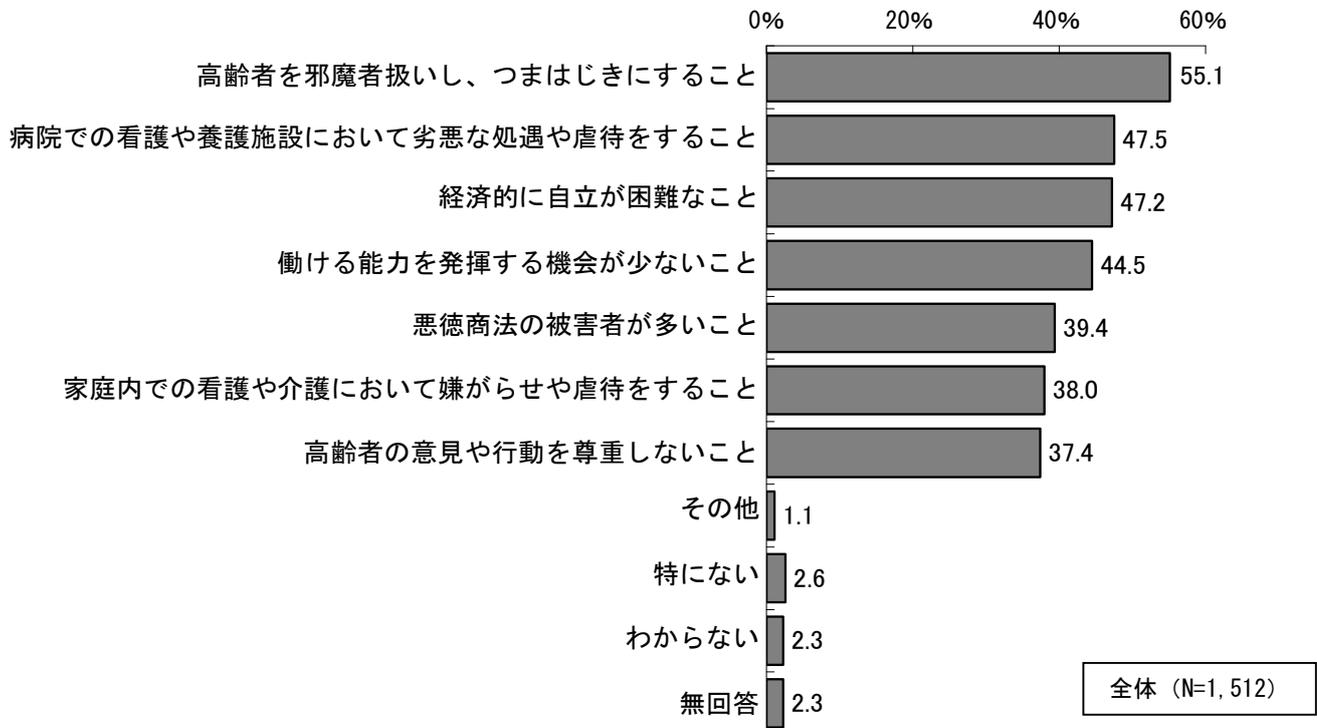


年齢別で比較すると、「家庭内の人間関係・経済的な安定」では30～39歳で回答した人の割合が70.9%と高くなっている。また、「学校での人権教育・道徳教育の推進」と回答した人の割合は、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向にある。

#### (4)高齢者に関する人権上の問題点

問 11 あなたは、高齢者に関する事柄で、人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(✓はいくつでも)

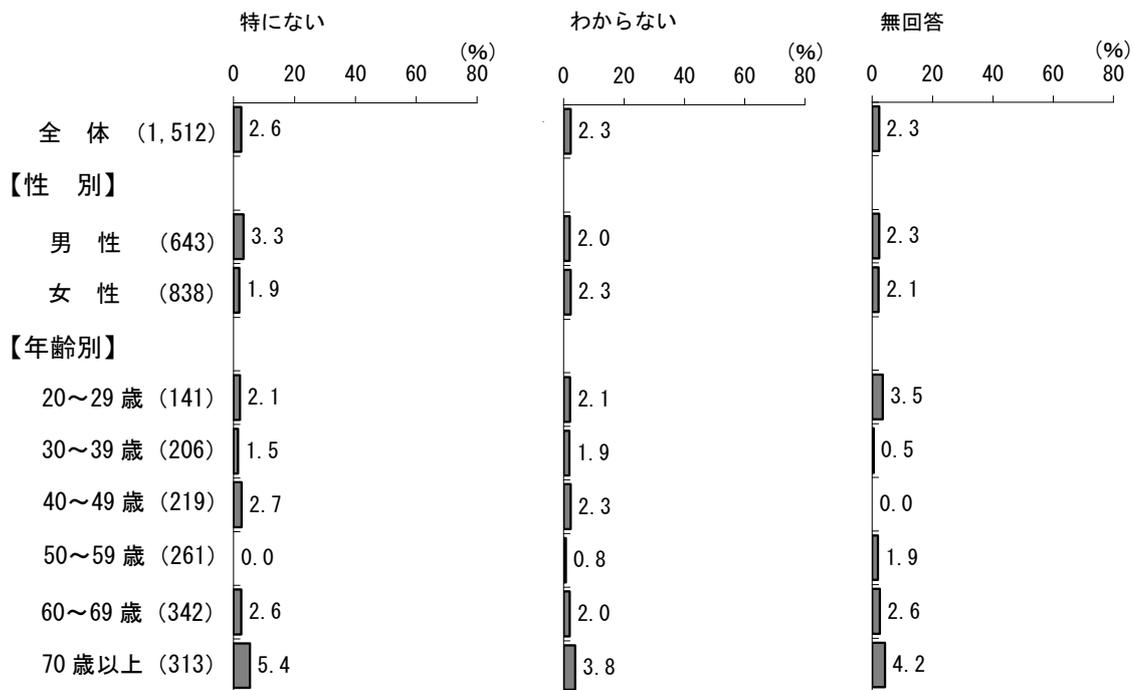
①図 13-1 高齢者に関する人権上の問題点【全体】



#### 高齢者に関する人権問題について、「高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること」が6割

高齢者に関する人権上の問題点について、「高齢者を邪魔者扱いし、つまはじきにすること」と回答した人の割合が 55.1%と最も高く、次いで「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待をすること」(47.5%)、「経済的に自立が困難なこと」(47.2%)の順となっている。





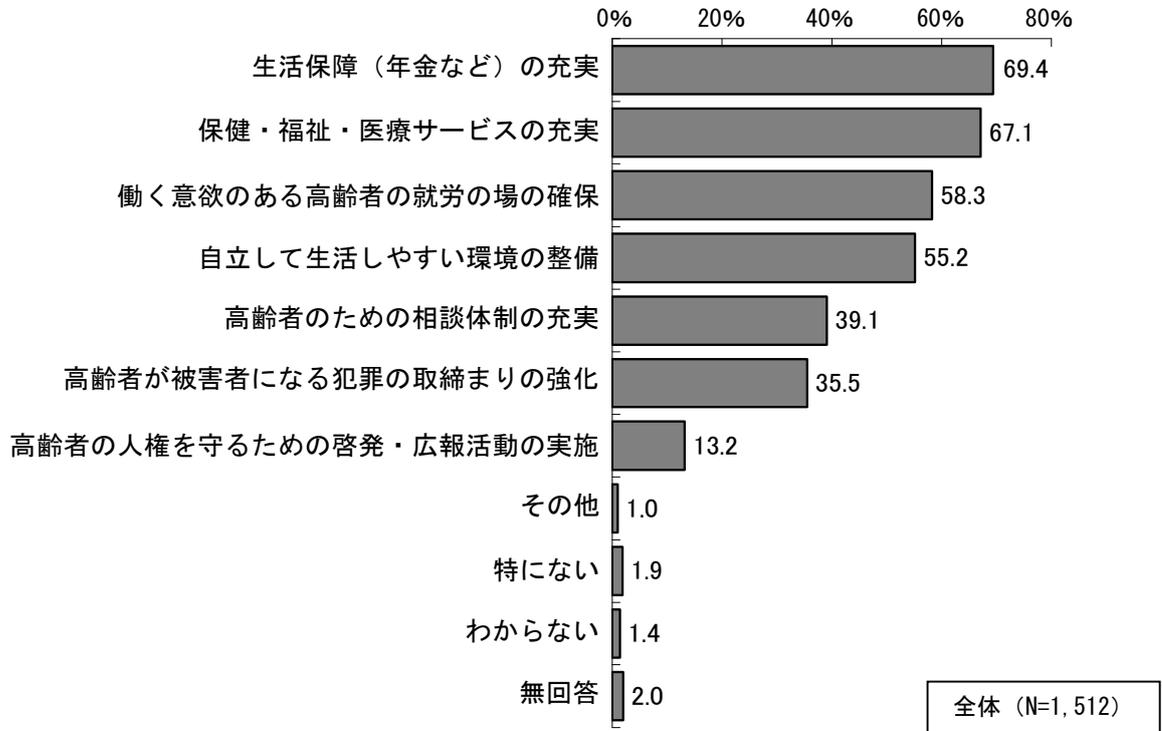
性別で比較すると、女性の方が「病院での看護や養護施設において劣悪な処遇や虐待をすること」と回答した人の割合が53.3%と、男性の40.7%と比べて高くなっている。

年齢別では、「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」、「家庭内での看護や介護において嫌がらせや虐待をすること」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなる傾向にある。

ア 高齢者の人権を守るために必要なこと

問 12 高齢者の人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(✓は5つまで)

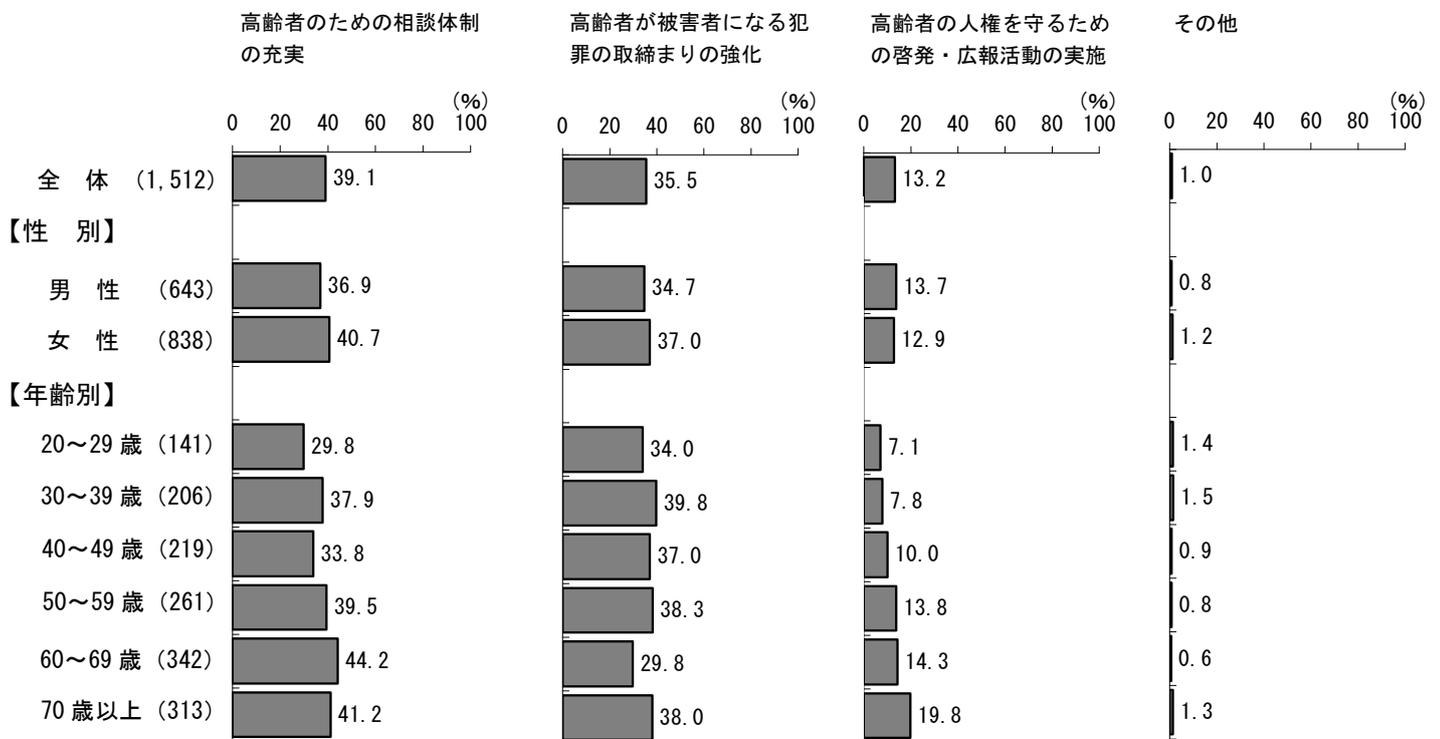
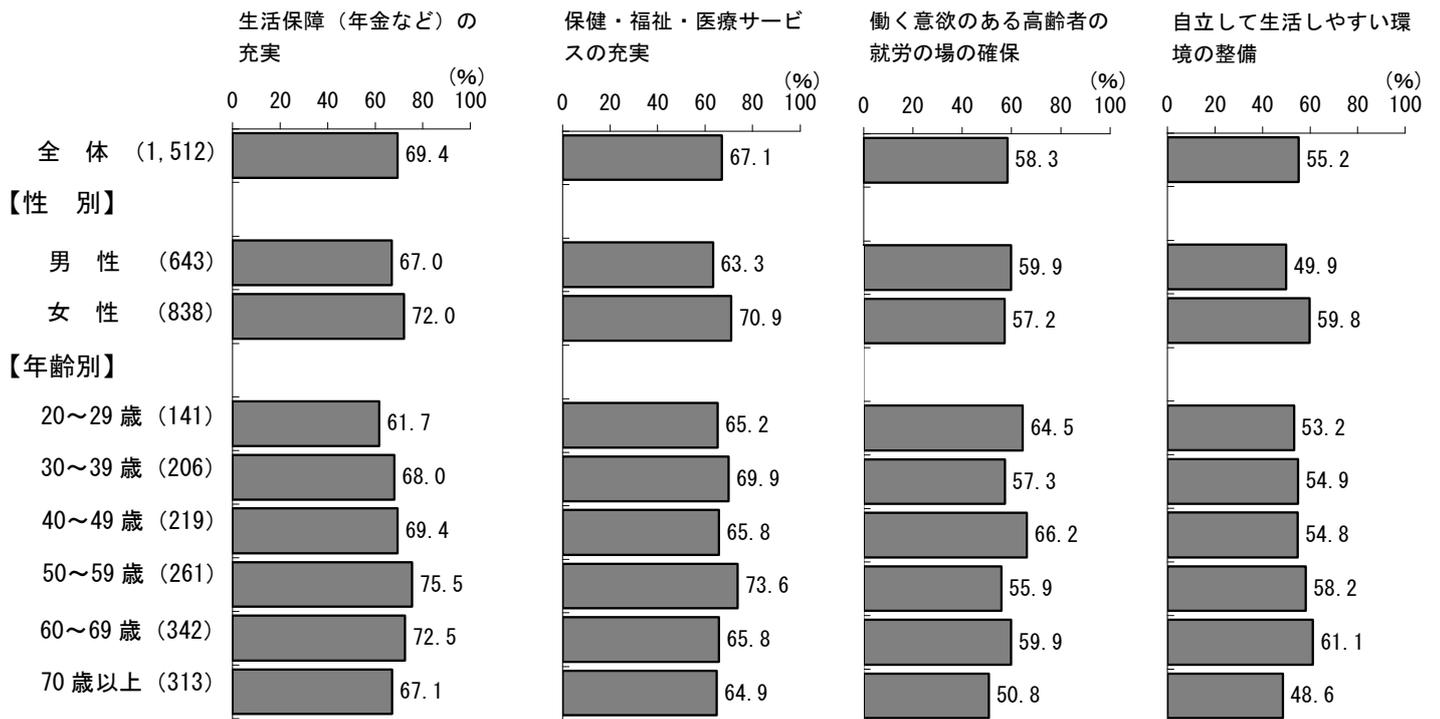
①図 14-1 高齢者の人権を守るために必要なこと【全体】

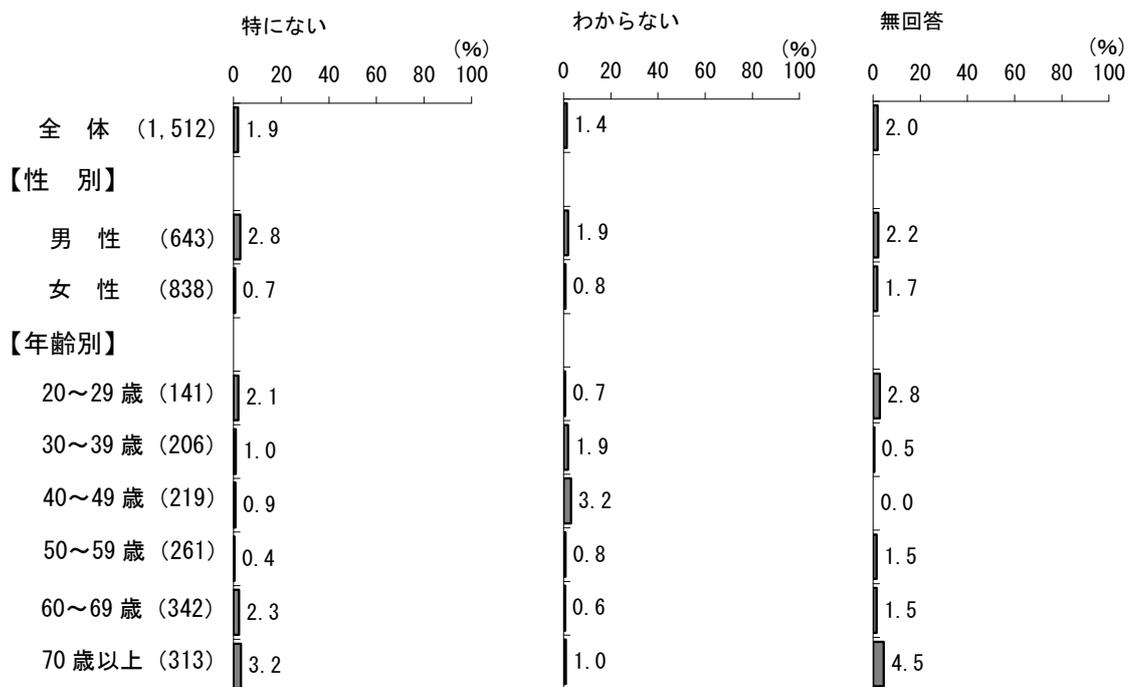


高齢者の人権を守るために必要なことについて、「生活保障（年金など）の充実」、「保健・福祉・医療サービスの充実」がともに7割

高齢者の人権を守るために必要なことについて、「生活保障（年金など）の充実」と回答した人の割合が69.4%と最も高く、次いで「保健・福祉・医療サービスの充実」（67.1%）、「働く意欲のある高齢者の就労の場の確保」（58.3%）の順となっている。

②図 14-2 高齢者の人権を守るために必要なこと【性別・年齢別】



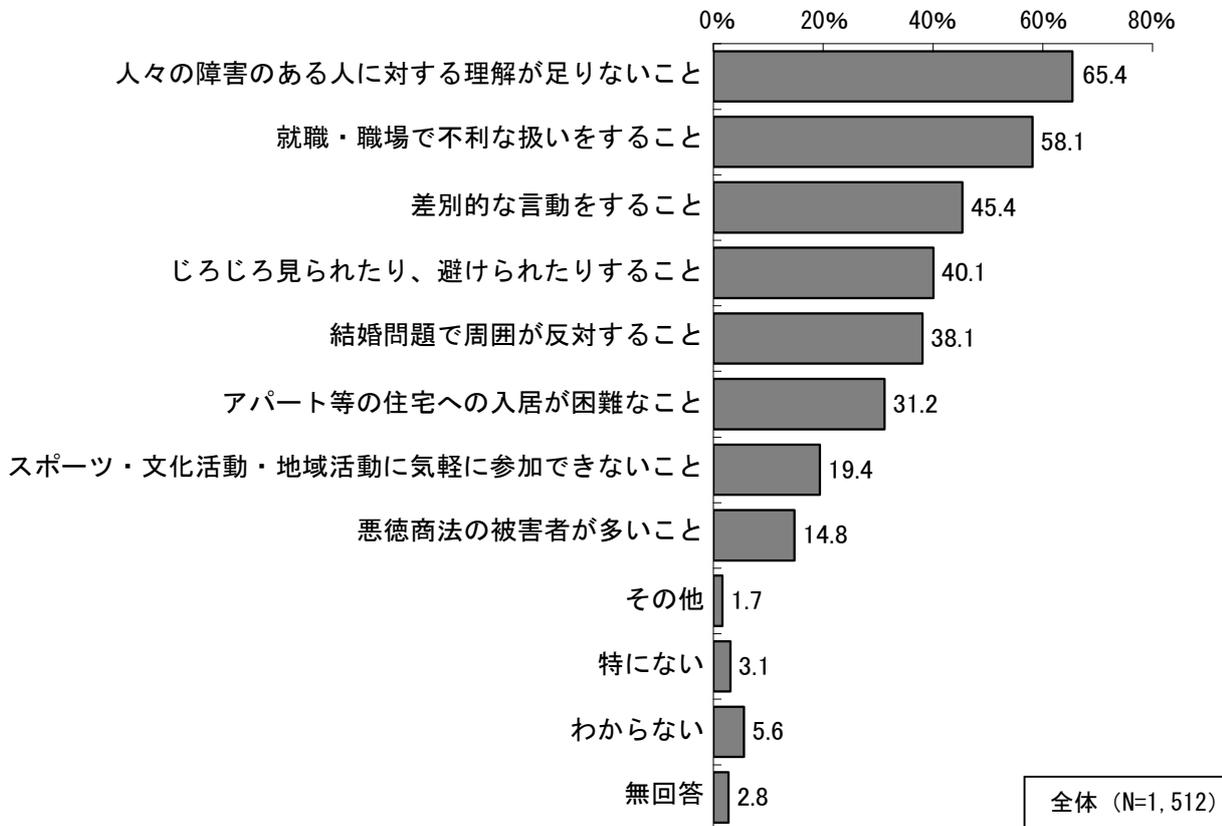


性別で比較すると、女性の方が「自立して生活しやすい環境の整備」(59.8%)、「保健・福祉・医療サービスの充実」(70.9%)と回答した人の割合が、男性の49.9%、63.3%と比べて高くなっている。

(5) 障害のある人に関し、どのような問題が起きているか

問 13 あなたは、障害のある人に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(✓はいくつでも)

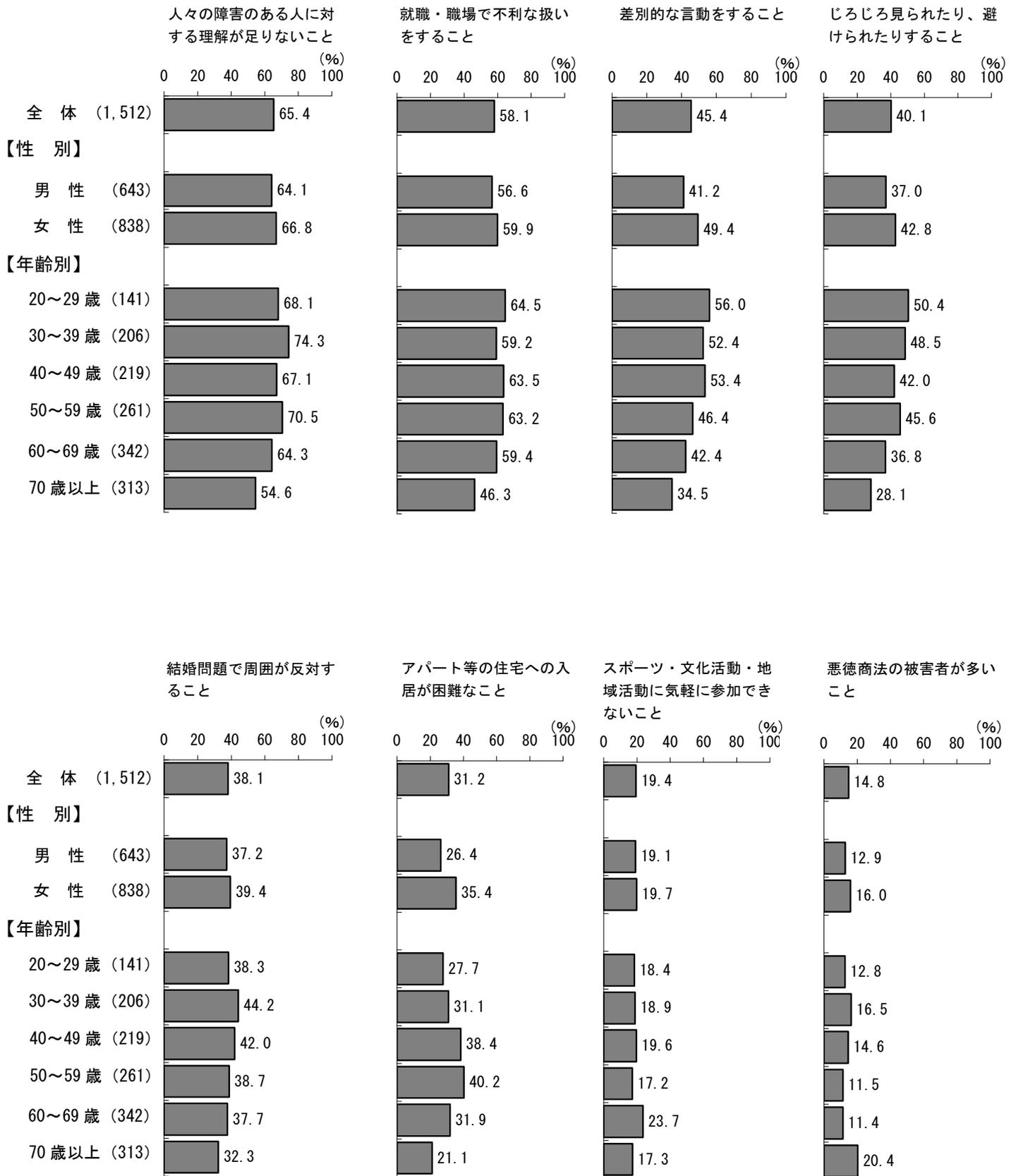
①図 15-1 障害のある人に関し、どのような問題が起きているか【全体】

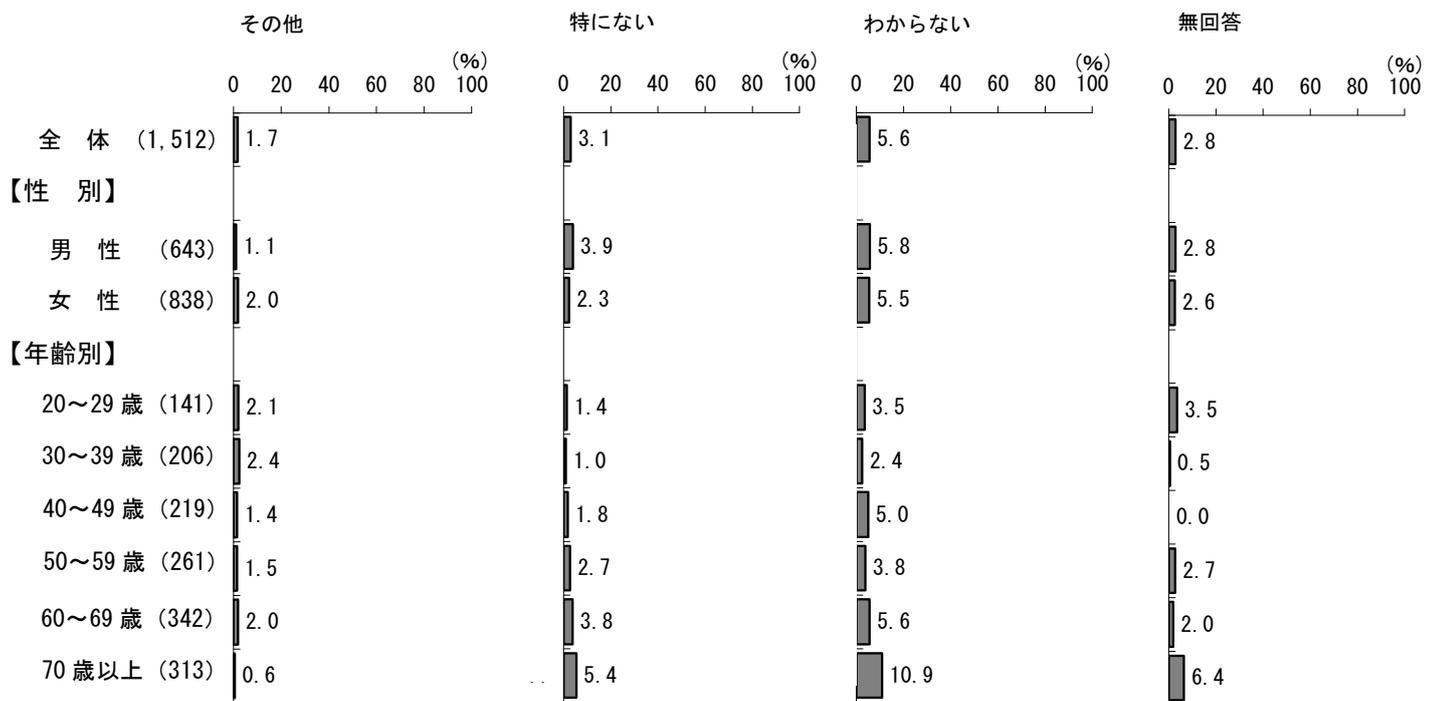


障害のある人に関する人権問題について、「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」が 7割

障害のある人に関し、どのような問題が起きているかについて、「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」と回答した人の割合が 65.4%と最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いをすること」(58.1%)、「差別的な言動をすること」(45.4%)の順となっている。

②図 15-2 障害のある人に関し、どのような問題が起きているか【性別・年齢別】





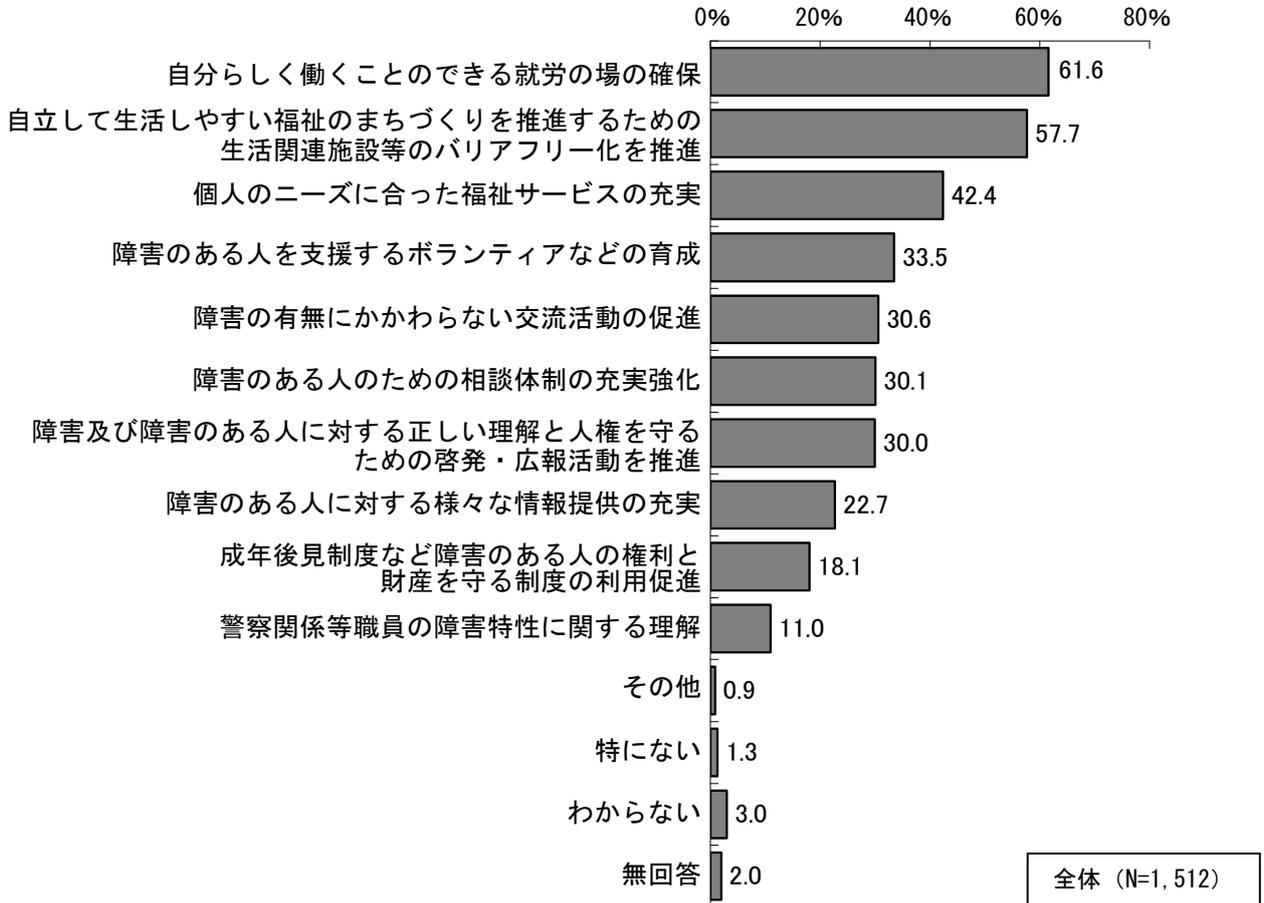
性別で比較すると、女性の方が「差別的な言動をすること」(49.4%)、「アパート等の住宅への入居が困難なこと」(35.4%)と回答した人の割合が、男性の41.2%、26.4%と比べて高くなっている。

年齢別で比較すると、「人々の障害のある人に対する理解が足りないこと」では30～39歳で回答した人の割合は74.3%と高くなっている。また、「差別的な言動をすること」、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」、「結婚問題で周囲が反対すること」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれてそれぞれ高くなる傾向にある。

ア 障害のある人の人権を守るために必要なこと

問 14 障害のある人の人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(✓は5つまで)

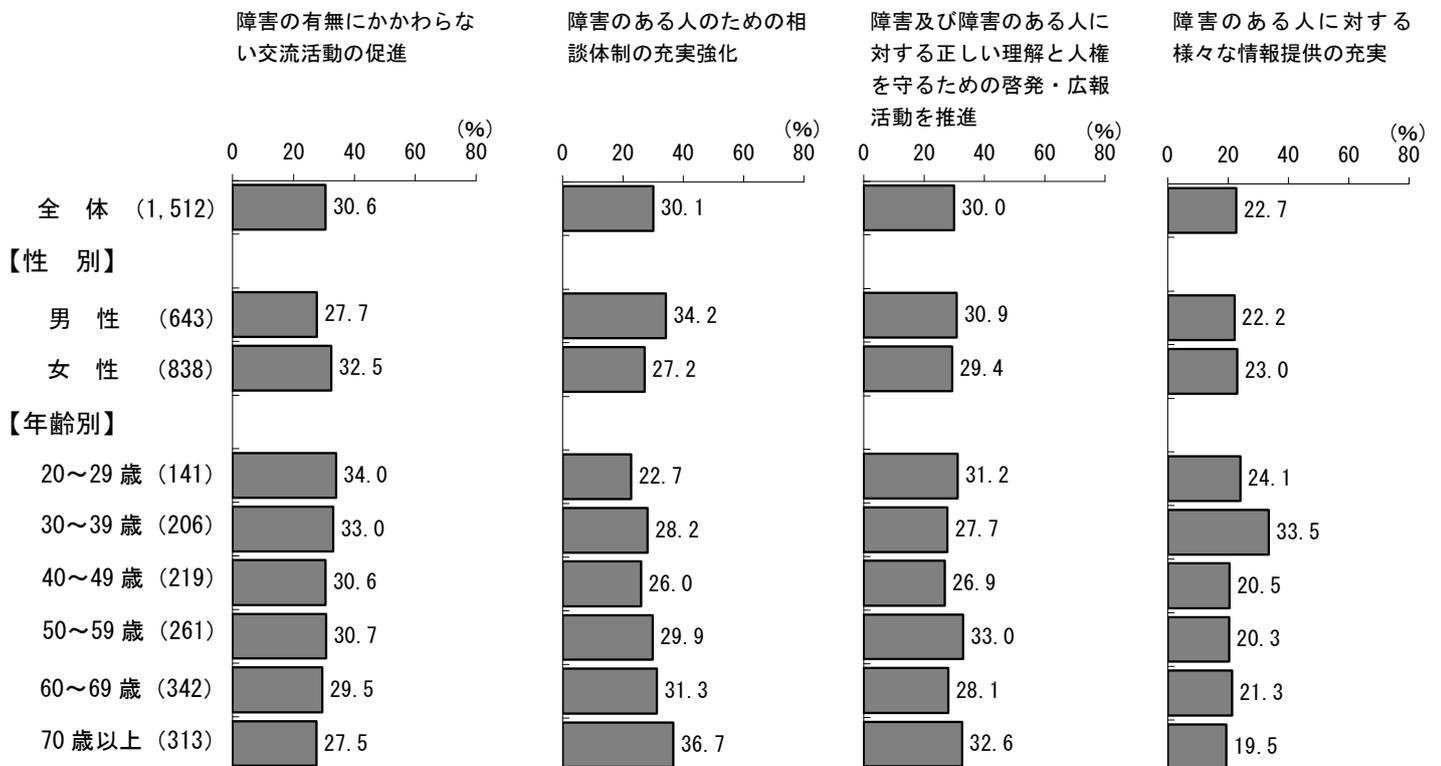
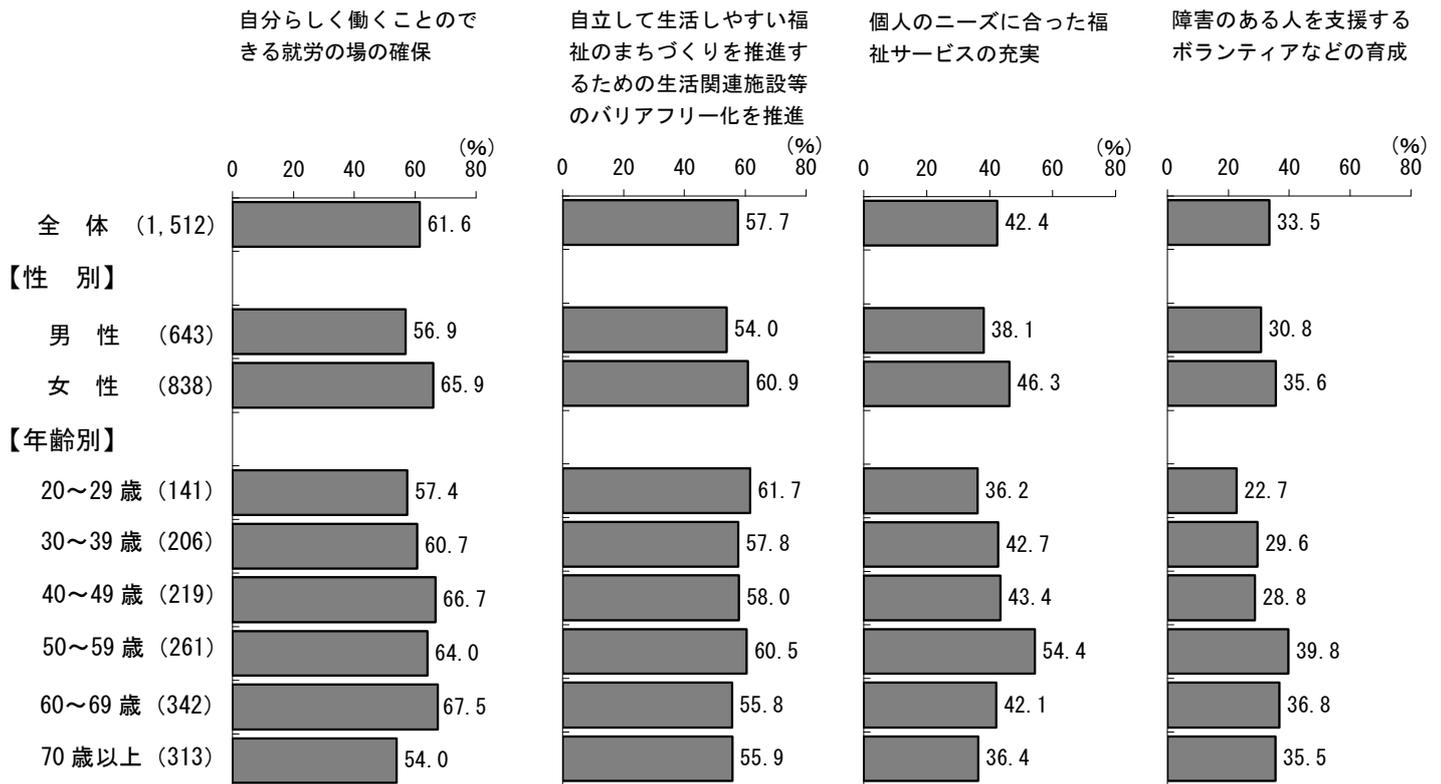
①図 16-1 障害のある人の人権を守るために必要なこと【全体】

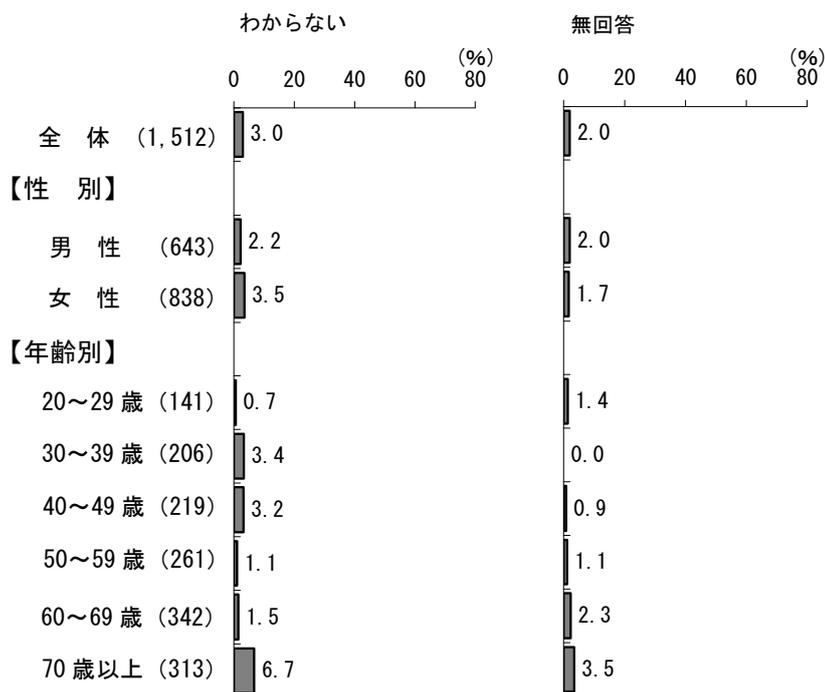
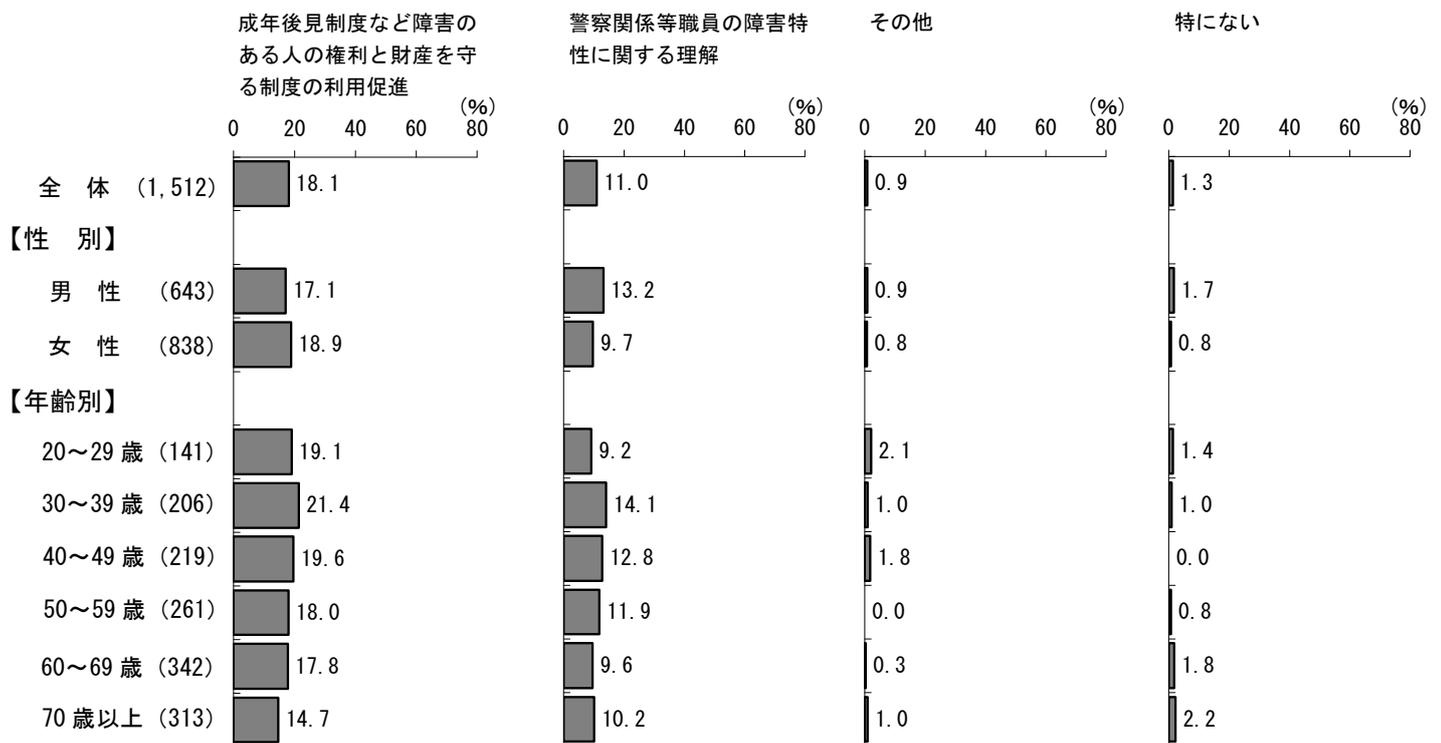


障害のある人の人権を守るために必要なことについて、「就労の場の確保」、「生活関連施設等のバリアフリー化を推進」がともに6割

障害のある人の人権を守るために必要なことについて、「自分らしく働くことのできる就労の場の確保」と回答した人の割合が61.6%と最も高く、次いで「自立して生活しやすい福祉のまちづくりを推進するための生活関連施設等のバリアフリー化を推進」(57.7%)、「個人のニーズに合った福祉サービスの充実」(42.4%)の順となっている。

②図 16-2 障害のある人の人権を守るために必要なこと【性別・年齢別】





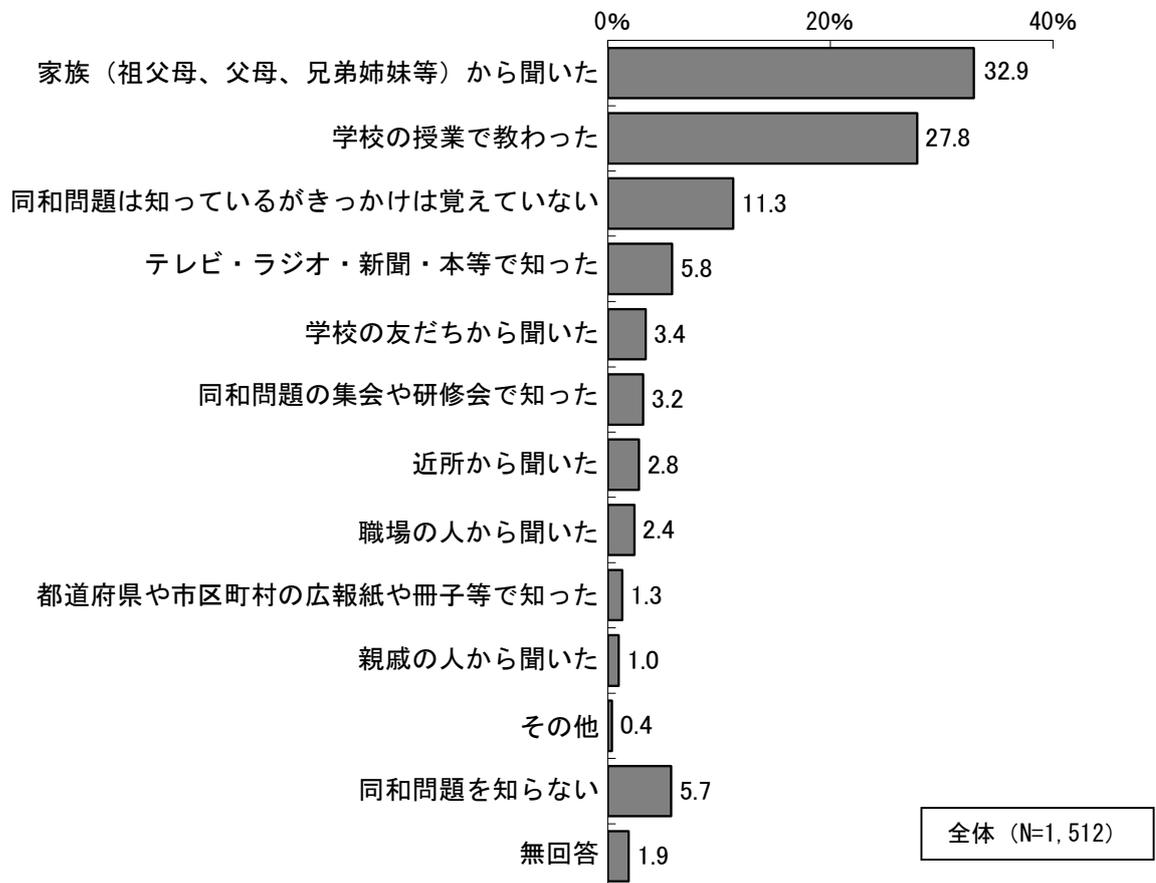
性別で比較すると、女性の方が「自分らしく働くことのできる就労の場の確保」(65.9%)、「個人のニーズに合った福祉サービスの充実」(46.3%)と回答した人の割合が、男性の56.9%、38.1%と比べて高くなっている。

年齢別で比較すると、「個人のニーズに合った福祉サービスの充実」では50~59歳で回答した人の割合が54.4%と高くなっている。また、「障害のある人に対する様々な情報提供の充実」では30~39歳で回答した人の割合が33.5%と高くなっている。

(6) 同和問題を知ったきっかけ

問 15 あなたは、同和問題について、初めて知ったきっかけは、何からですか。(✓は1つ)

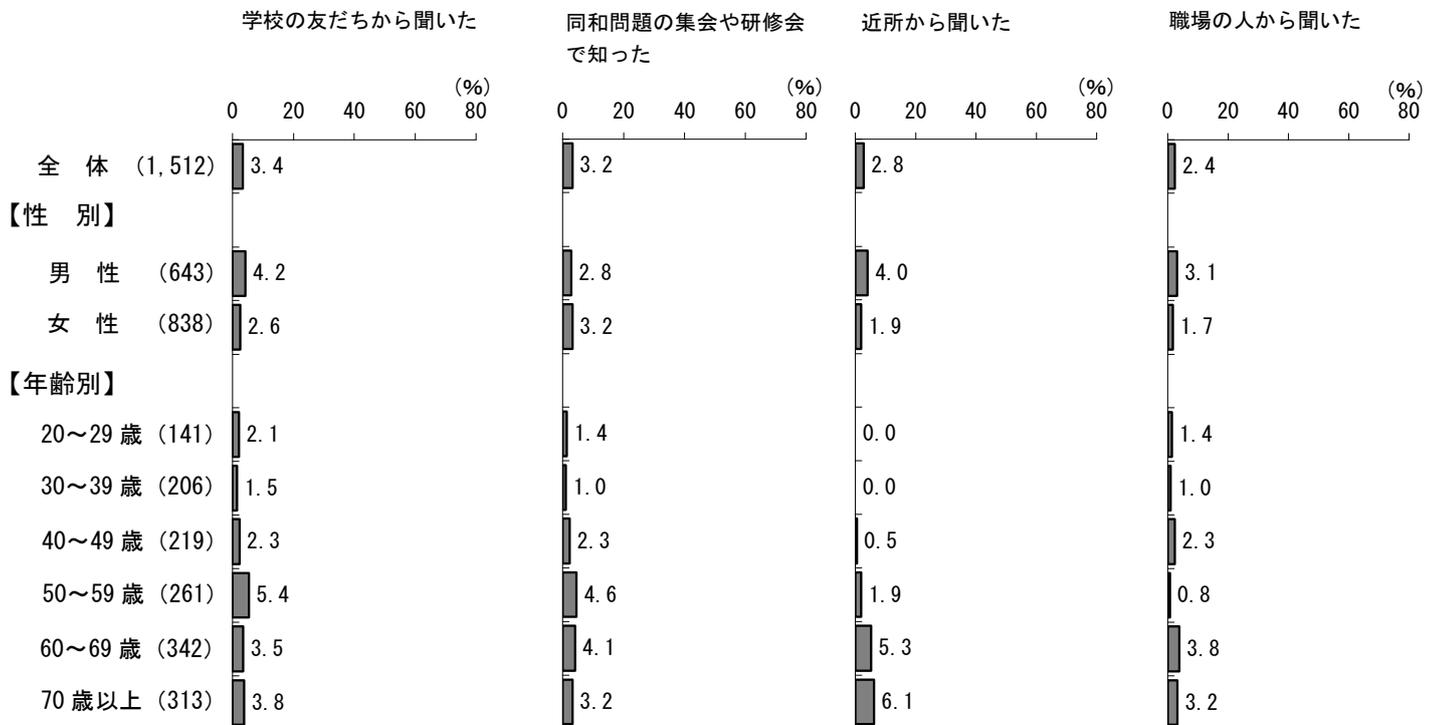
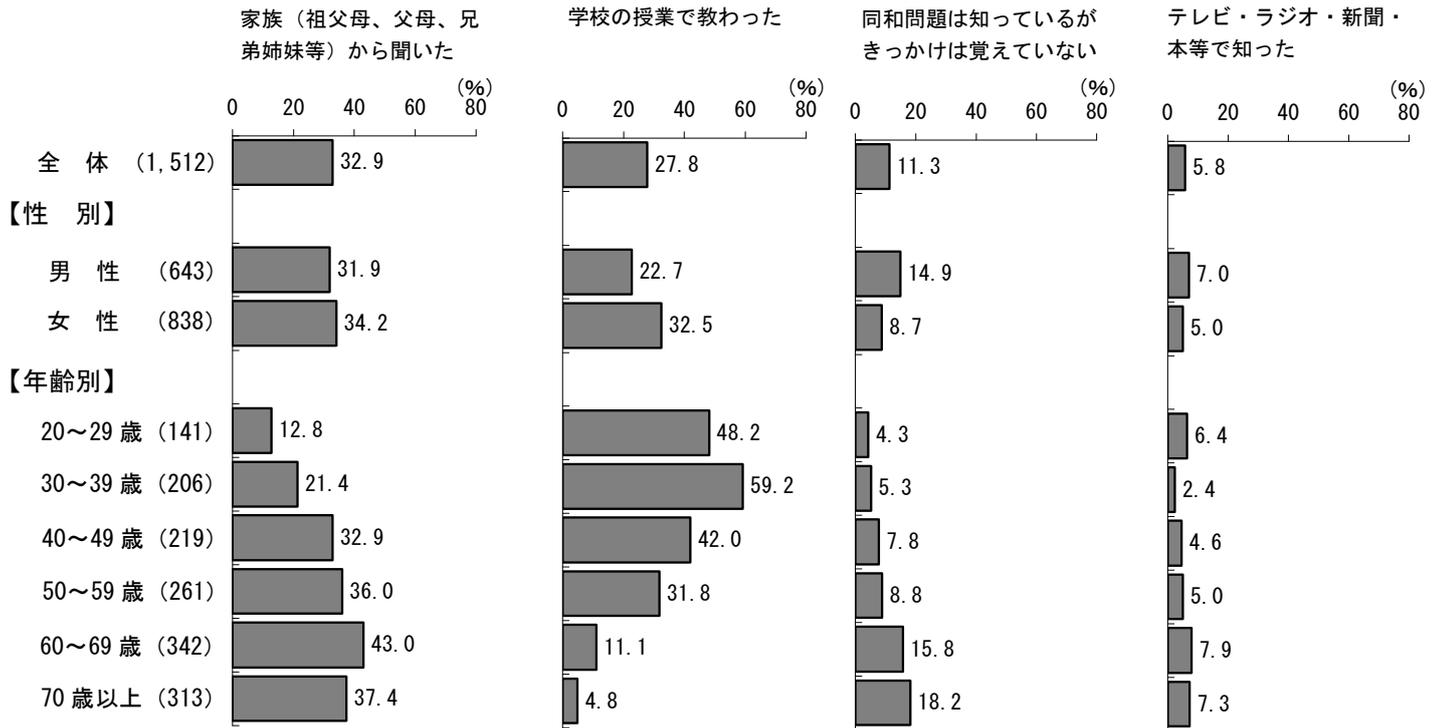
① 図 17-1 同和問題を知ったきっかけ【全体】

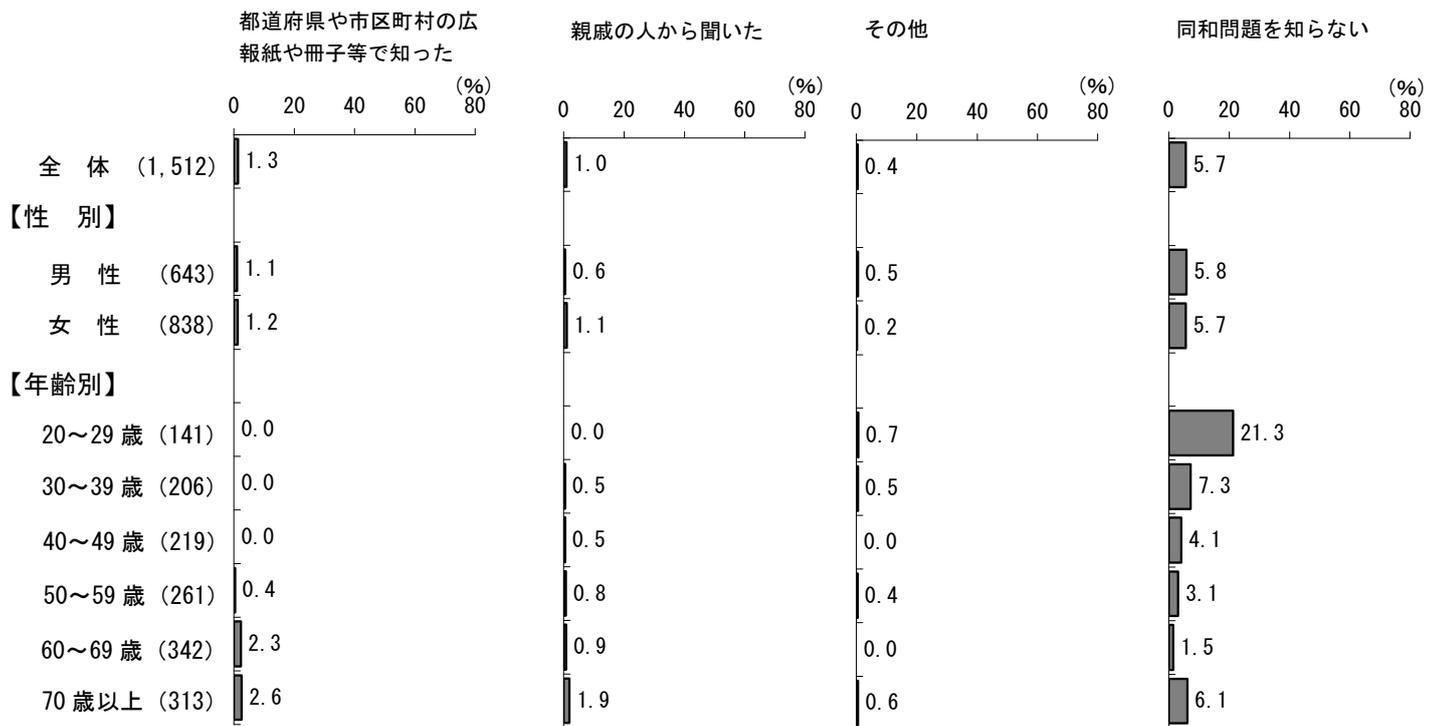


同和問題を知ったきっかけについて、「家族から聞いた」、「学校の授業で教わった」がともに3割

同和問題を知ったきっかけについて、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）から聞いた」と回答した人の割合が32.9%と最も高く、次いで「学校の授業で教わった」（27.8%）、「同和問題は知っているがきっかけは覚えていない」（11.3%）の順となっている。

②図 17-2 同和問題を知ったきっかけ【性別・年齢別】





性別で比較すると、女性の方が「学校の授業で教わった」と回答した人の割合が32.5%と、男性の22.7%と比べて高くなっている。

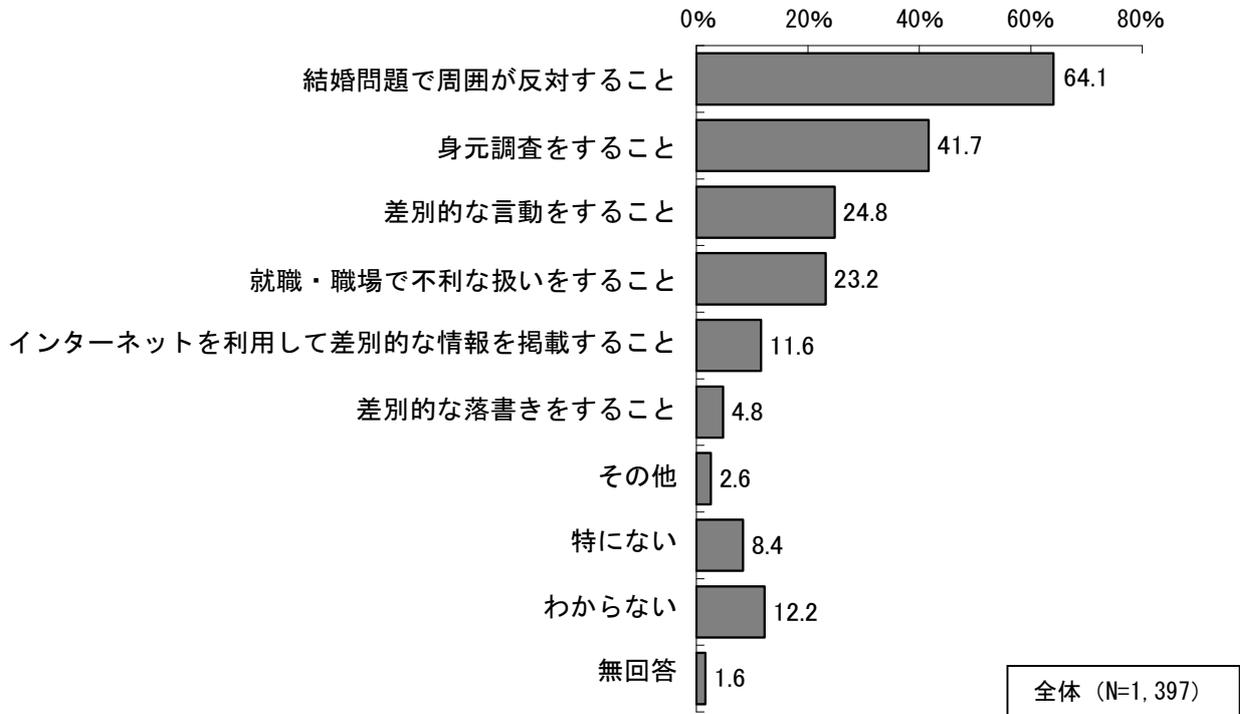
年齢別で比較すると、「同和問題を知らない」では20~29歳で回答した人の割合が21.3%と高くなっている。また、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）から聞いた」、「同和問題は知っているがきっかけは覚えていない」と回答した人の割合は、年齢が高くなるにつれて高くなる傾向にある。20~29歳をのぞいて「学校の授業で教わった」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなっている。

(7) 同和問題に関し、どのような問題が起きているか

問 15-1 【問 15 で「1～11」を選んだ人のみ回答】

あなたは、同和問題に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(✓はいくつでも)

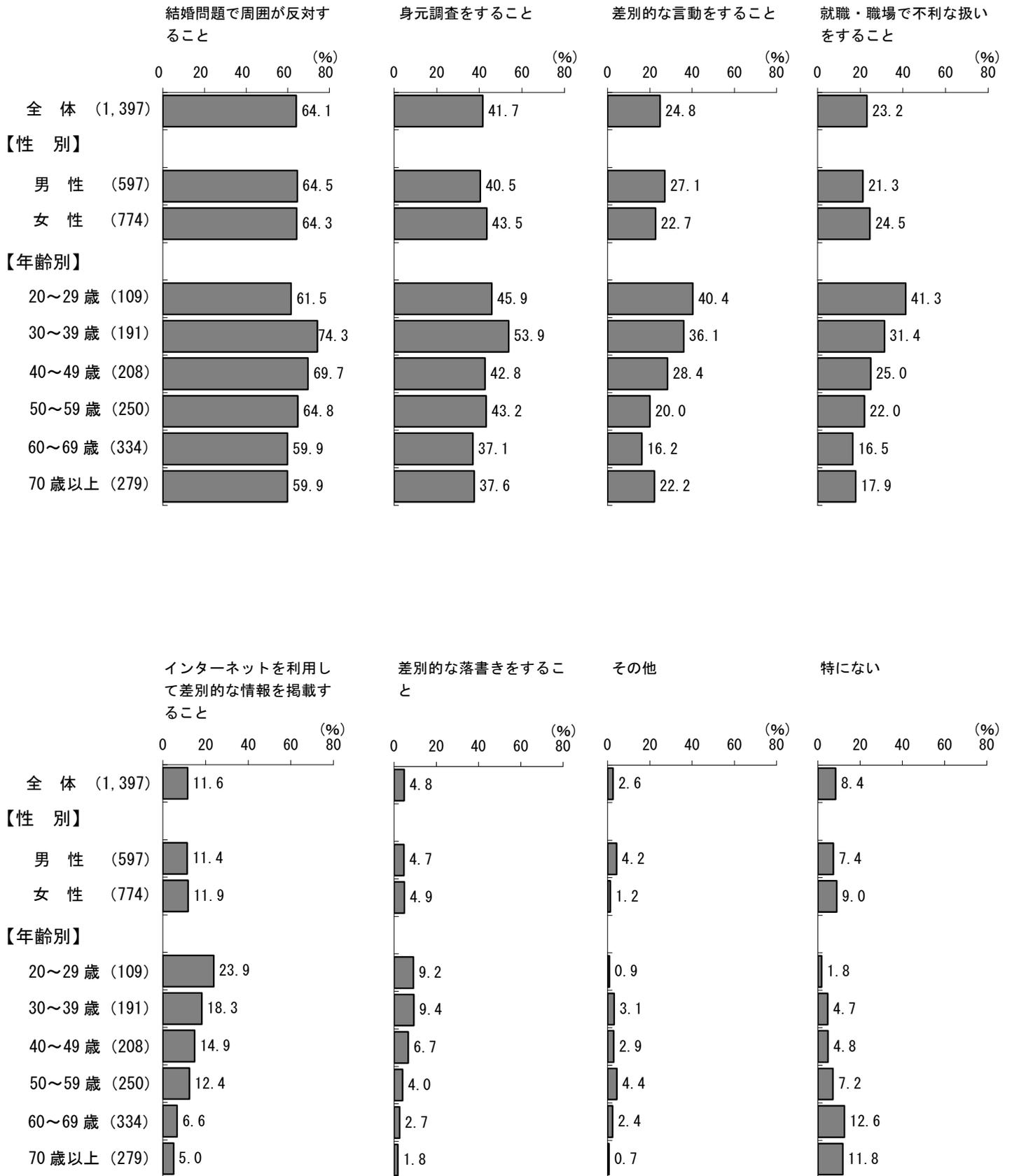
①図 18-1 同和問題に関し、どのような問題が起きているか【全体】

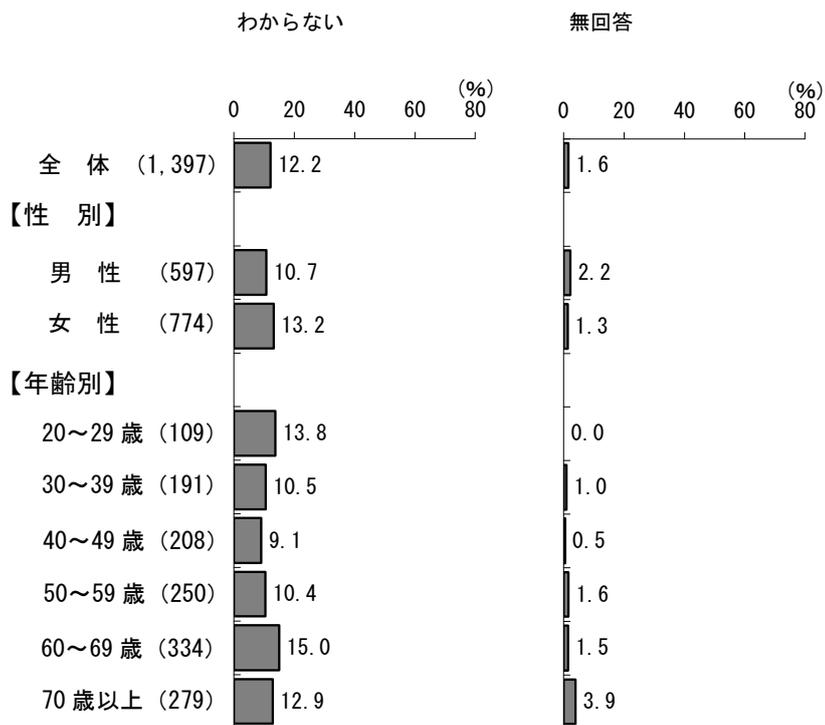


**同和問題に関する人権問題について、「結婚問題で周囲が反対すること」が6割**

同和問題に関し、どのような問題が起きているかについて、「結婚問題で周囲が反対すること」と回答した人の割合が64.1%と最も高く、次いで「身元調査をすること」(41.7%)の順となっている。

②図 18-2 同和問題に関し、どのような問題が起きているか【性別・年齢別】





年齢別で比較すると、「結婚問題で周囲が反対すること」、「身元調査をすること」では30～39歳で、「差別的な言動をすること」、「就職・職場で不利な扱いをすること」では20～29歳で回答した人の割合がそれぞれ高くなっている。

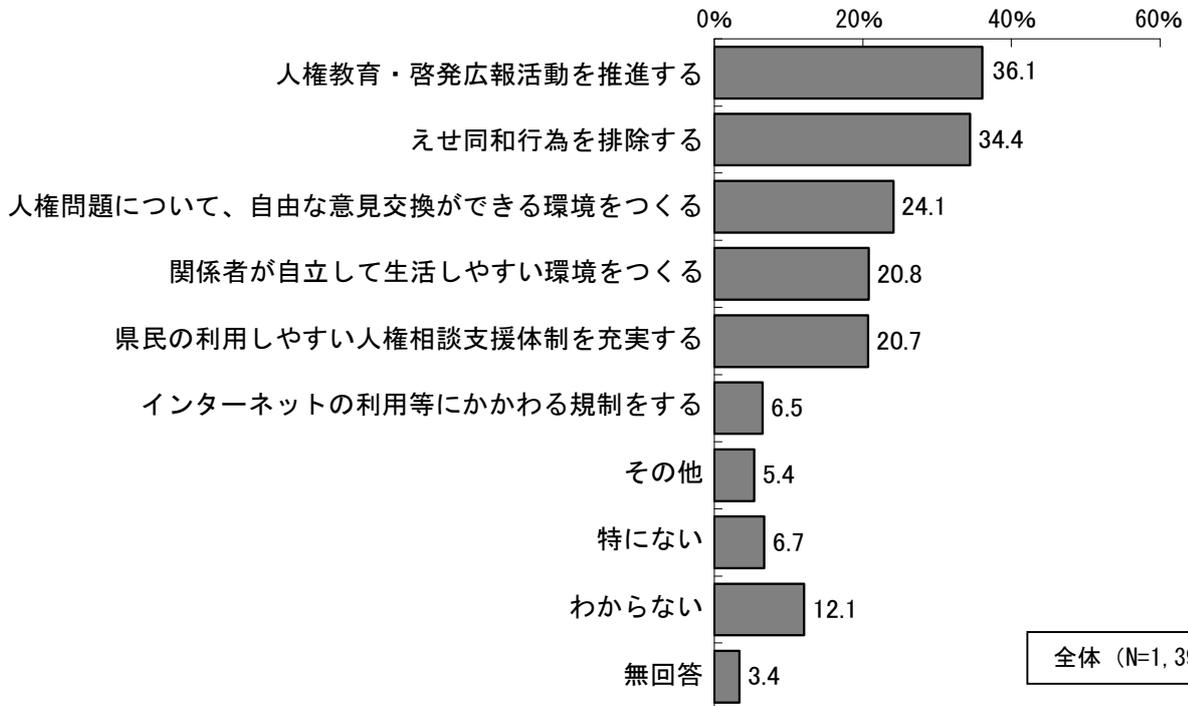
ア 同和問題を解決するために必要なこと

問 15-2 【問 15 で「1～11」を選んだ人のみ回答】

同和問題の解決のためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(✓は3つまで)

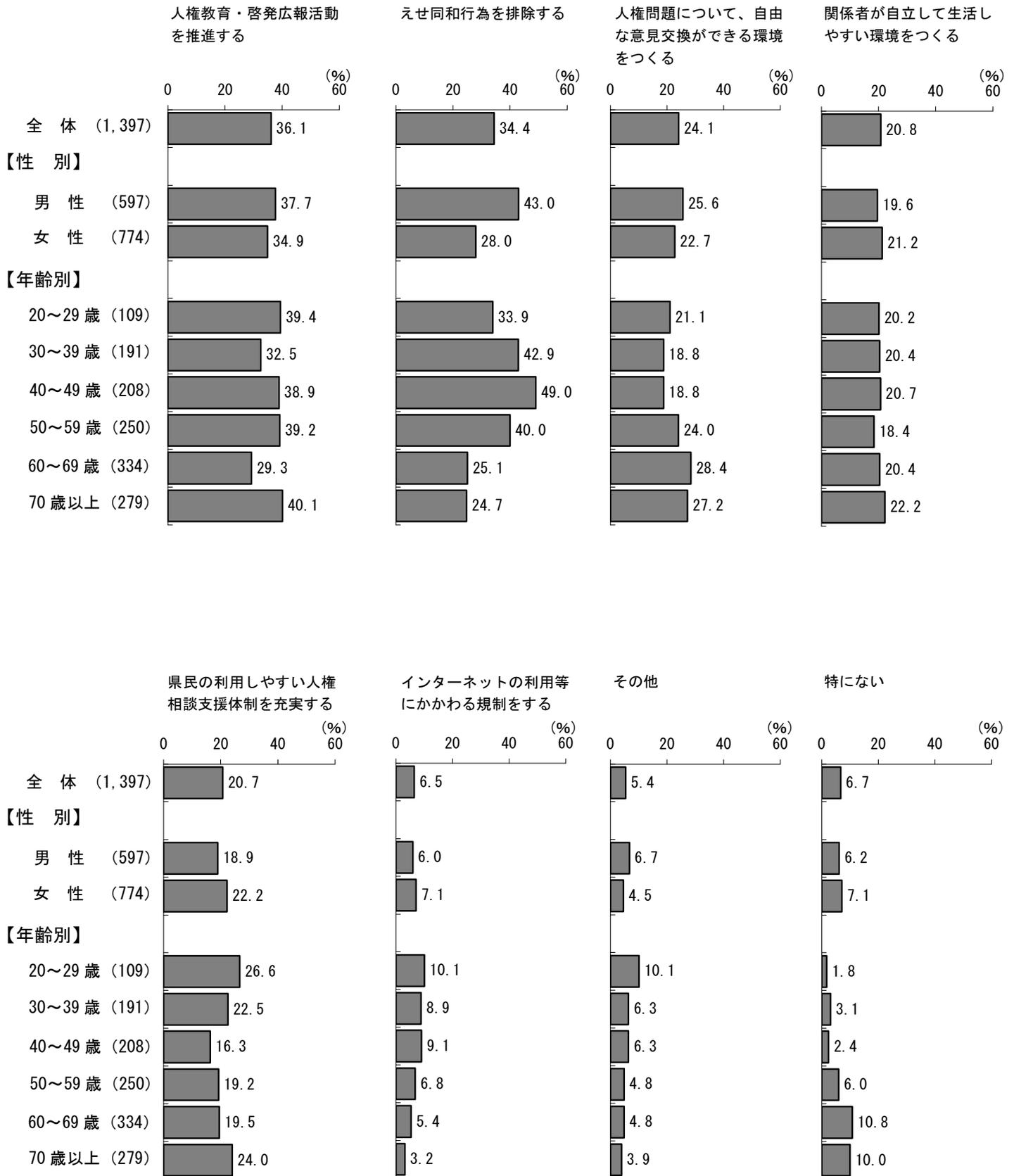
①図 19-1 同和問題を解決するために必要なこと【全体】

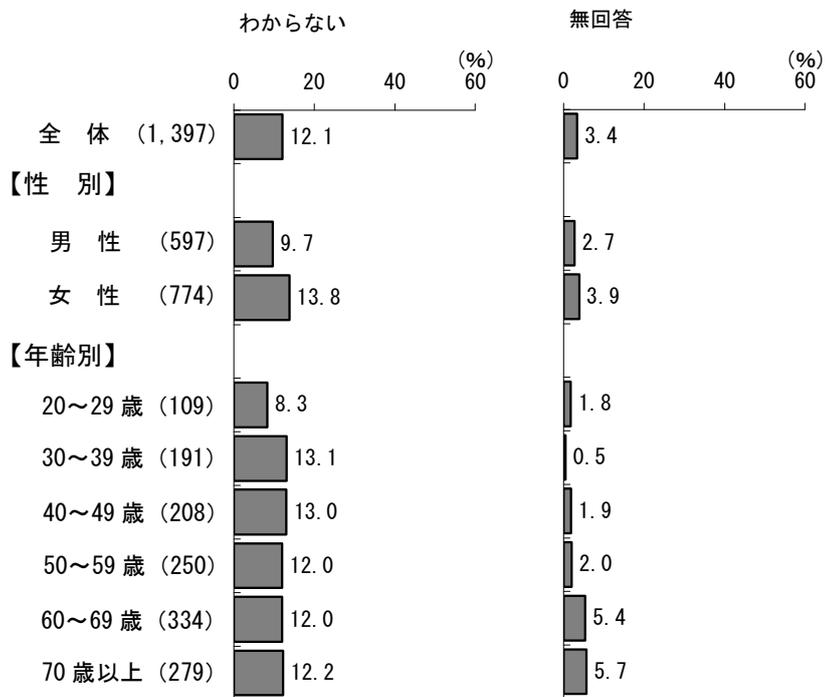


同和問題を解決するために必要なことについて、「人権教育・啓発広報活動を推進する」が4割、「えせ同和行為を排除する」が3割

同和問題を解決するために必要なことについて、「人権教育・啓発広報活動を推進する」と回答した人の割合が36.1%と最も高く、次いで「えせ同和行為を排除する」(34.4%)、「人権問題について、自由な意見交換ができる環境をつくる」(24.1%)の順となっている。

②図 19-2 同和問題を解決するために必要なこと【性別・年齢別】





性別で比較すると、男性の方が「えせ同和行為を排除する」と回答した人の割合が 43.0%と、女性の 28.0%と比べて高くなっている。

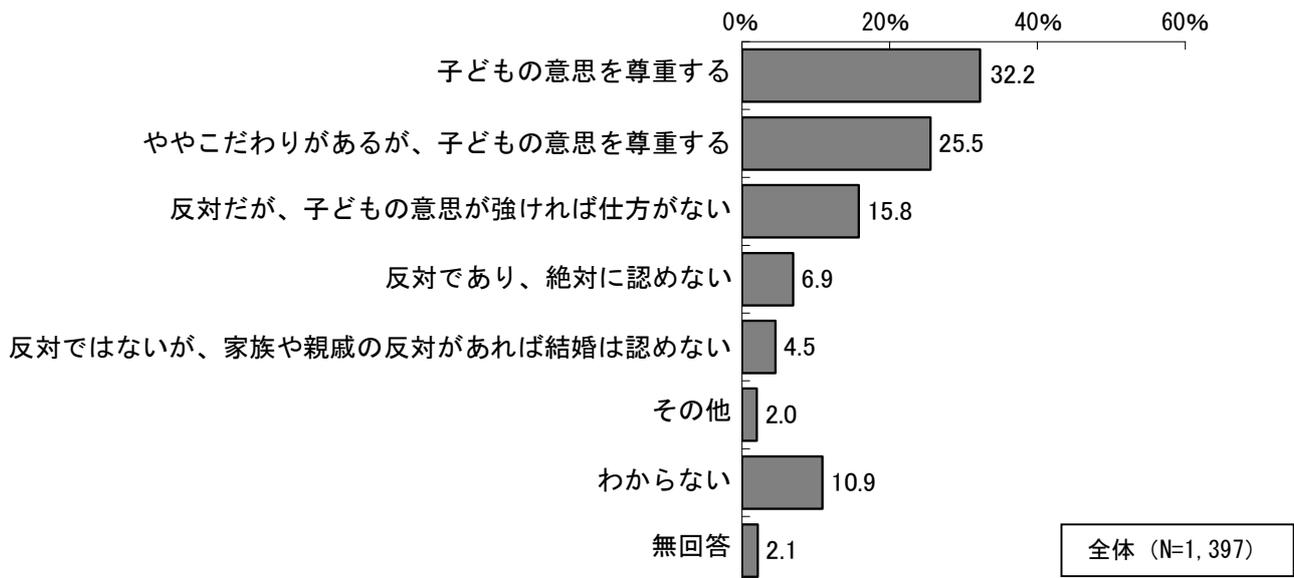
年齢別で比較すると、「えせ同和行為を排除する」では 30～59 歳で回答した人の割合が 4 割を超え高くなっている。

## イ 同和問題に係る結婚に対する考え方

### 問 15-3 【問 15 で「1~11」を選んだ人のみ回答】

あなたに未婚のお子さんがあると想定して、そのお子さんが、かつていわゆる「同和地区」と呼ばれていたところの出身の人と結婚しようとする場合、あなたはどうしますか。(✓は1つ)

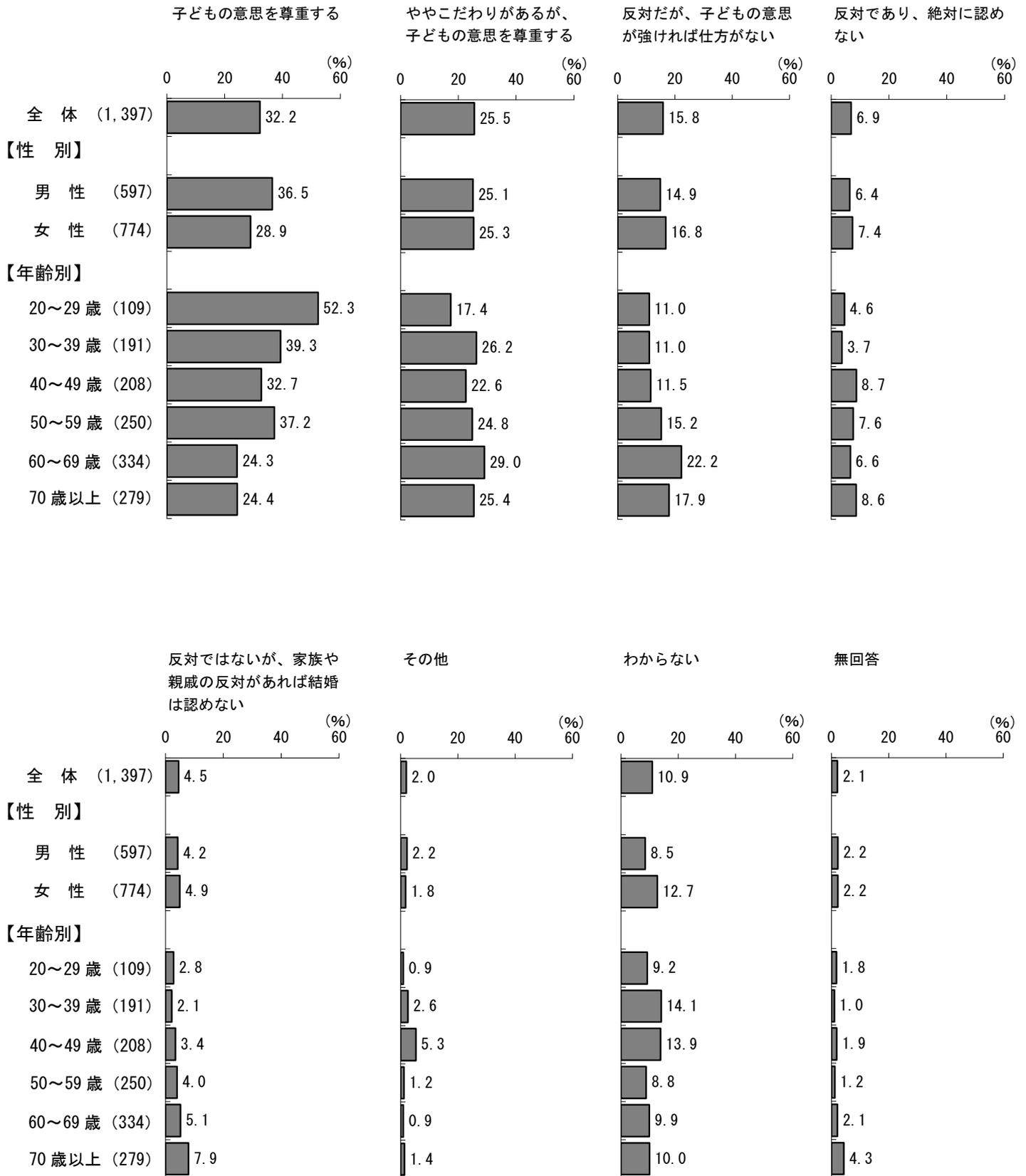
①図 20-1 同和問題に係る結婚に対する考え方【全体】



同和問題に係る結婚に対する考え方について、「子どもの意思を尊重する」、「ややこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」、「反対だが、子どもの意思が強ければ仕方がない」の3つをあわせると7割以上

同和問題に係る結婚に対する考え方について、「子どもの意思を尊重する」と回答した人の割合が32.2%と最も高く、次いで「ややこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」(25.5%)、「反対だが、子どもの意思が強ければ仕方がない」(15.8%)の順となっている。

②図 20-2 同和問題に係る結婚に対する考え方【性別・年齢別】



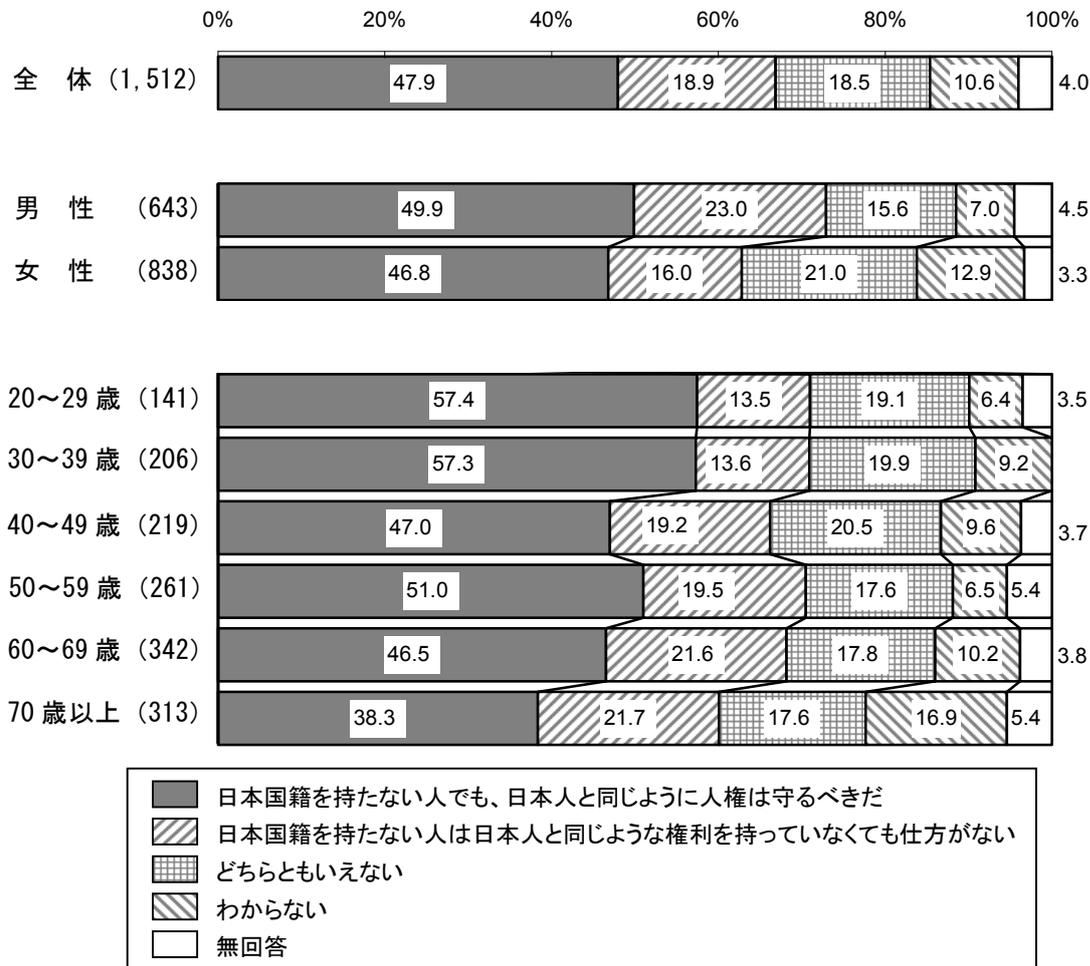
性別で比較すると、男性の方が「子どもの意思を尊重する」と回答した人の割合が 36.5%と、女性の 28.9%と比べて高くなっている。

年齢別で比較すると、「子どもの意思を尊重する」では 20~29 歳で回答した人の割合が 52.3%と高くなっている。

(8) 在住外国人の人権擁護についての考え方

問 16 在住外国人は、生活上のいろいろな面で差別されていると言われていますが、外国人の人権擁護について、あなたの意見は次のどちらに近いですか。(✓は1つ)

図 21 在住外国人の人権擁護についての考え方



在住外国人の人権擁護についての考え方について、「日本国籍を持たない人でも、日本人と同じように人権は守るべきだ」が5割

在住外国人の人権擁護についての考え方について、「日本国籍を持たない人でも、日本人と同じように人権は守るべきだ」と回答した人の割合が47.9%と最も高く、次いで「日本国籍を持たない人は日本人と同じような権利を持っていなくても仕方がない」(18.9%)の順となっている。

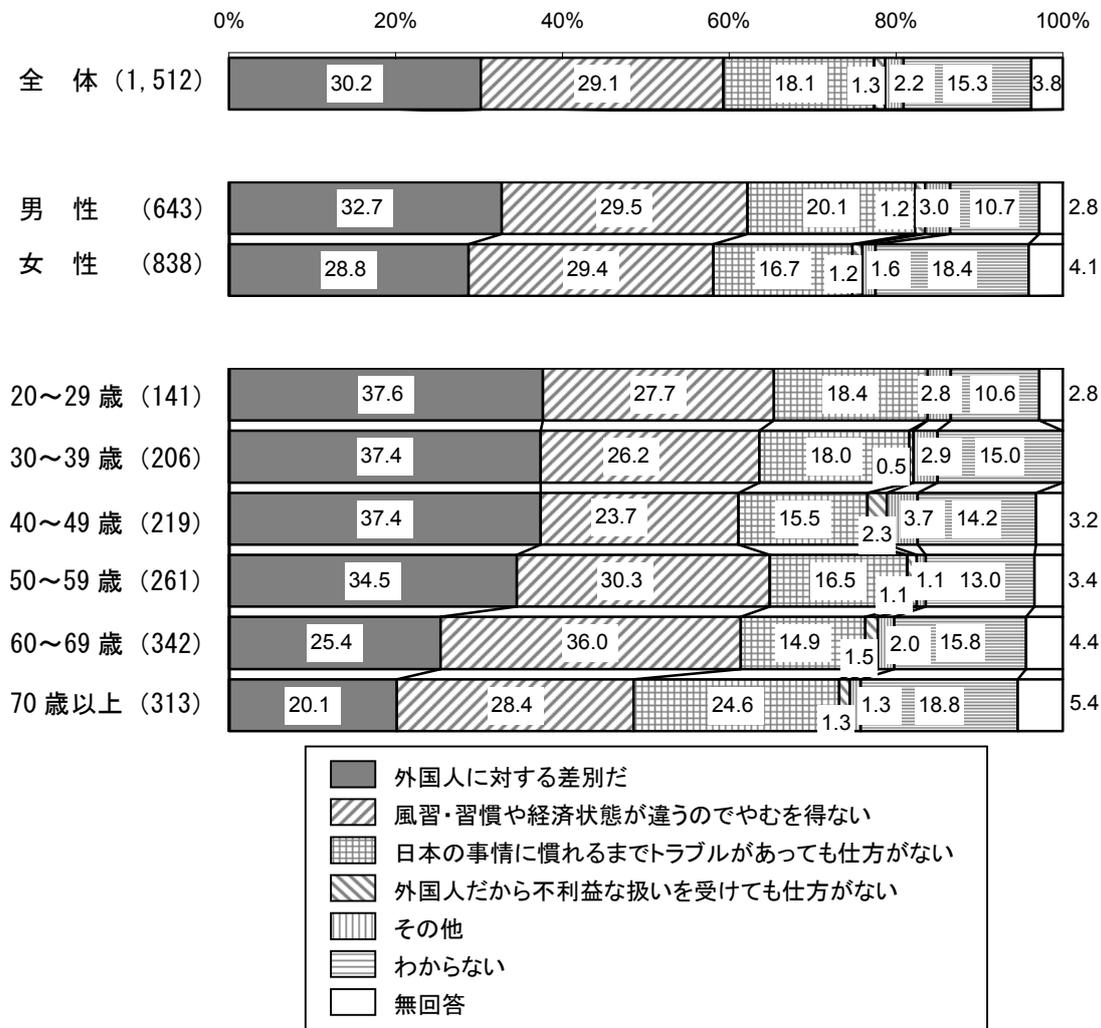
性別で比較すると、男性の方が「日本国籍を持たない人は日本人と同じような権利を持っていなくても仕方がない」と回答した人の割合が23.0%と、女性の16.0%と比べて高くなっている。

年齢別では、「日本国籍を持たない人でも、日本人と同じように人権は守るべきだ」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなる傾向にある。

(9) 在住外国人が不利益な取扱いを受けることについての考え方

問 17 在住外国人が不利益な取扱いを受けることがあります。あなたはこのことについてどう思いますか。(✓は1つ)

図 22 在住外国人が不利益な取扱いを受けることについての考え方



在住外国人が不利益な取扱いを受けることについての考え方について、「外国人に対する差別だ」、「風習・習慣や経済状態が違うのでやむを得ない」がともに3割

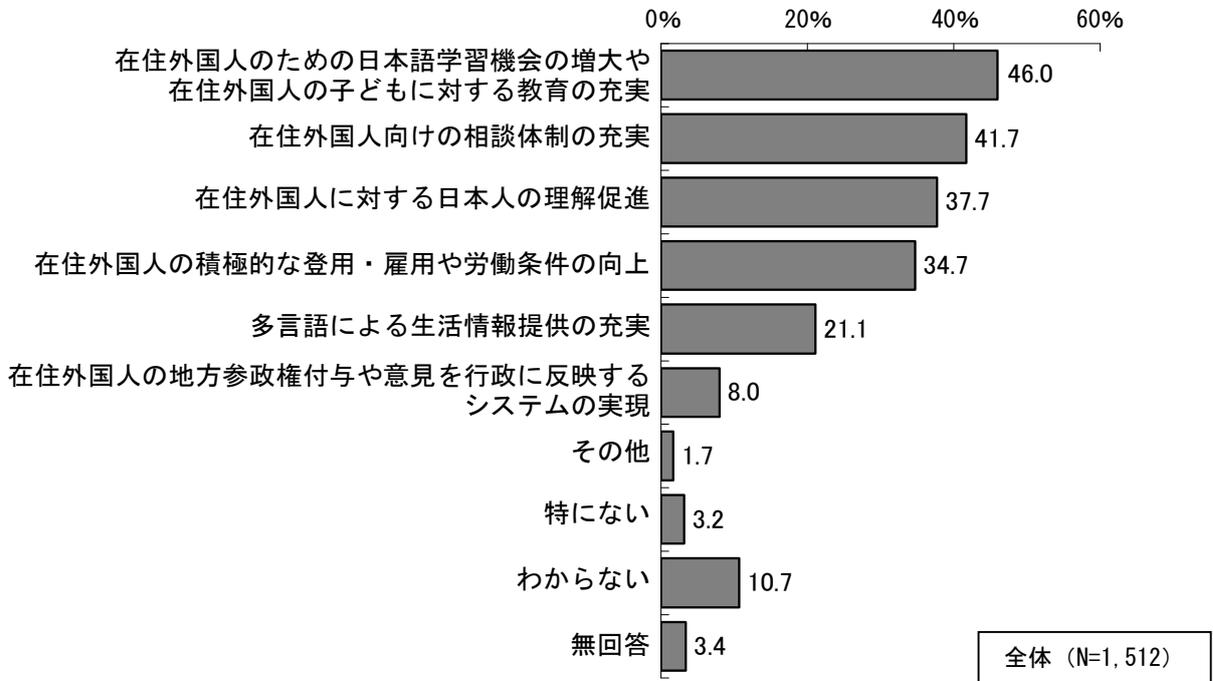
在住外国人が不利益な取扱いを受けることについての考え方について、「外国人に対する差別だ」と回答した人の割合が30.2%と最も高く、次いで「風習・習慣や経済状態が違うのでやむを得ない」(29.1%)、「日本の事情に慣れるまでトラブルがあっても仕方がない」(18.1%)の順となっている。

年齢別で比較すると、「外国人に対する差別だ」では20～49歳で回答した人の割合が4割と高くなっている。

ア 在住外国人の人権を守るために必要なこと

問 18 在住外国人の人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(✓は3つまで)

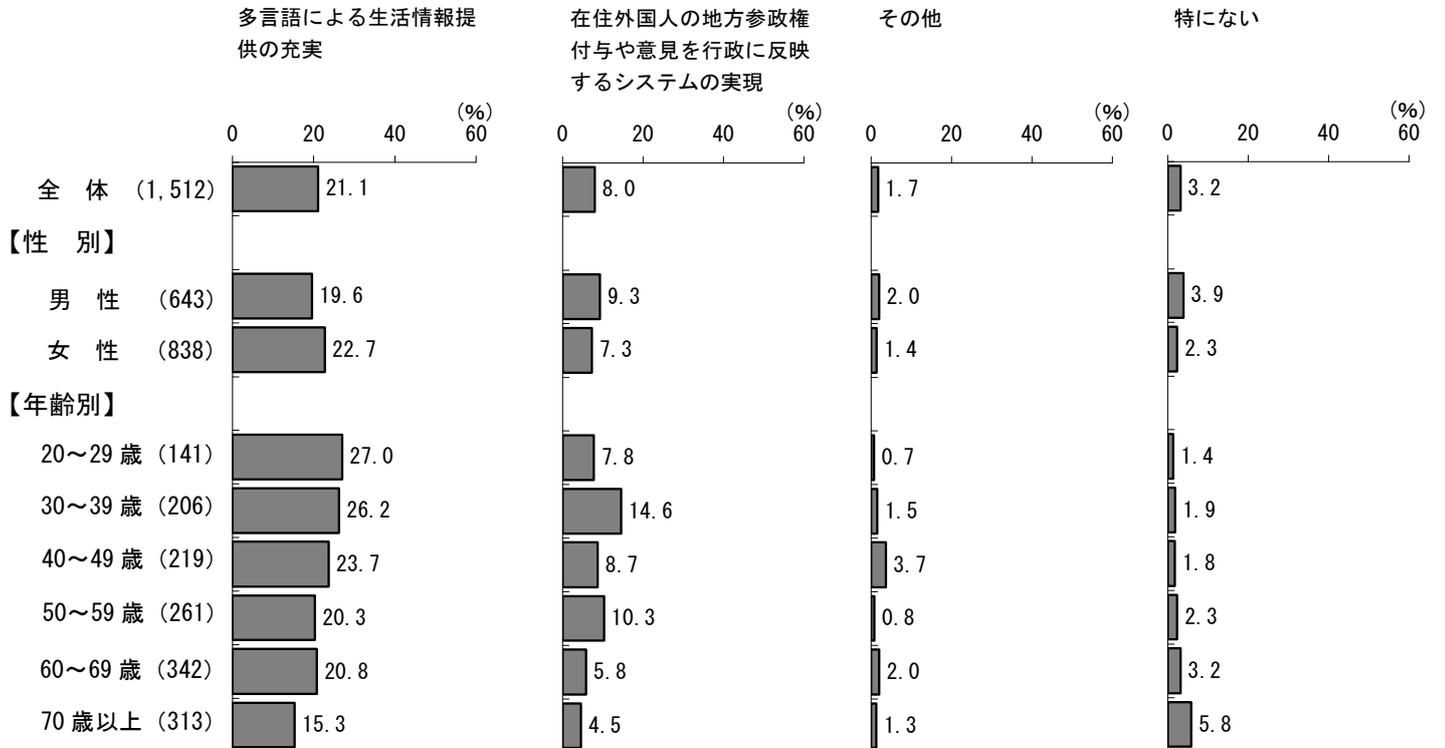
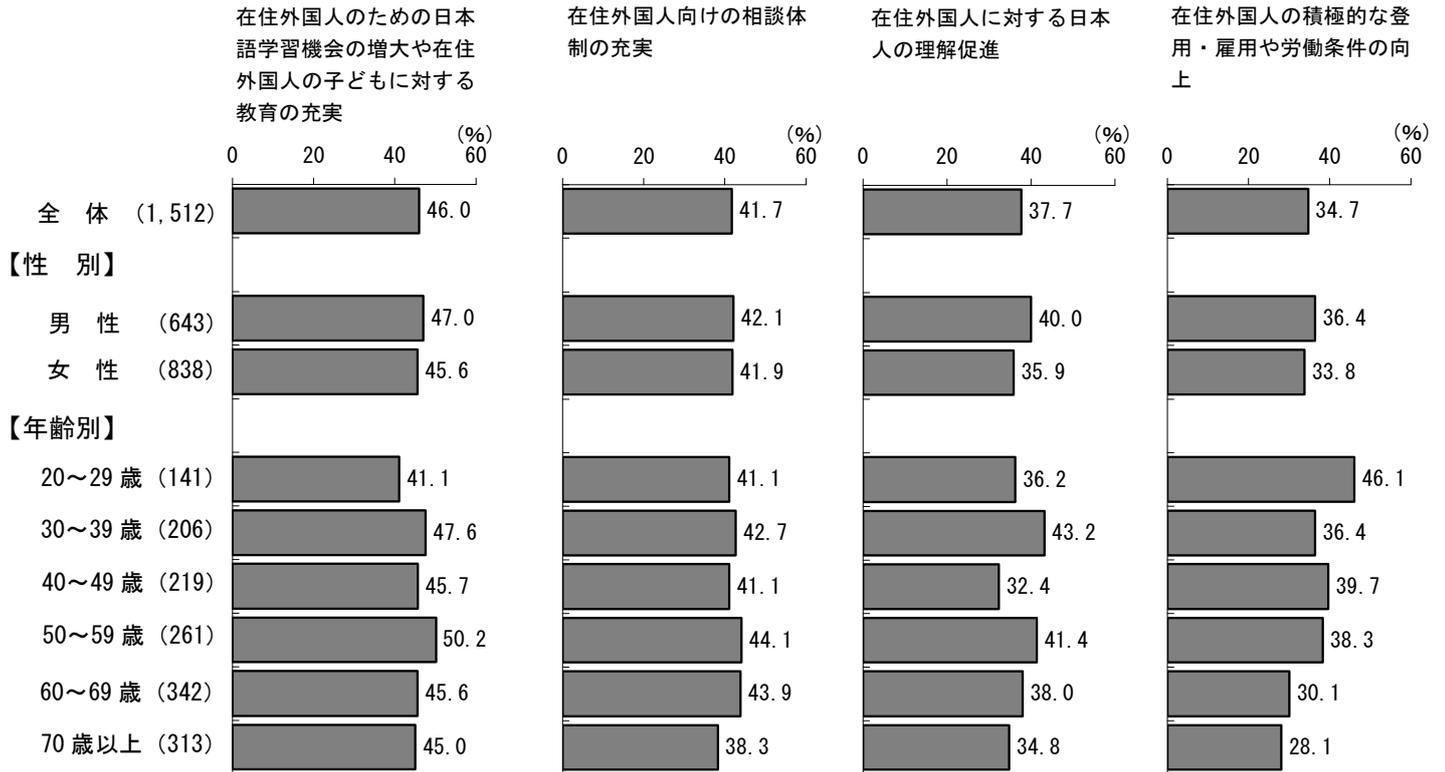
①図 23-1 在住外国人の人権を守るために必要なこと【全体】

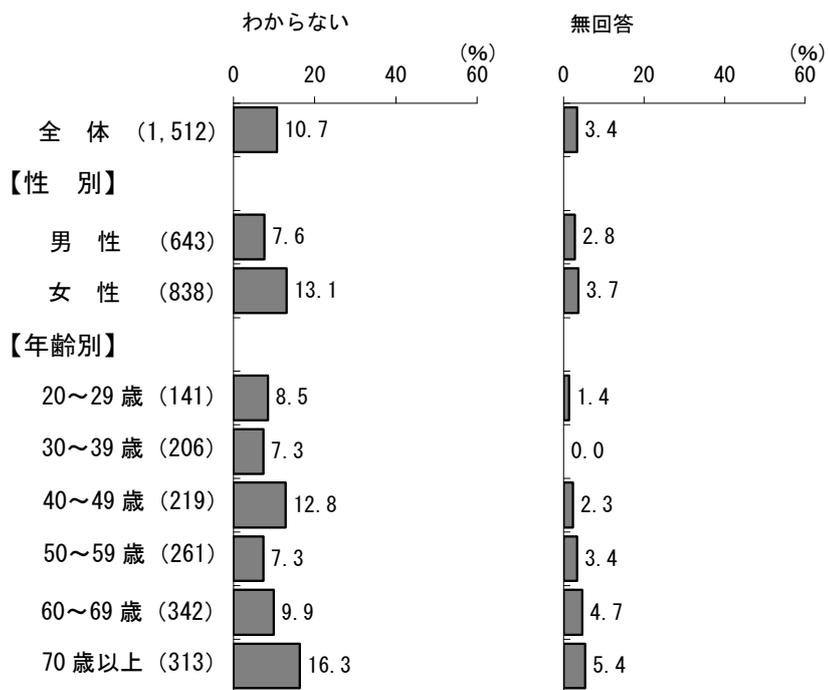


在住外国人の人権が守られるために必要なことについて、「在住外国人のための日本語学習機会の増大や在住外国人の子どもに対する教育の充実」が5割

在住外国人の人権を守るために必要なことについて、「在住外国人のための日本語学習機会の増大や在住外国人の子どもに対する教育の充実」と回答した人の割合が46.0%と最も高く、次いで「在住外国人向けの相談体制の充実」(41.7%)、「在住外国人に対する日本人の理解促進」(37.7%)の順となっている。

②図 23-2 在住外国人の人権を守るために必要なこと【性別・年齢別】



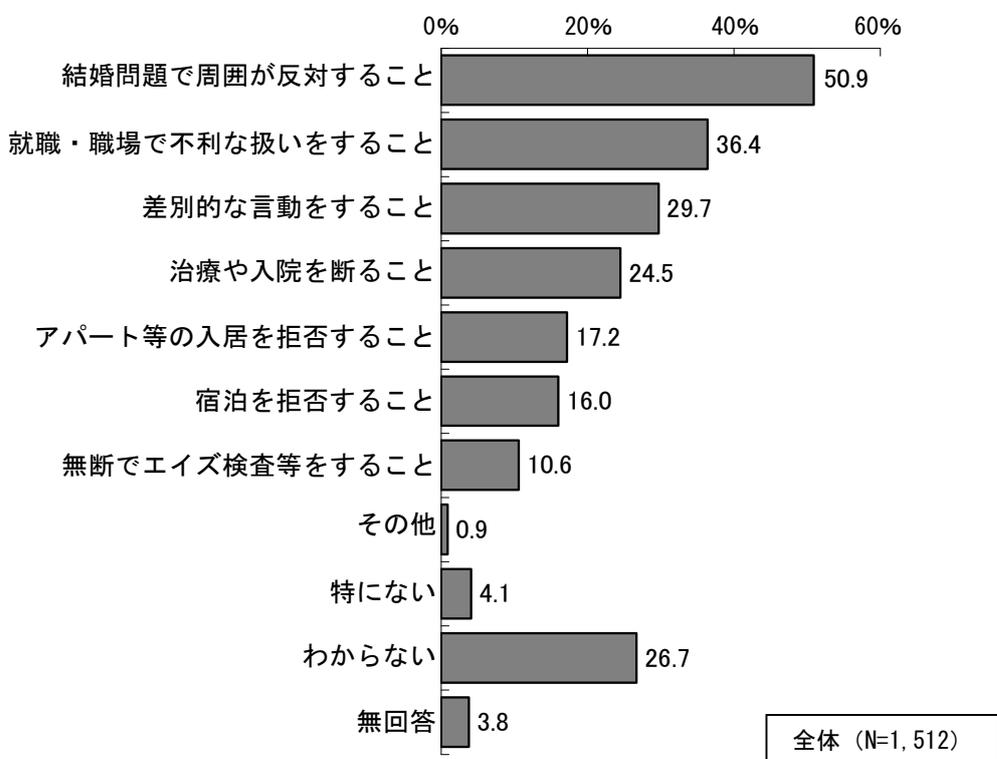


年齢別で比較すると、「在住外国人の積極的な登用・雇用や労働条件の向上」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなる傾向にある。

(10) HIV感染者等に関し、どのような問題が起きているか

問 19 あなたは、H I V（ヒト免疫不全ウイルス）感染者等に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。（✓はいくつでも）

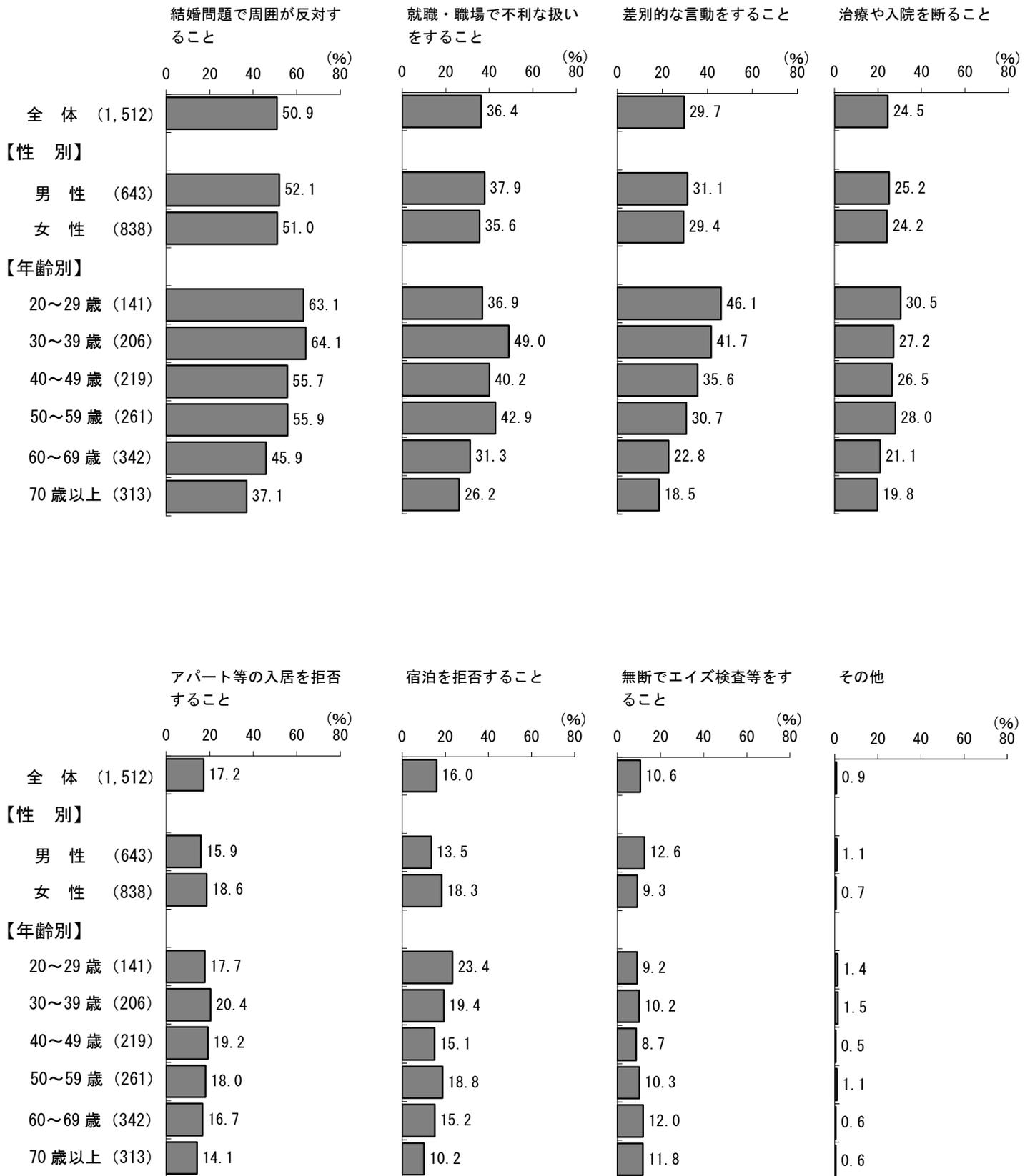
①図 24-1 H I V感染者等に関し、どのような問題が起きているか【全体】

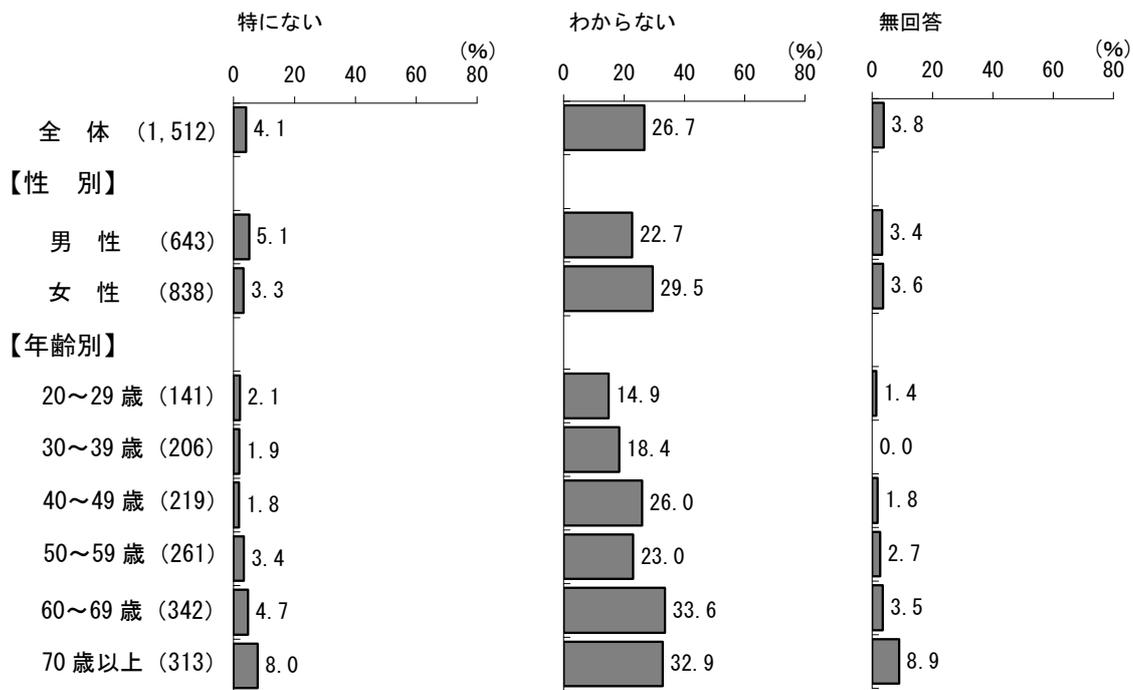


**H I V感染者等に関する人権問題について、「結婚問題で周囲が反対すること」が5割**

H I V感染者等に関し、どのような問題が起きているかについて、「結婚問題で周囲が反対すること」と回答した人の割合が 50.9%と最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いをすること」(36.4%)、「差別的な言動をすること」(29.7%)の順となっている。

②図 24-2 HIV感染者等に関し、どのような問題が起きているか【性別・年齢別】



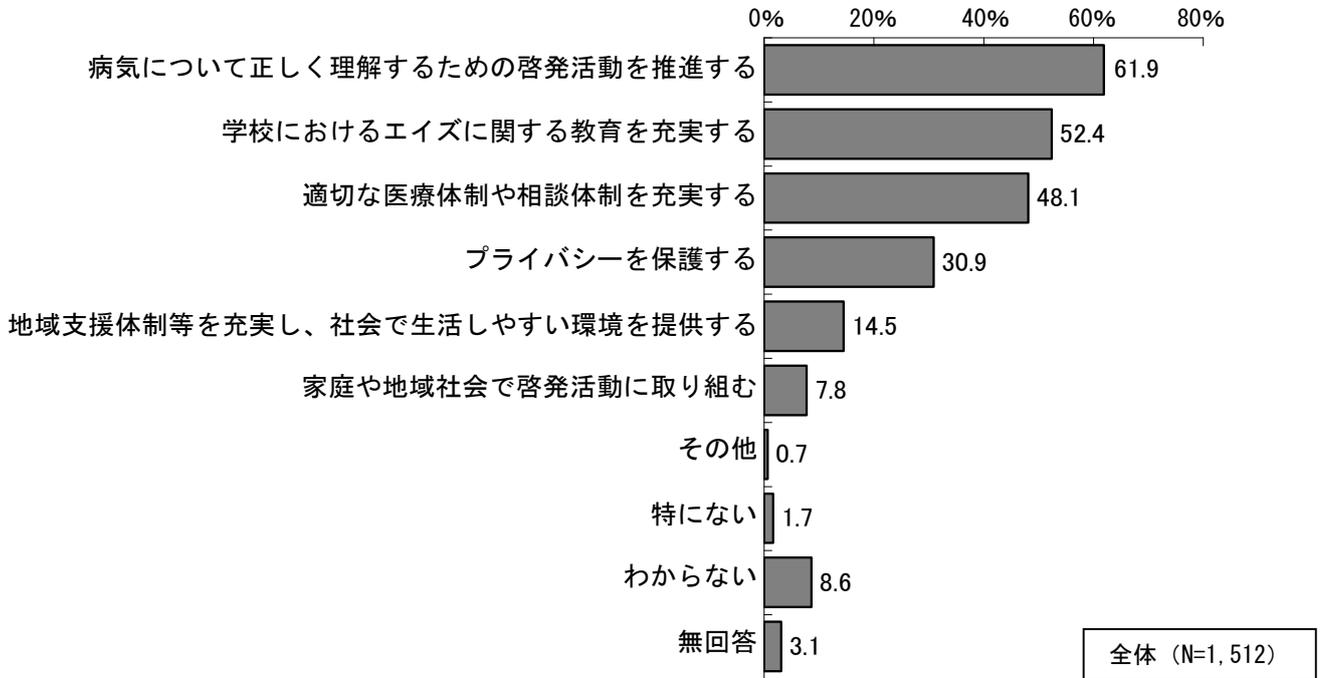


年齢別で比較すると、「結婚問題で周囲が反対すること」では20～39歳で回答した人の割合が6割を超え高くなっている。また「差別的な言動をすること」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなっている。

ア HIV感染者等の人権を守るために必要なこと

問 20 HIV感染者等の人権が守られるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(✓は3つまで)

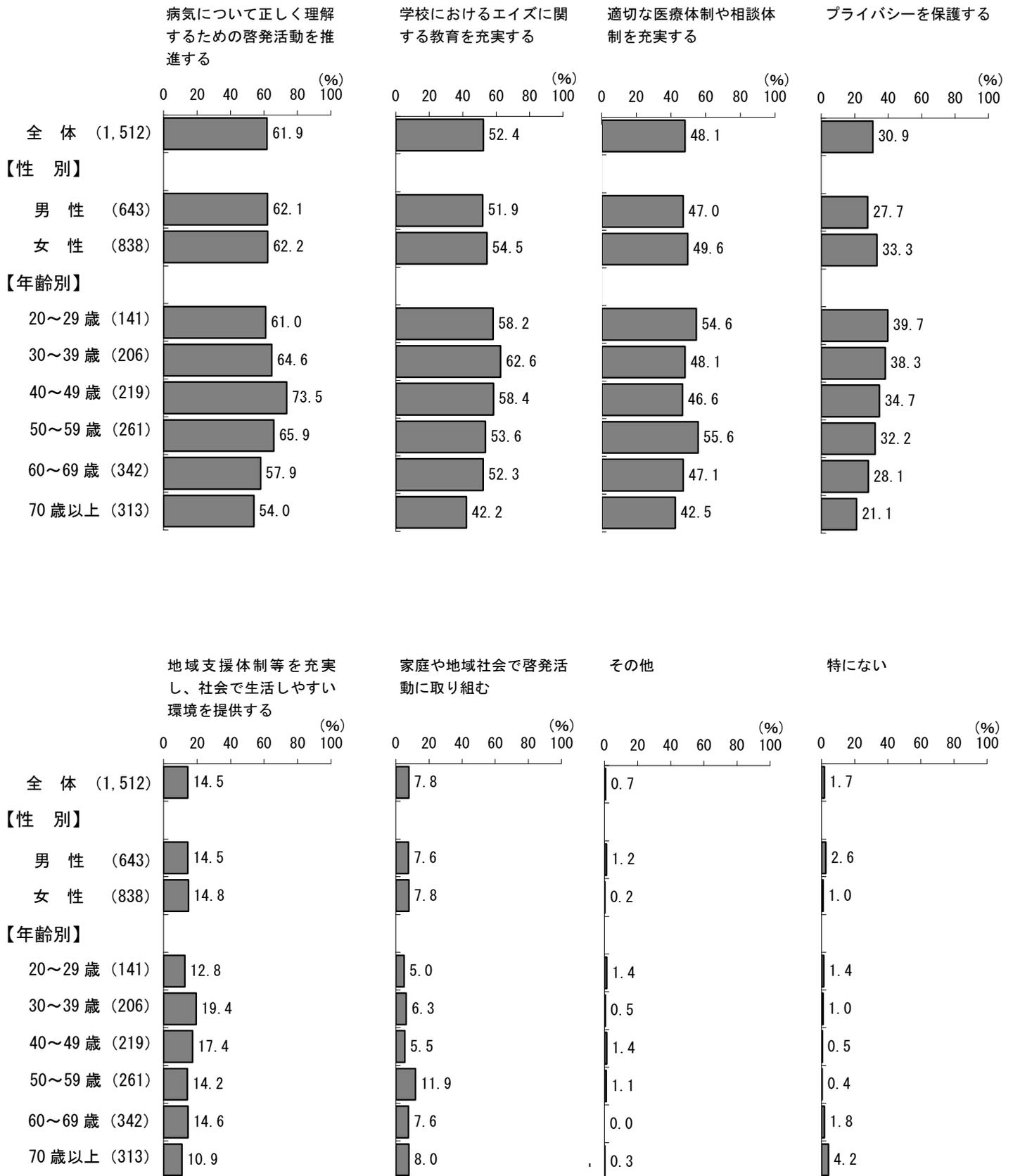
①図 25-1 HIV感染者等の人権を守るために必要なこと【全体】

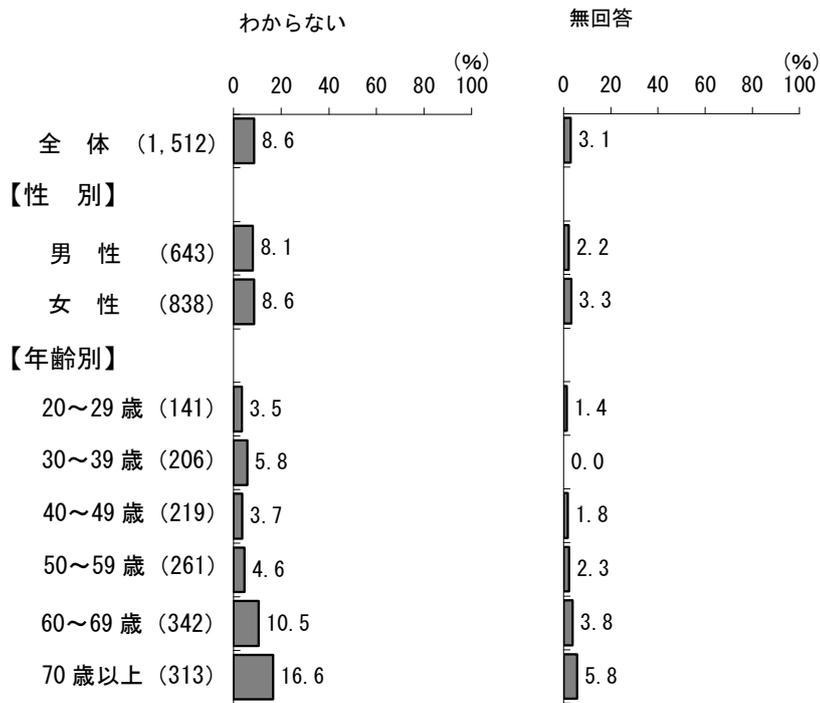


**HIV感染者等の人権が守られるために必要なことについて、「病気について正しく理解するための啓発活動を推進する」が6割**

HIV感染者等の人権を守るために必要なことについて、「病気について正しく理解するための啓発活動を推進する」と回答した人の割合が61.9%と最も高く、次いで「学校におけるエイズに関する教育を充実する」(52.4%)、「適切な医療体制や相談体制を充実する」(48.1%)の順となっている。

②図 25-2 HIV感染者等の人権を守るために必要なこと【性別・年齢別】



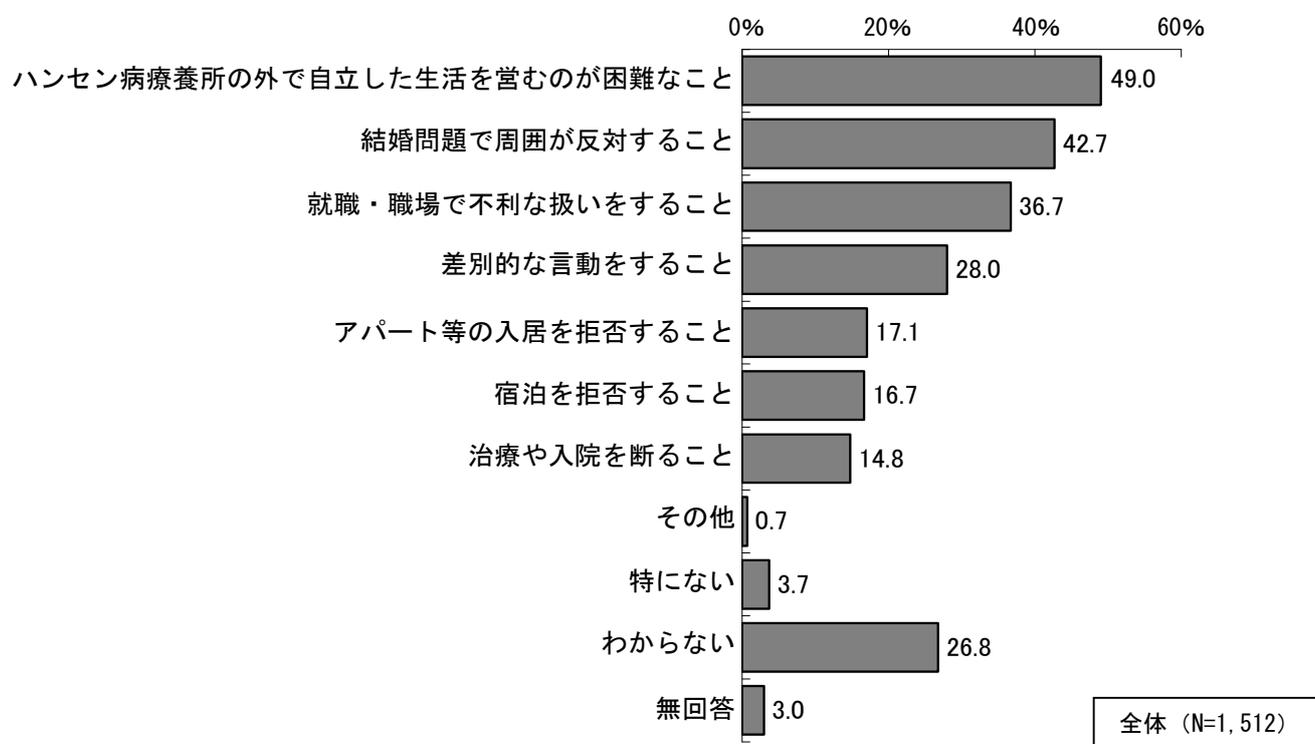


年齢別で比較すると、「病気について正しく理解するための啓発活動を推進する」では40～49歳で回答した人の割合が73.5%と高くなっている。また「プライバシーを保護する」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなる傾向にある。

(11)ハンセン病患者・回復者と家族に関し、どのような問題が起きているか

問 21 あなたは、ハンセン病患者・回復者と家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(✓はいくつでも)

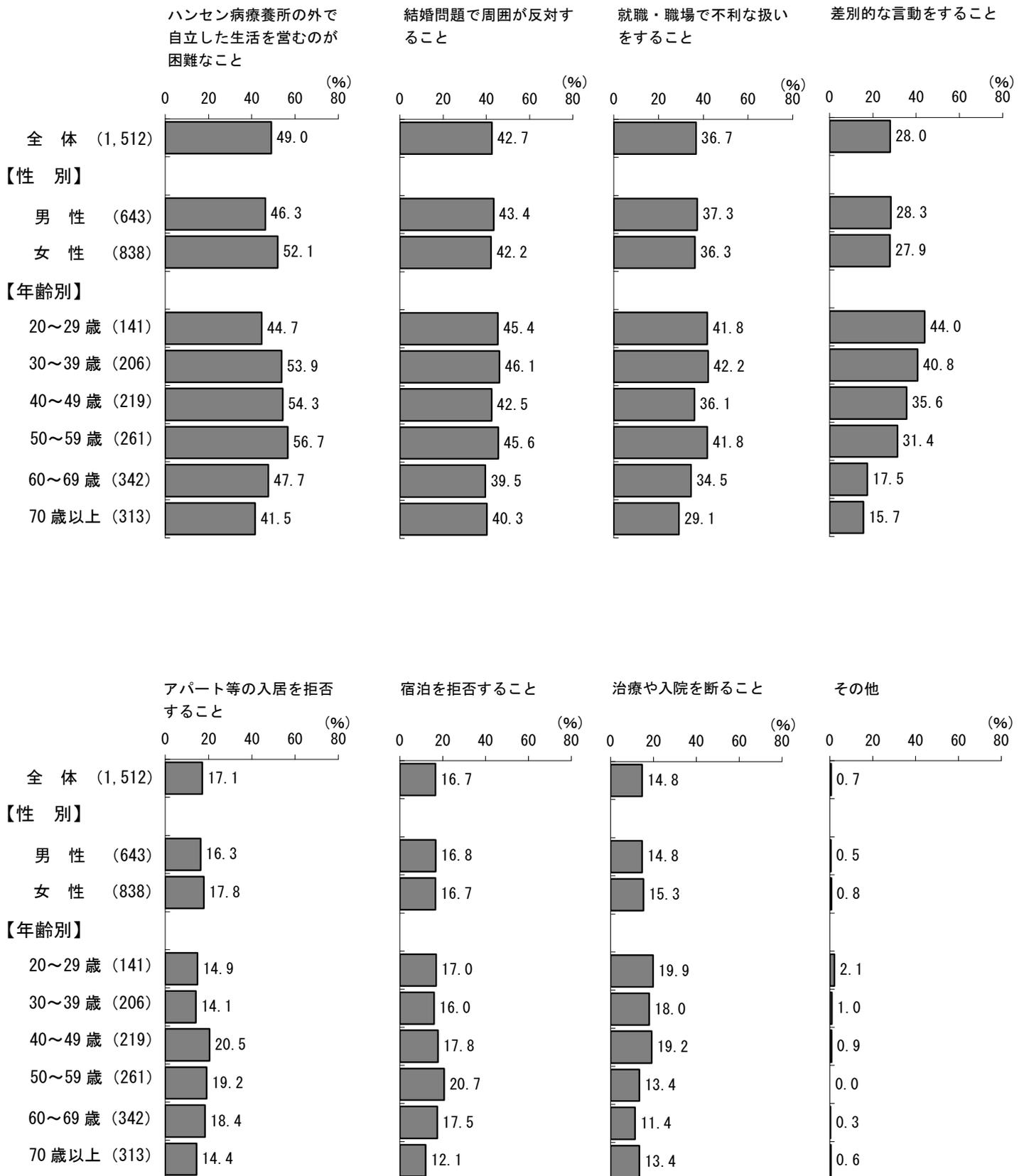
①図 26-1 ハンセン病患者・回復者と家族に関し、どのような問題が起きているか【全体】

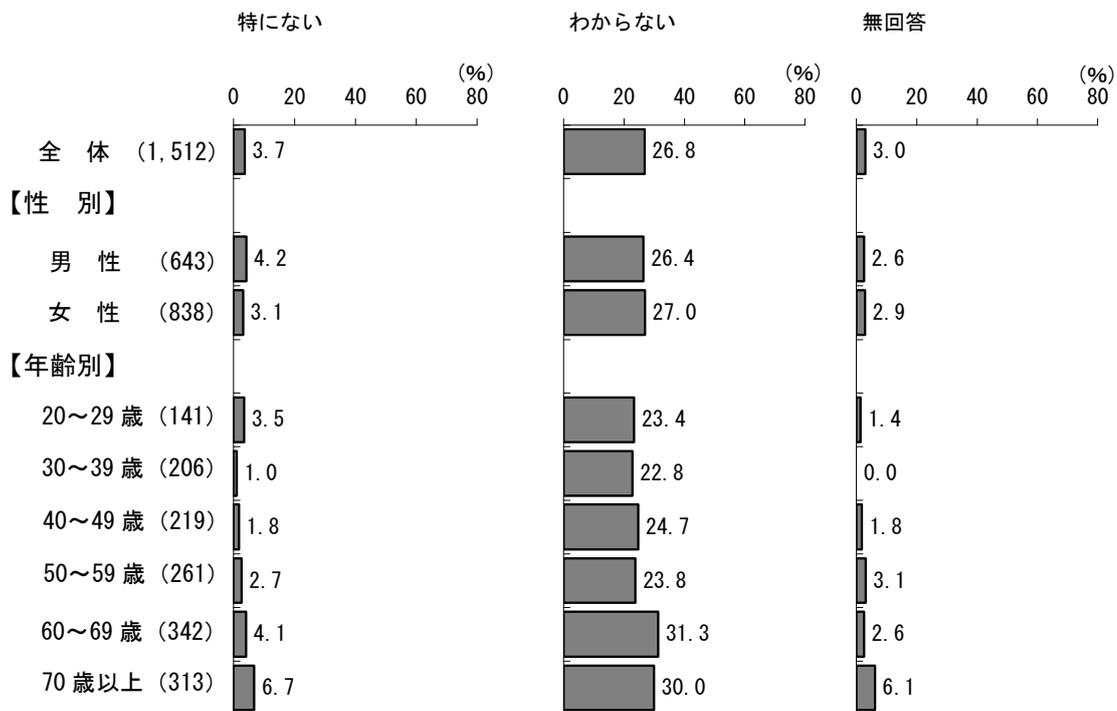


ハンセン病患者・回復者と家族に関する人権問題について、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」が5割

ハンセン病患者・回復者と家族に関し、どのような問題が起きているかについて、「ハンセン病療養所の外で自立した生活を営むのが困難なこと」と回答した人の割合が49.0%と最も高く、次いで「結婚問題で周囲が反対すること」(42.7%)、「就職・職場で不利な扱いをすること」(36.7%)の順となっている。

②図 26-2 ハンセン病患者・回復者と家族に関し、どのような問題が起きているか【性別・年齢別】



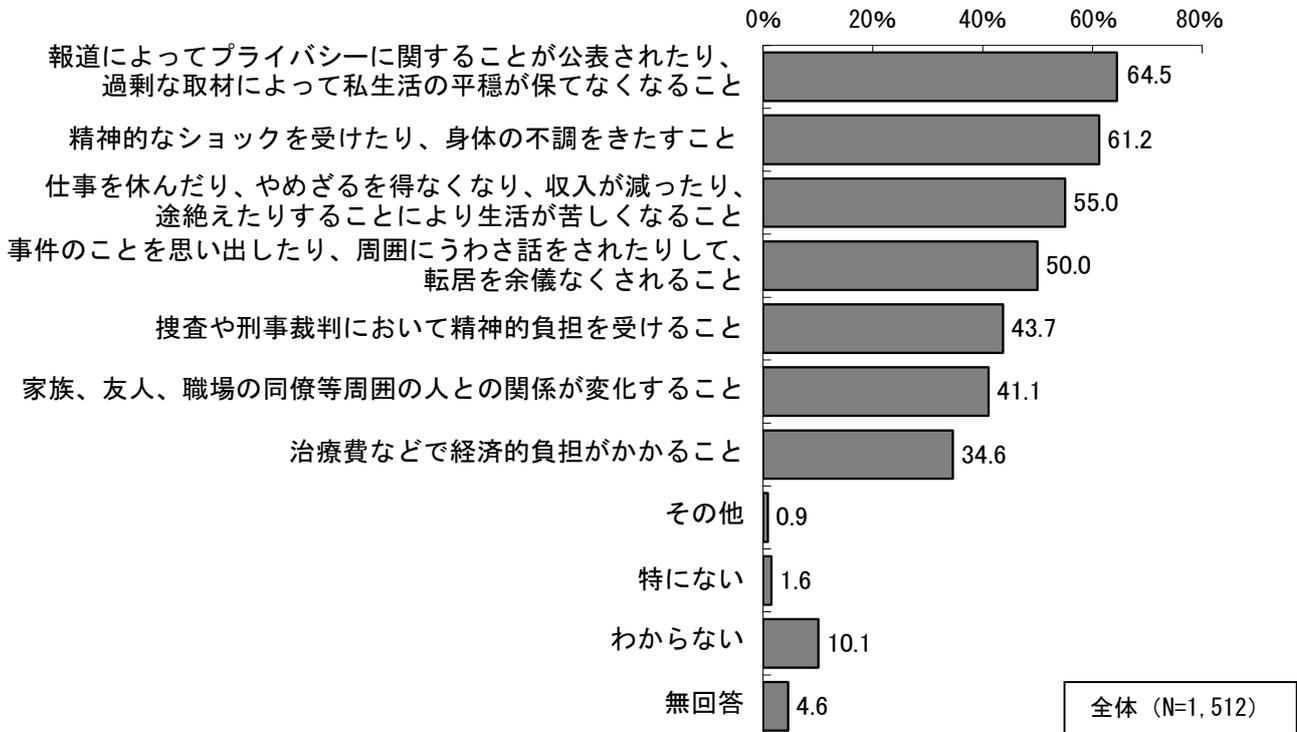


年齢別では、「差別的な言動をすること」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなっている。

(12)犯罪被害者等に関し、どのような問題が起きているか

問 22 あなたは、犯罪被害者等に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(✓はいくつでも)

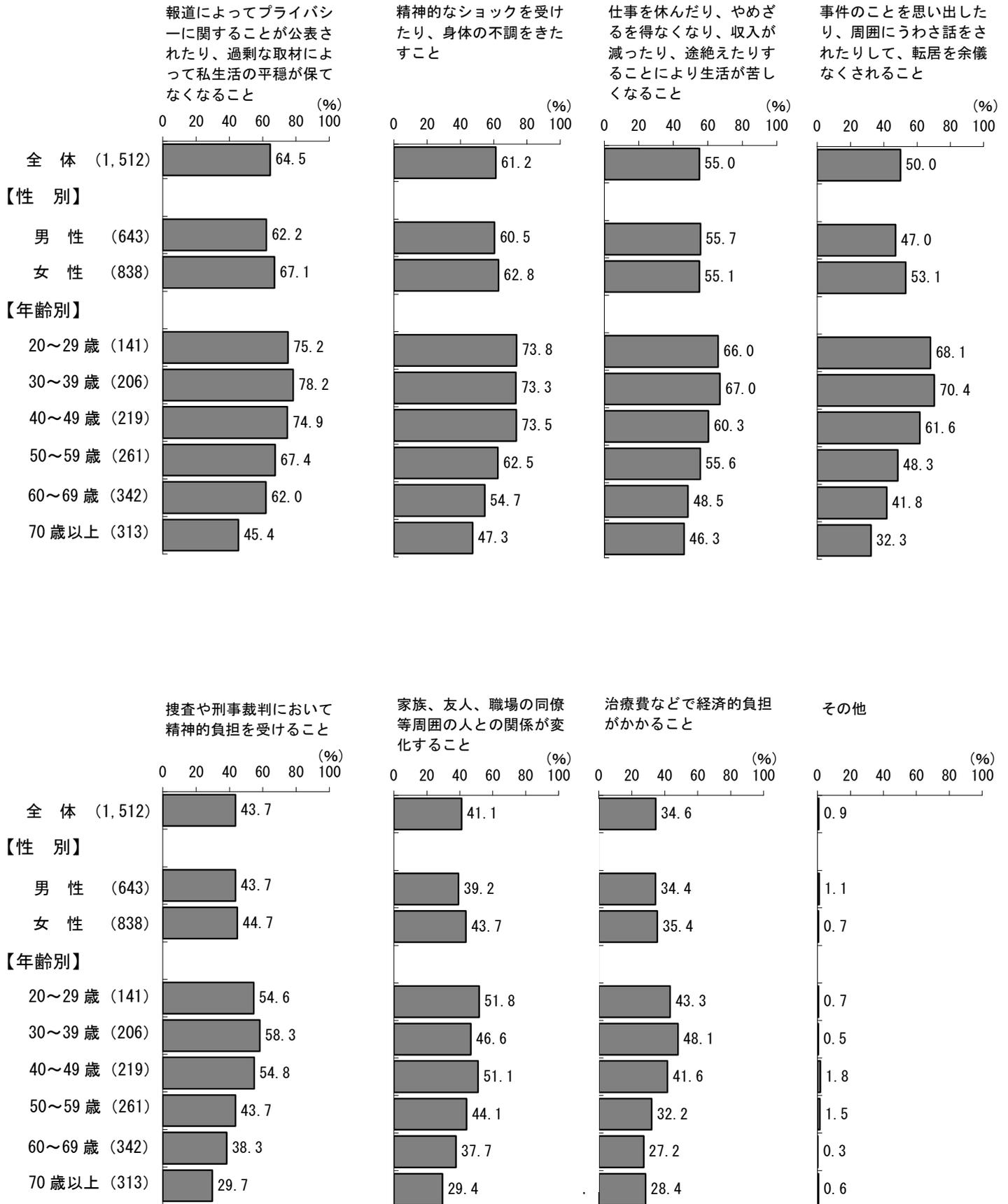
①図 27-1 犯罪被害者等に関し、どのような問題が起きているか【全体】

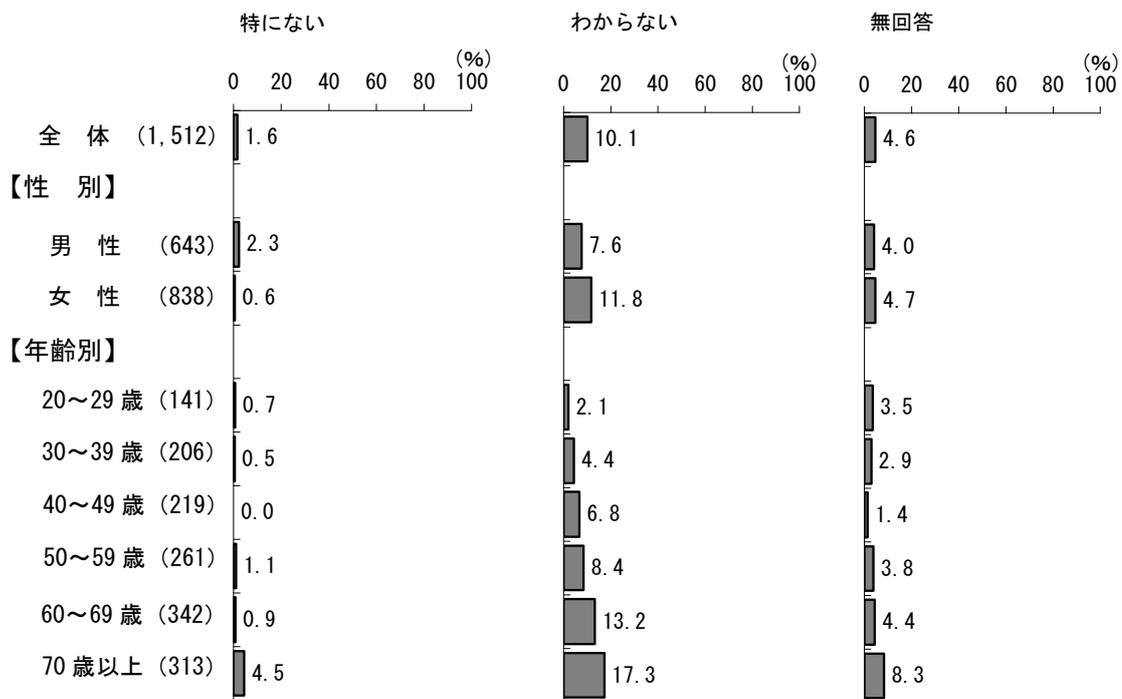


犯罪被害者等に関する人権問題について、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、過剰な取材によって私生活の平穩が保てなくなる」、「精神的なショックを受けたり、身体の不調をきたす」がともに6割以上

犯罪被害者等に関し、どのような問題が起きているかについて、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、過剰な取材によって私生活の平穩が保てなくなる」と回答した人の割合が64.5%と最も高く、次いで「精神的なショックを受けたり、身体の不調をきたすこと」(61.2%)、「仕事を休んだり、やめざるを得なくなり、収入が減ったり、途絶えたりすることにより生活が苦しくなること」(55.0%)の順となっている。

②図 27-2 犯罪被害者等に関し、どのような問題が起きているか【性別・年齢別】



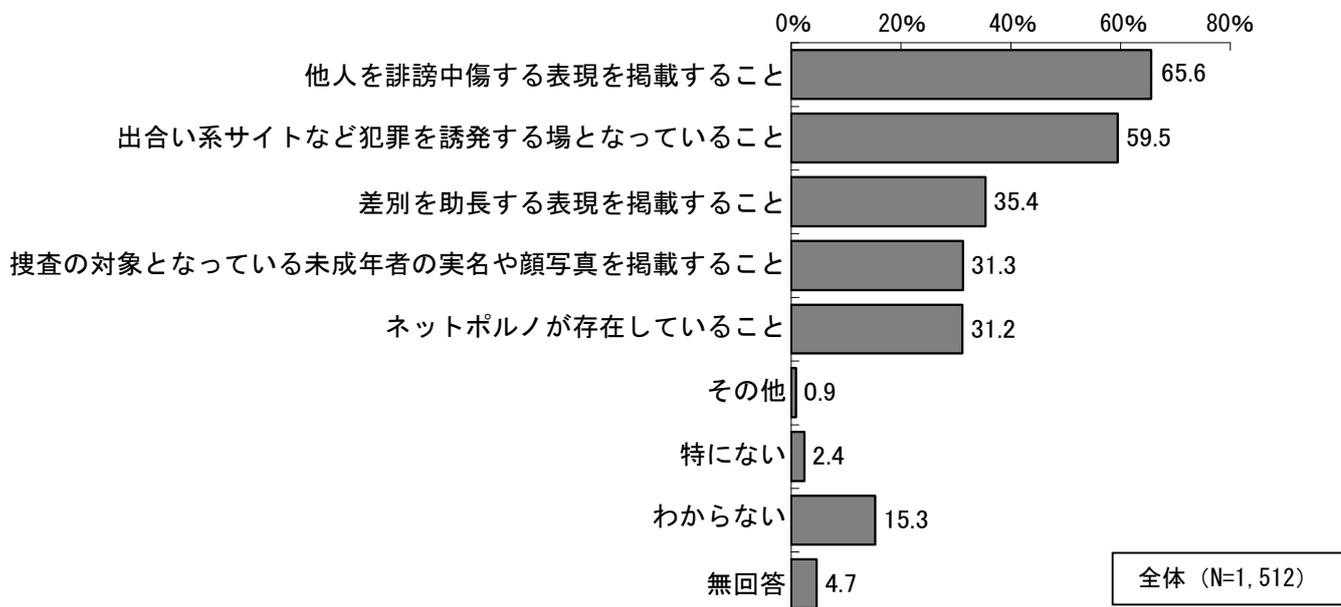


年齢別で比較すると、「報道によってプライバシーに関することが公表されたり、過剰な取材によって私生活の平穏が保てなくなること」、「精神的なショックを受けたり、身体の不調をきたすこと」では20～49歳で回答した人の割合が7割を超え高くなっている。

(13)インターネットによる人権侵害に関し、どのような問題が起きているか

問 23 あなたは、インターネットによる人権侵害に関し、現在、どのような問題が起きていると思いますか。(✓はいくつでも)

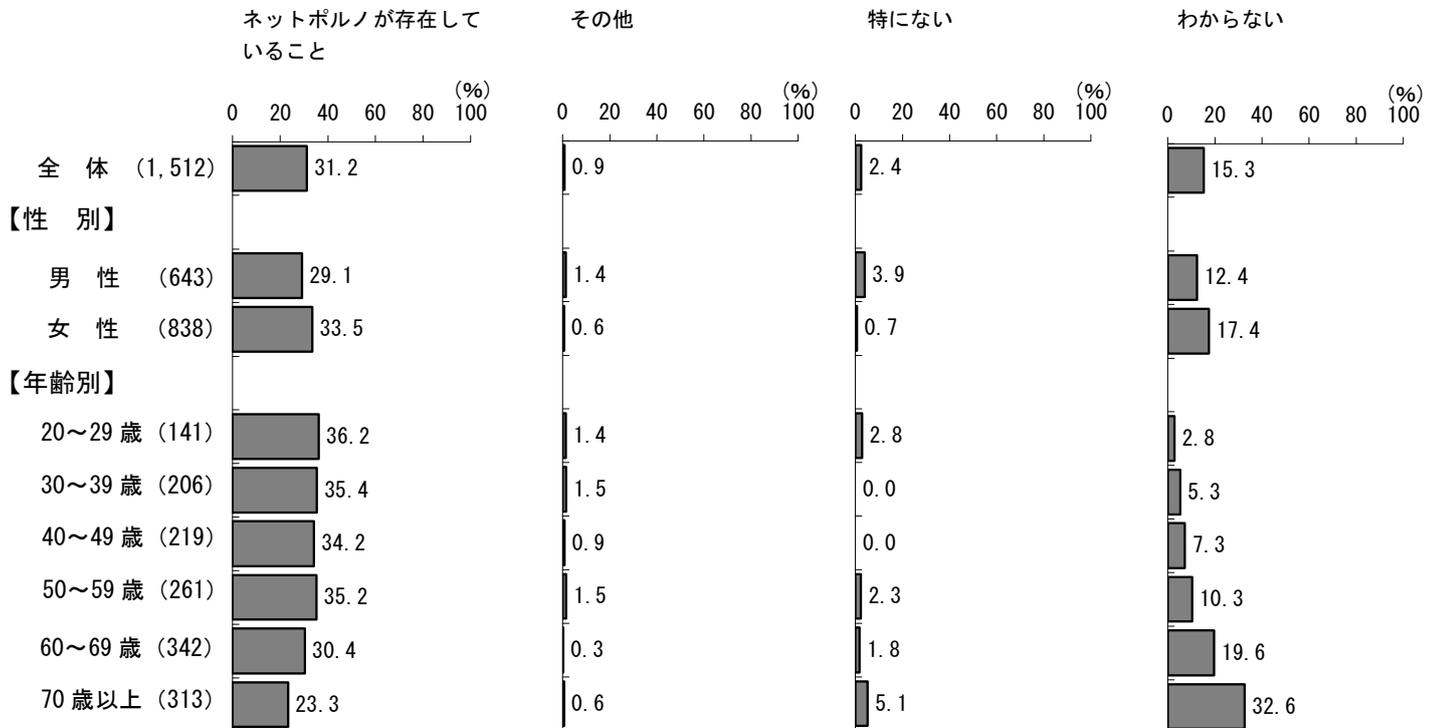
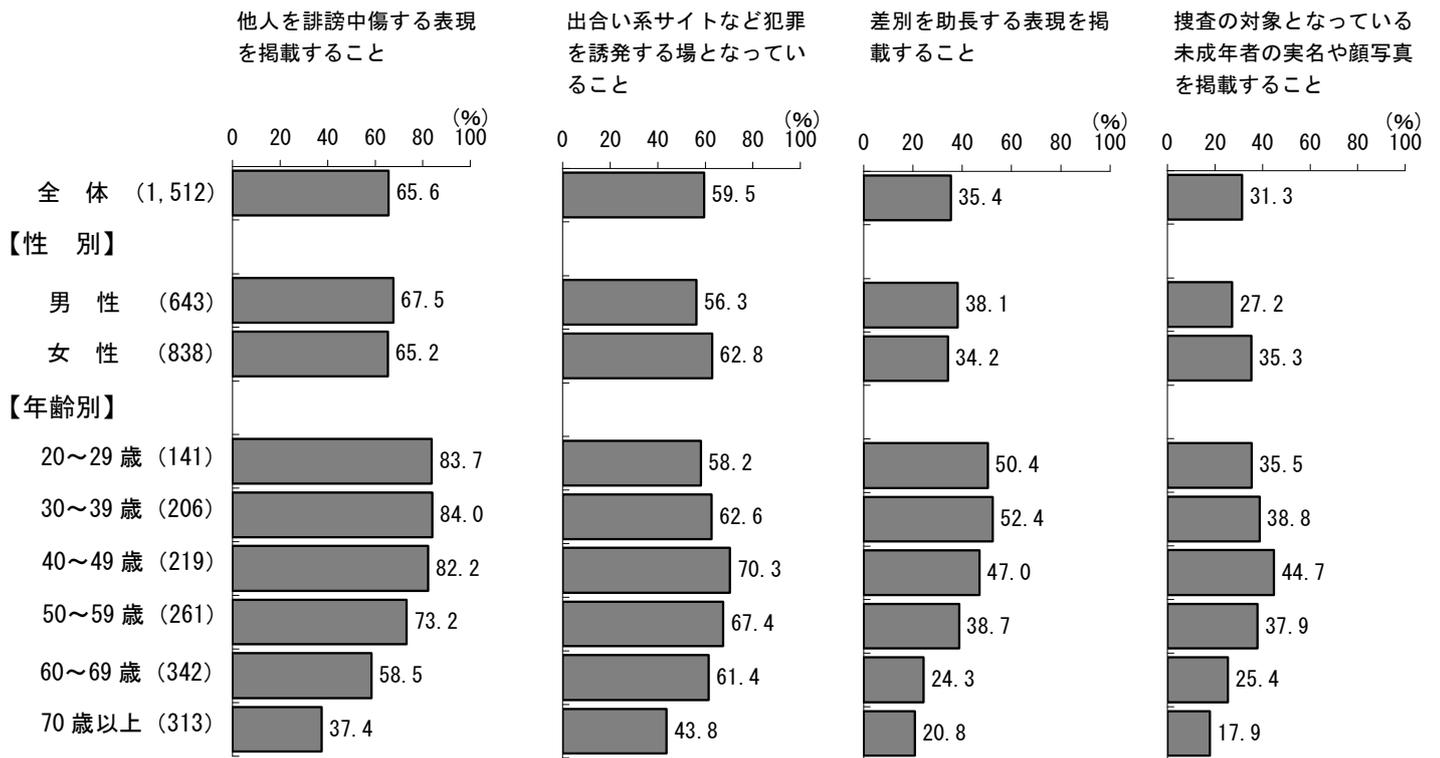
①図 28-1 インターネットによる人権侵害に関し、どのような問題が起きているか【全体】

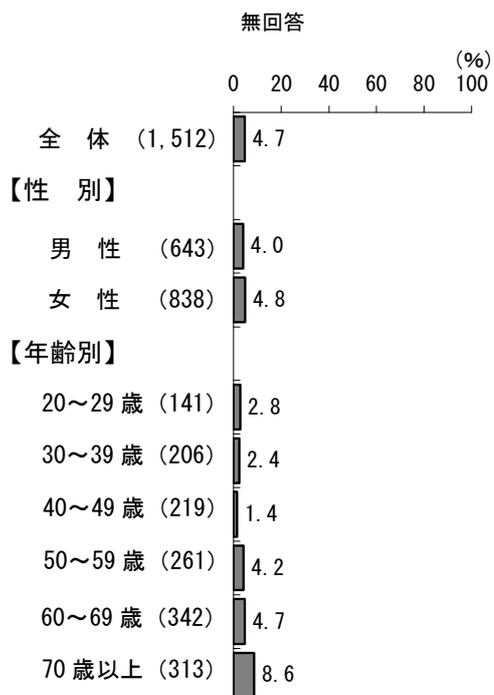


インターネットによる人権侵害に関する人権問題について、「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」が7割、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」が6割

インターネットによる人権侵害に関し、どのような問題が起きているかについて、「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」と回答した人の割合が65.6%と最も高く、次いで「出会い系サイトなど犯罪が誘発する場となっていること」(59.5%)、「差別を助長する表現を掲載すること」(35.4%)の順となっている。

②図 28-2 インターネットによる人権侵害に関し、どのような問題が起きているか【性別・年齢別】





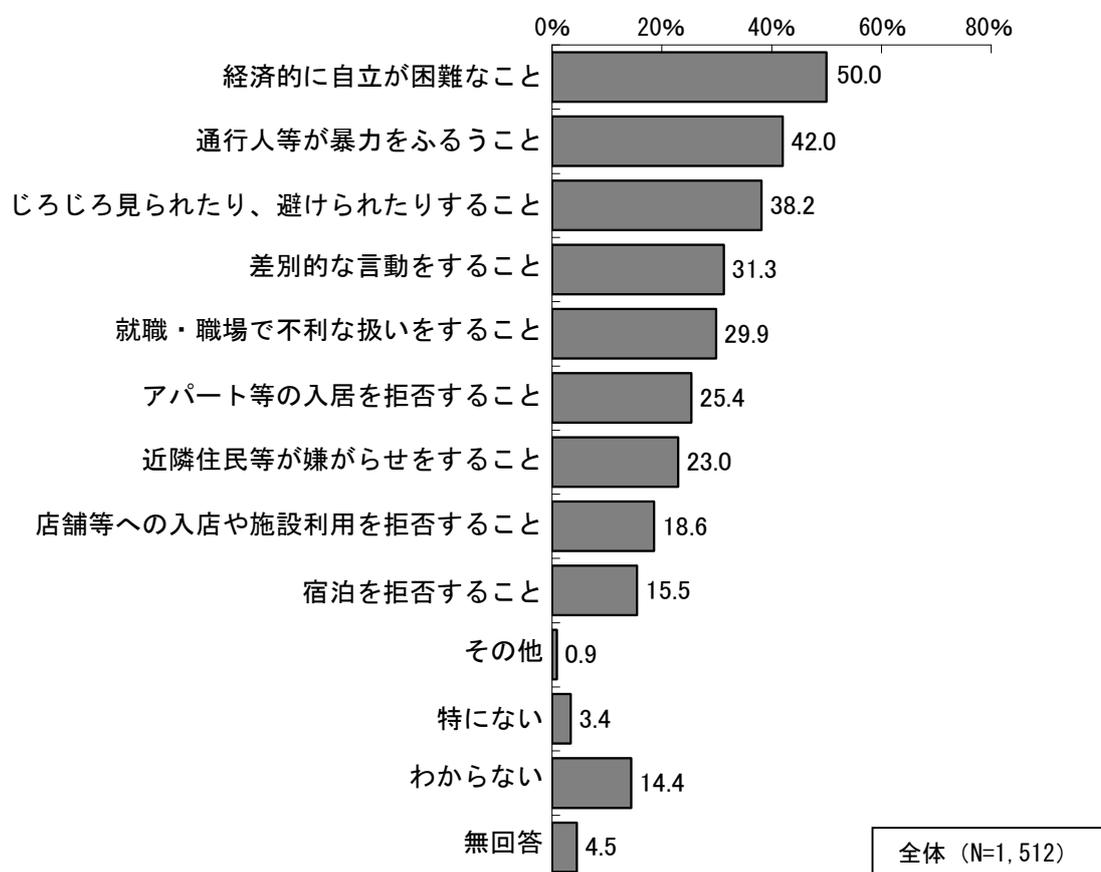
性別で比較すると、女性の方が「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」(62.8%)、「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載すること」(35.3%)と回答した人の割合が、男性の56.3%、27.2%と比べて高くなっている。

年齢別で比較すると、「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」では20～49歳で回答した人の割合が8割を超え高くなっている。

(14)ホームレスに関し、どのような問題が起きているか

問 24 あなたは、ホームレスに関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。  
(✓はいくつでも)

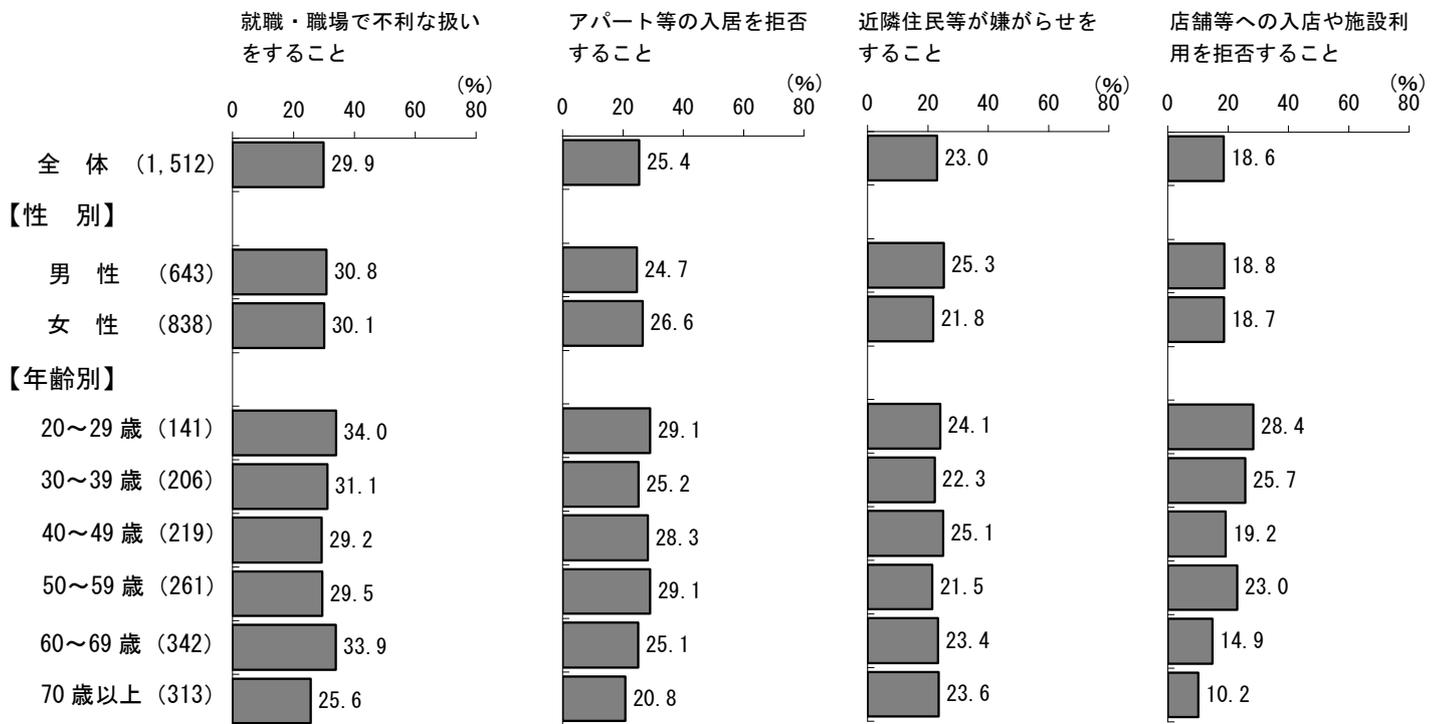
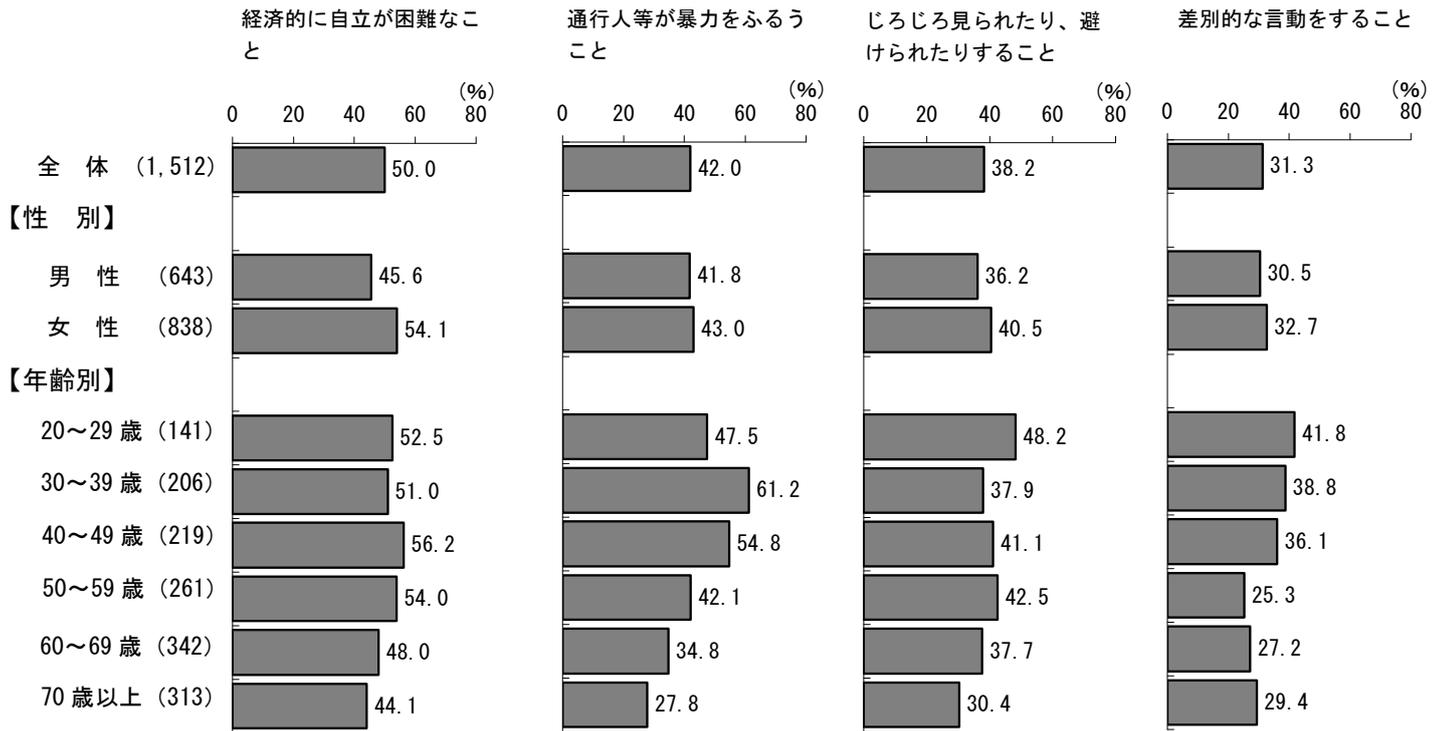
①図 29-1 ホームレスに関し、どのような問題が起きているか【全体】

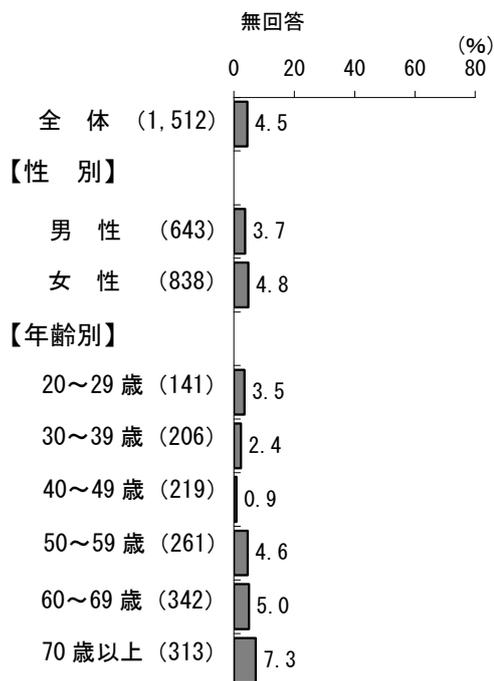
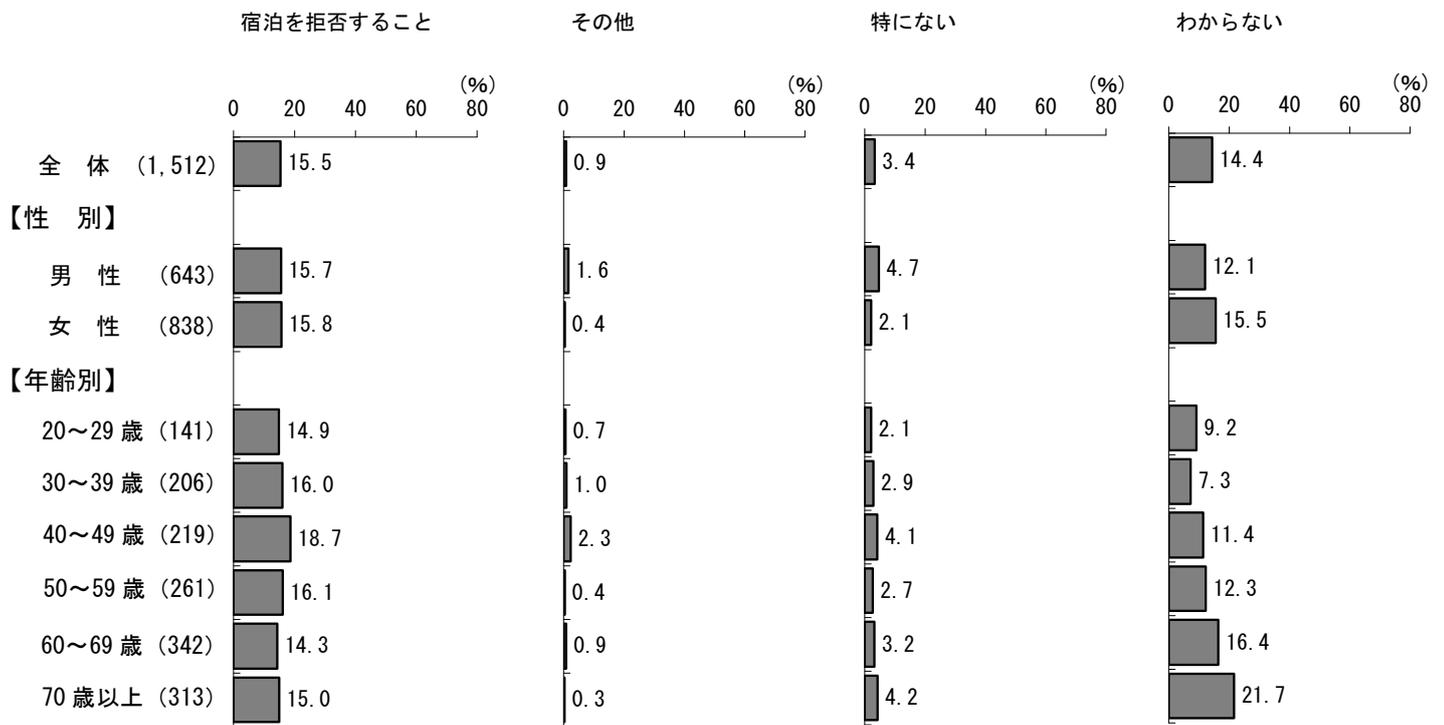


ホームレスに関する人権問題について、「経済的に自立が困難なこと」が5割

ホームレスに関し、どのような問題が起きているかについて、「経済的に自立が困難なこと」と回答した人の割合が50.0%と最も高く、次いで「通行人等が暴力をふるうこと」(42.0%)、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(38.2%)の順となっている。

②図 29-2 ホームレスに関し、どのような問題が起きているか【性別・年齢別】





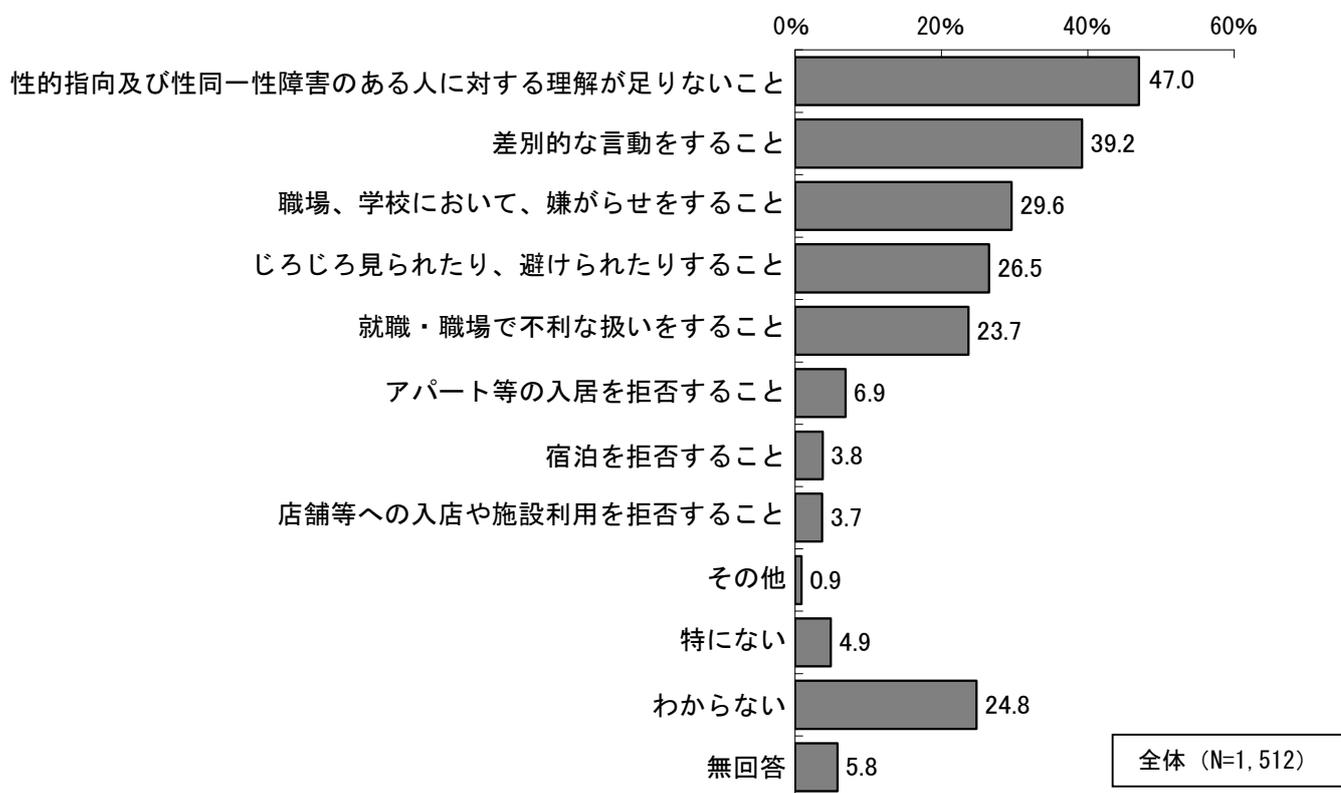
性別で比較すると、女性の方が「経済的に自立が困難なこと」と回答した人の割合が 54.1%と、男性の 45.6%と比べて高くなっている。

年齢別で比較すると、「通行人が暴力をふるうこと」では 30～39 歳で回答した人の割合が 61.2%と高くなっている。

(15) 性的指向、性同一性障害に関し、どのような問題が起きているか

問 25 あなたは、性的指向（異性愛、同性愛、両性愛）及び性同一性障害のある人（生物学的な性ところの性が一致しない人）に関し、どのような人権問題が起きていると思いますか。（✓はいくつでも）

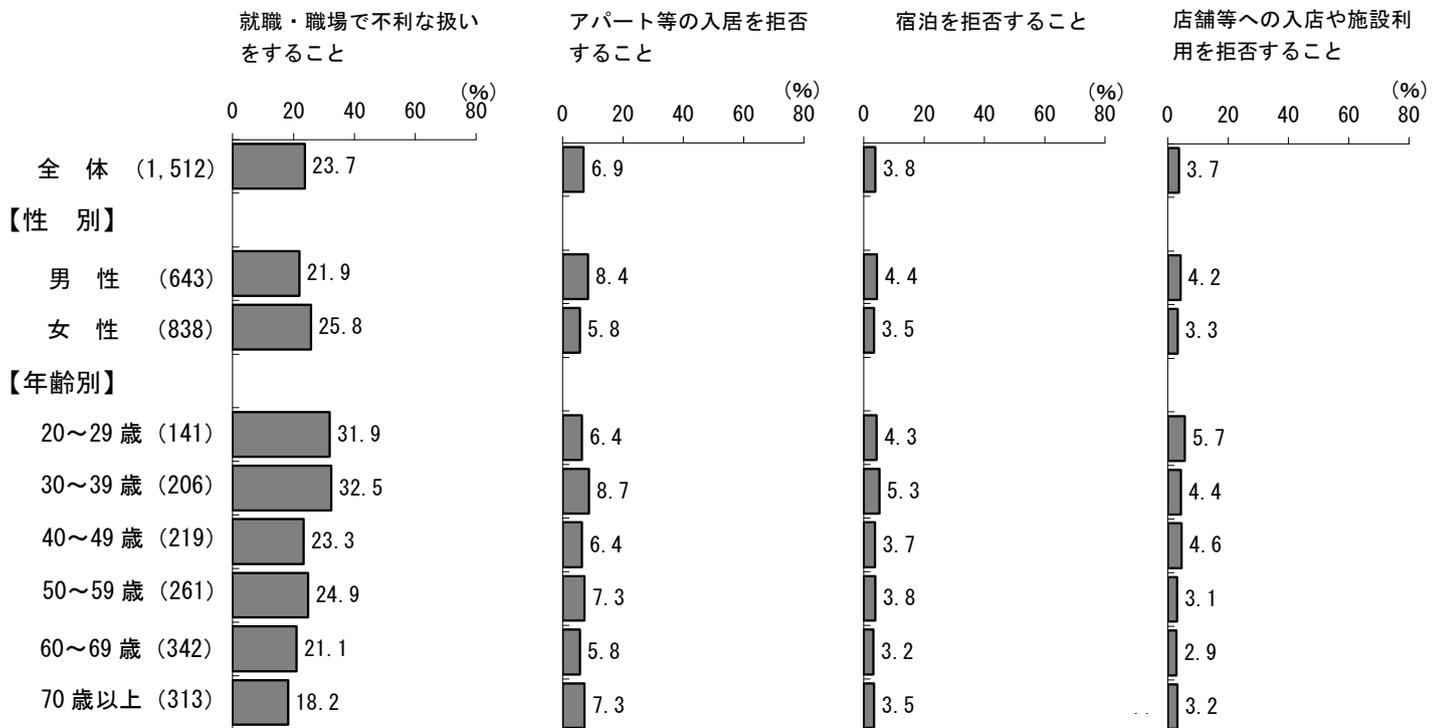
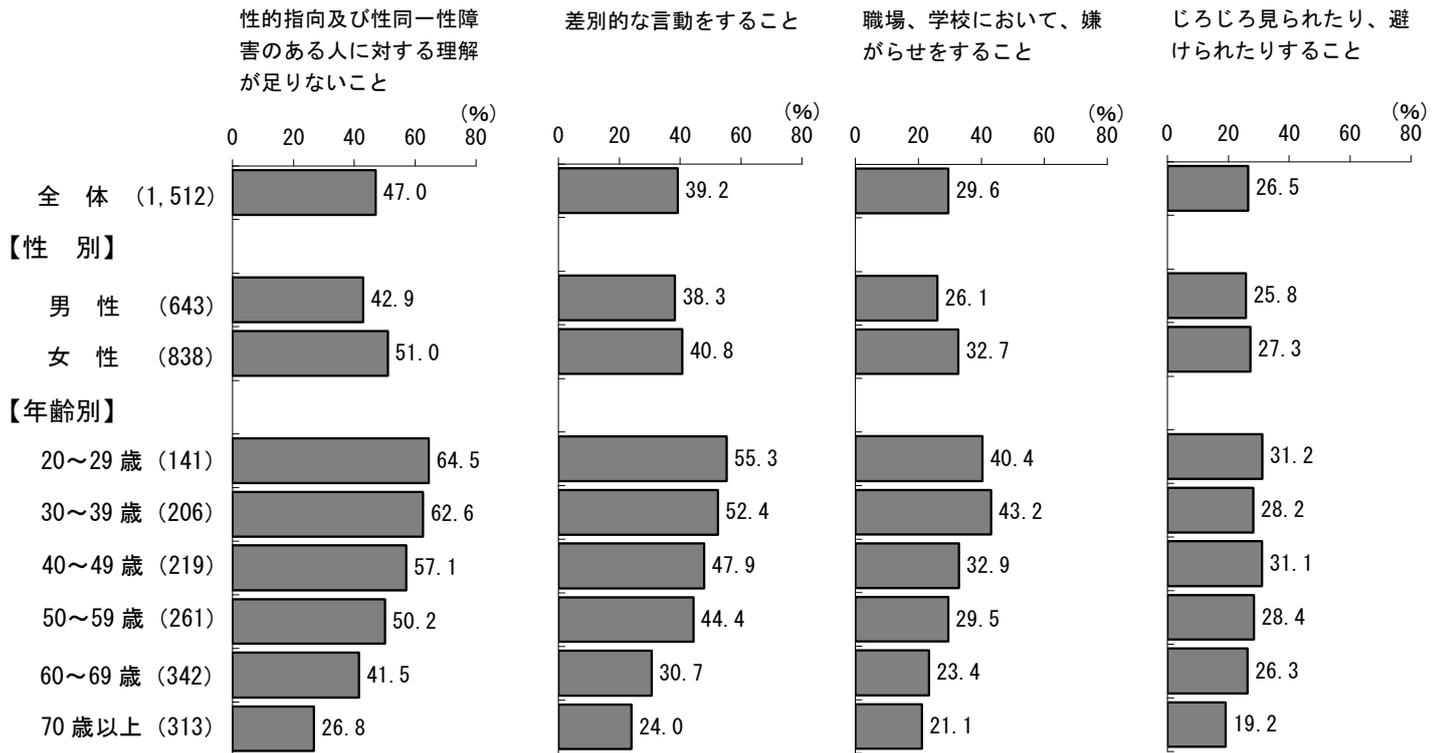
①図 30-1 性的指向、性同一性障害に関し、どのような問題が起きているか【全体】

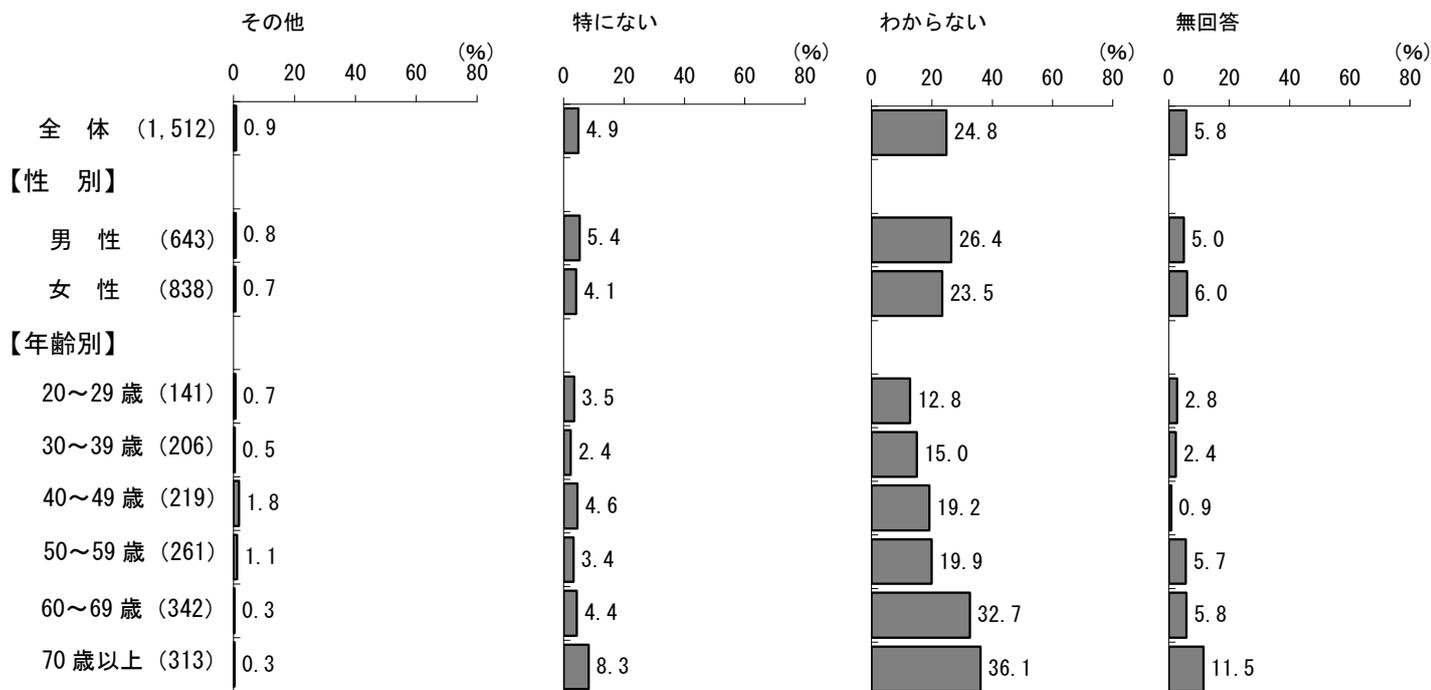


**性的指向、性同一性障害に関する人権問題について、「性的指向及び性同一性障害のある人に対する理解が足りないこと」が5割**

性的指向（異性愛、同性愛、両性愛）及び性同一性障害のある人（生物学的な性ところの性が一致しない人）に関し、どのような人権問題が起きているかについて、「性的指向及び性同一性障害のある人に対する理解が足りないこと」と回答した人の割合が 47.0%と最も高く、次いで「差別的な言動をすること」(39.2%)、「職場、学校において、嫌がらせをすること」(29.6%)の順となっている。

②図 30-2 性的指向、性同一性障害に関し、どのような問題が起きているか【性別・年齢別】





性別で比較すると、女性の方が「性的指向及び性同一性障害のある人に対する理解が足りないこと」(51.0%)、「職場、学校において、嫌がらせをすること」(32.7%)と回答した人の割合が、男性の42.9%、26.1%と比べて高くなっている。

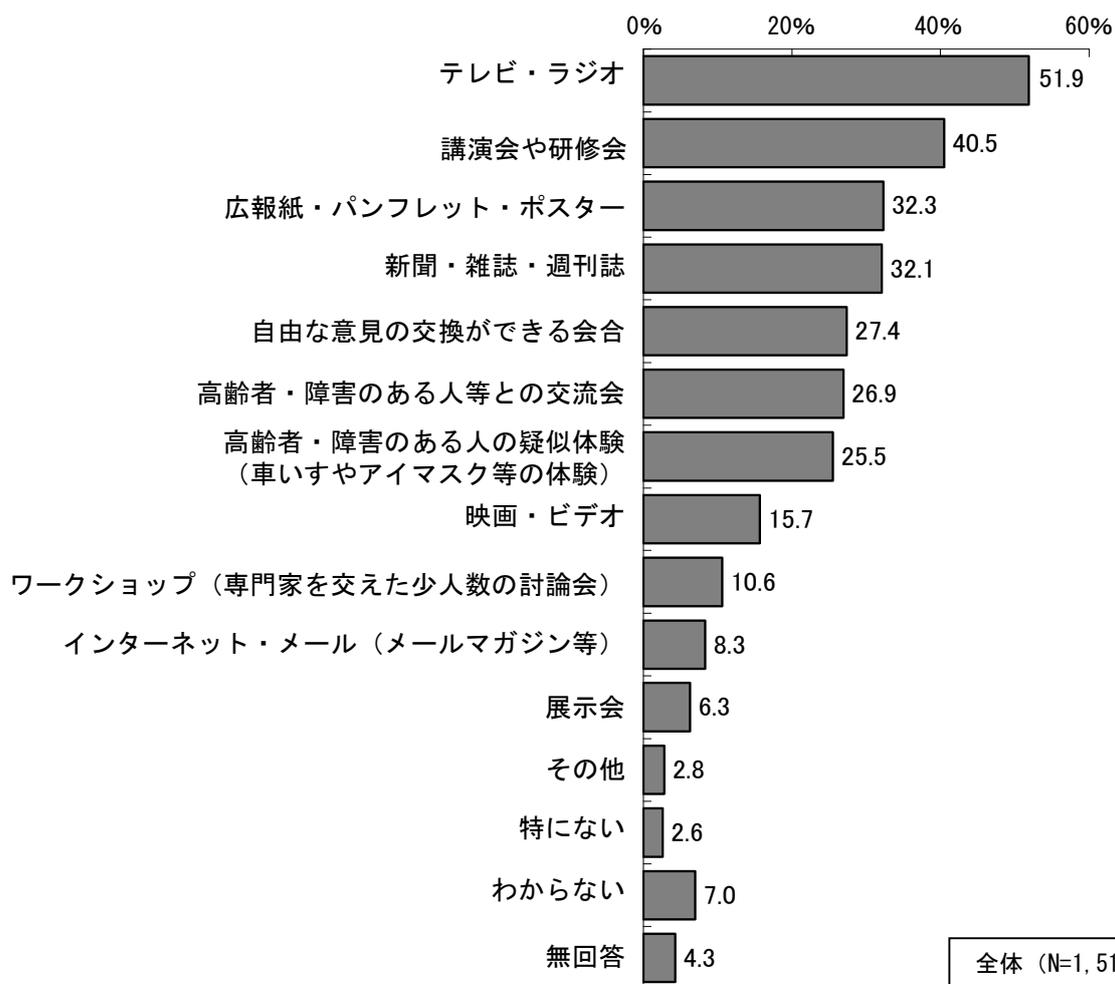
年齢別で比較すると、「性的指向及び性同一性障害のある人に対する理解が足りないこと」、「差別的な言動をすること」と回答した人の割合が、年齢が低くなるにつれて高くなっている。

### 3 人権課題の解決のための方策について

#### (1) どのような啓発活動が効果的と思うか

問 26 あなたは、人権啓発を推進するためには、県民に対してどのような啓発広報活動が効果的だと思いますか。(✓はいくつでも)

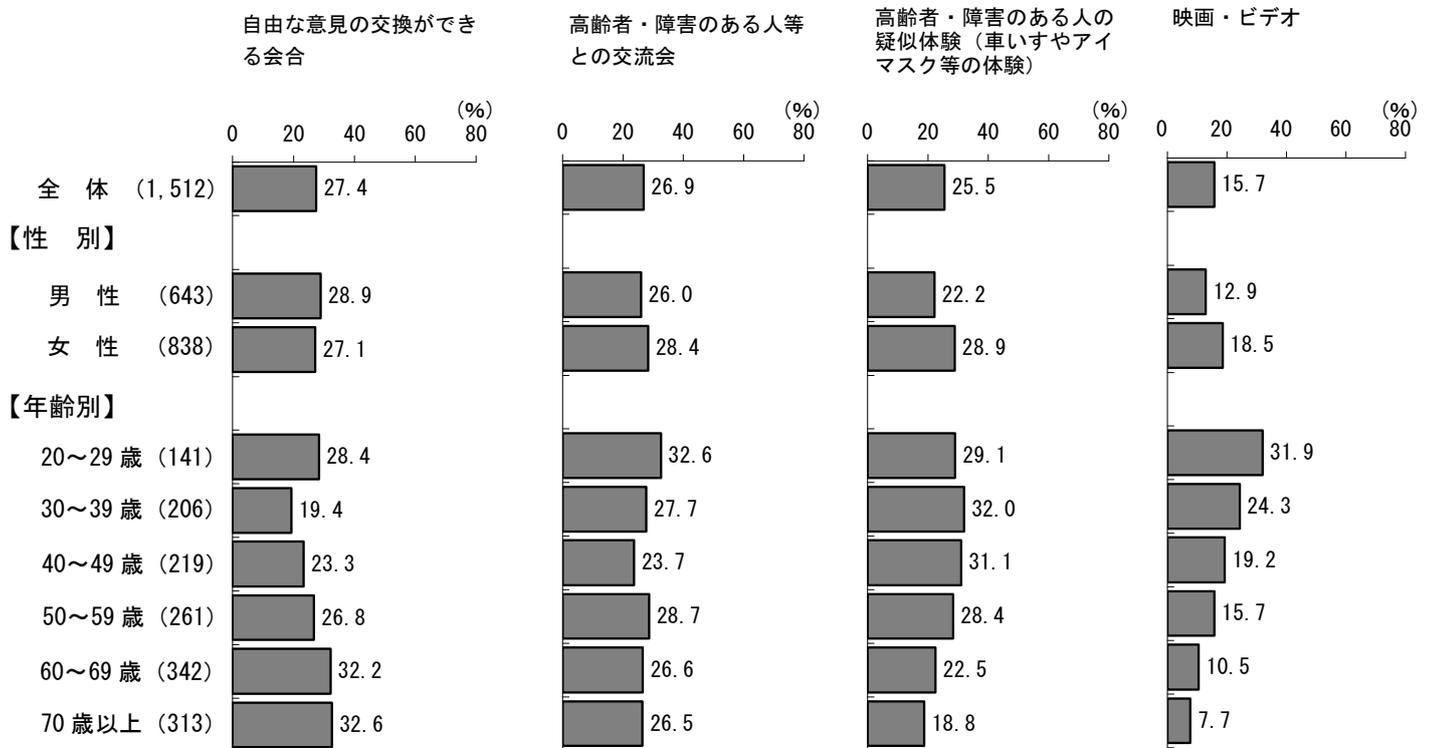
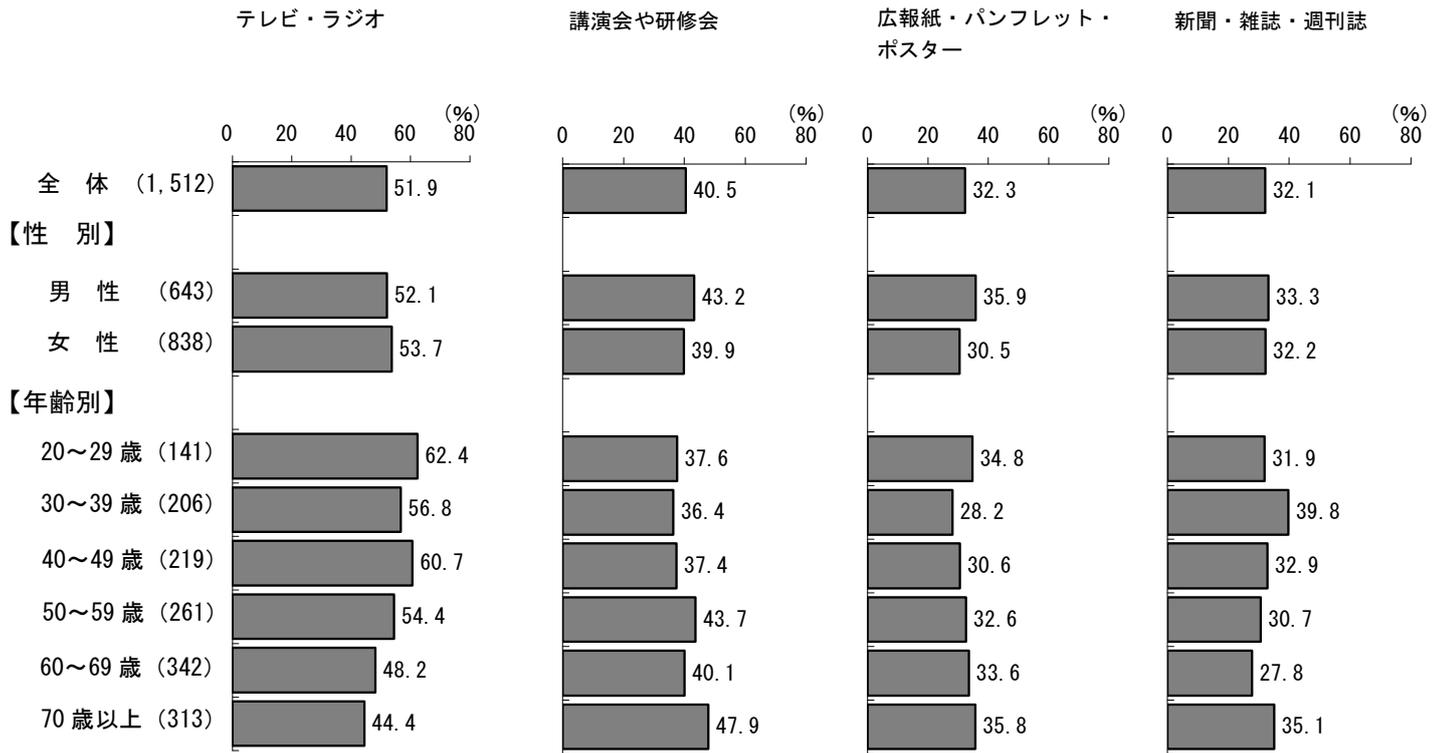
①図 31-1 どのような啓発活動が効果的と思うか【全体】

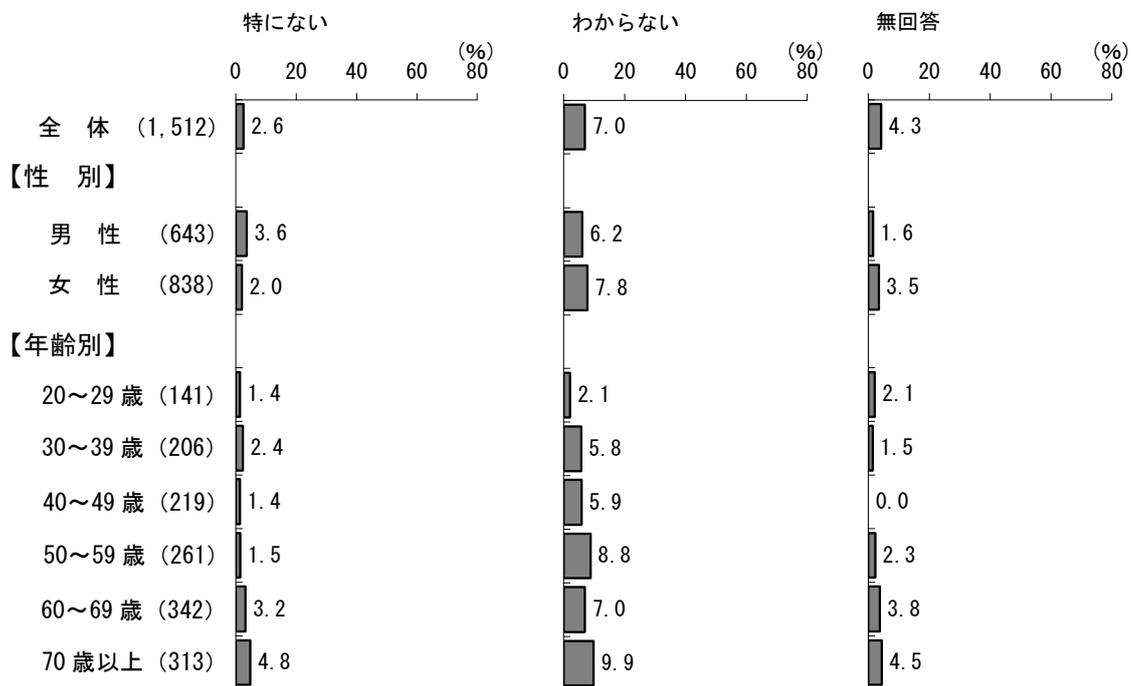
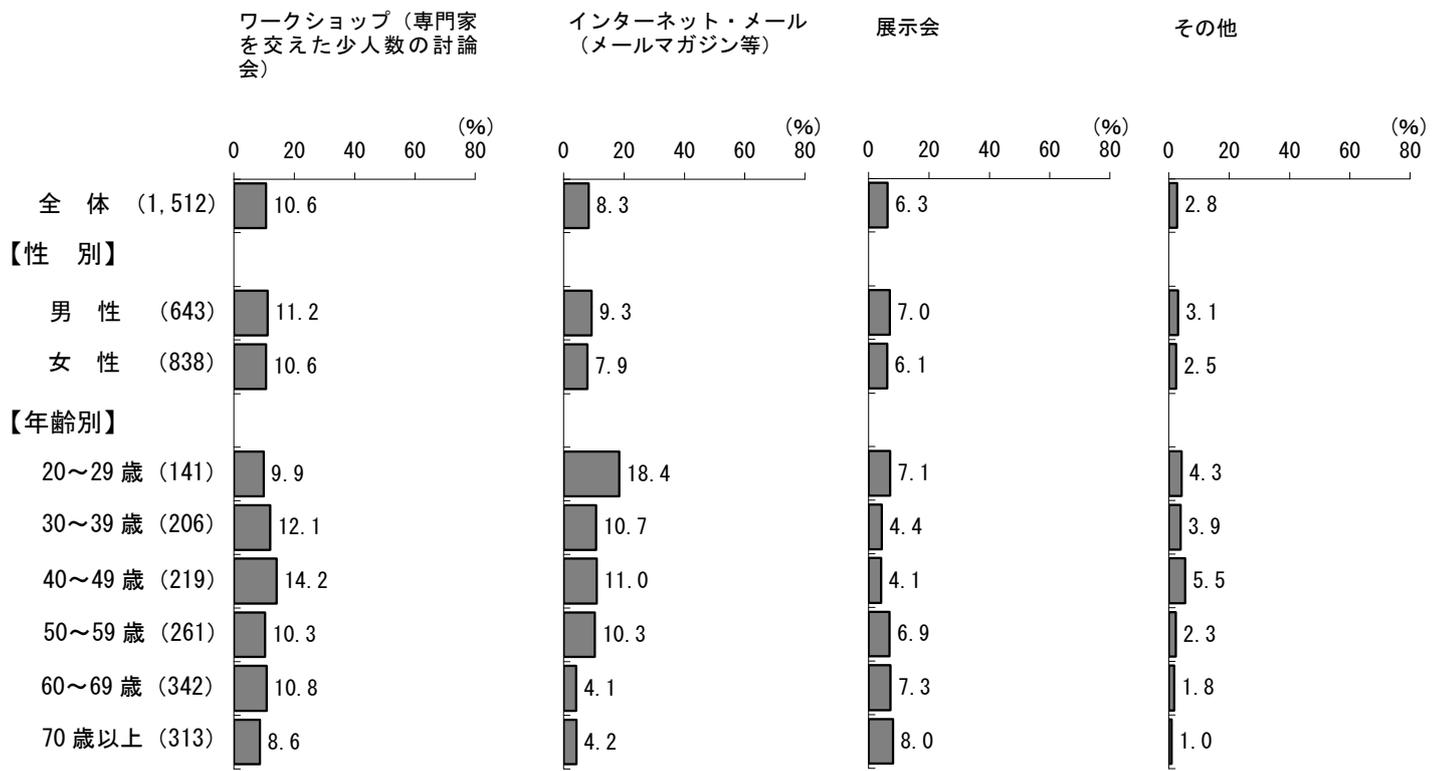


効果的な啓発活動について、「テレビ・ラジオ」が5割、「講演会や研修会」が4割

どのような啓発活動が効果的と思うかについて、「テレビ・ラジオ」と回答した人の割合が51.9%と最も高く、次いで「講演会や研修会」(40.5%)の順となっている。

②図 31-2 どのような啓発活動が効果的と思うか【性別・年齢別】



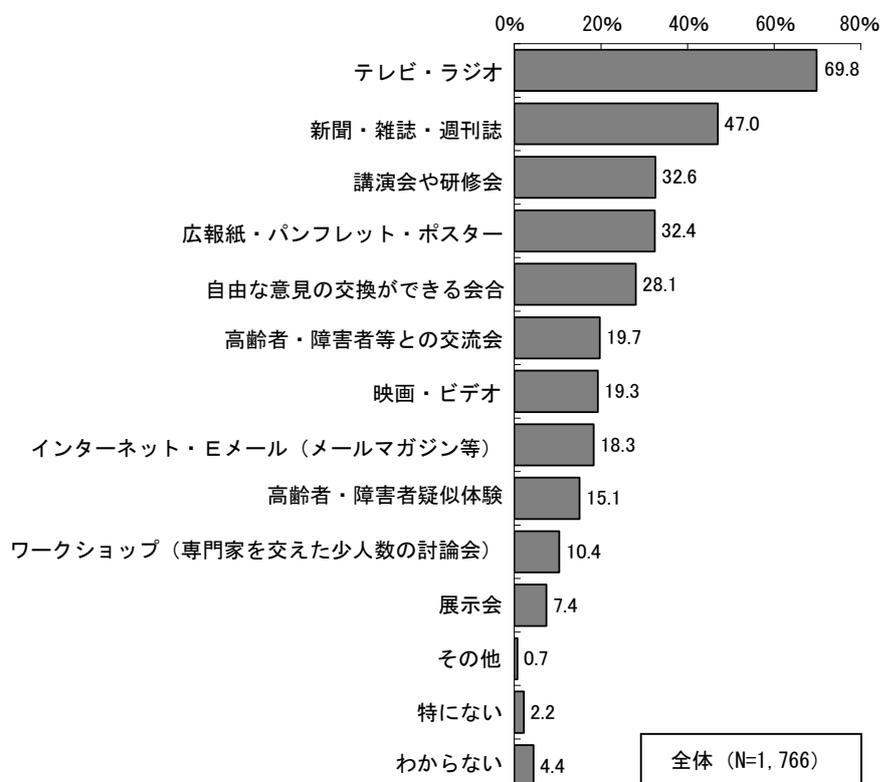


年齢別で比較すると、「テレビ・ラジオ」では20~59歳で回答した人の割合が5割を超え高くなっている。

【参考】全国調査（平成19年6月 内閣府 人権擁護に関する世論調査）

＜どのような啓発活動が効果的と思うか＞

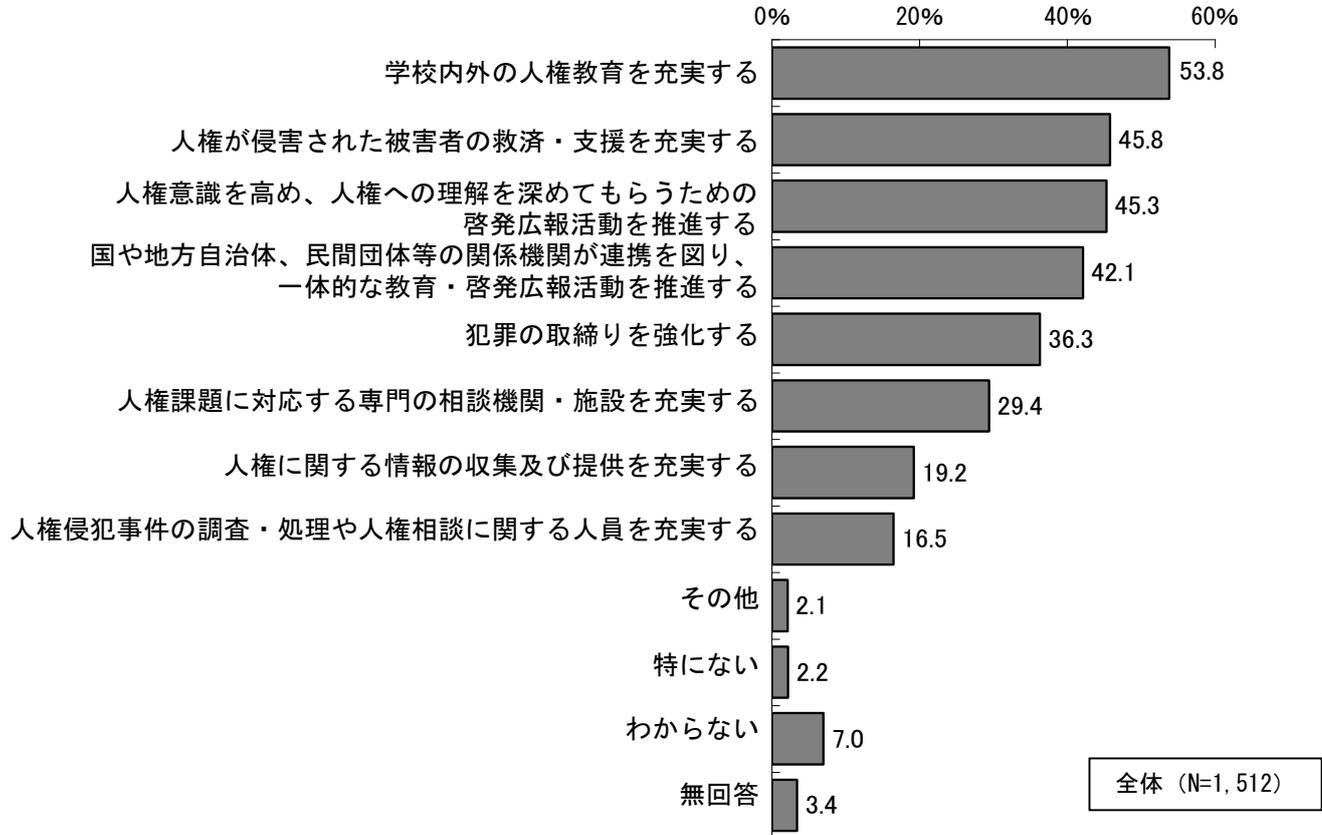
問20 あなたは、人権啓発を推進するためには、国民に対してどのような啓発広報活動が効果的であると思いますか。この中からいくつでもあげてください。



## (2) 人権課題の解決のための方策

問 27 あなたは、今後、県は、これらの人権課題の解決に向けて、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。(✓はいくつでも)

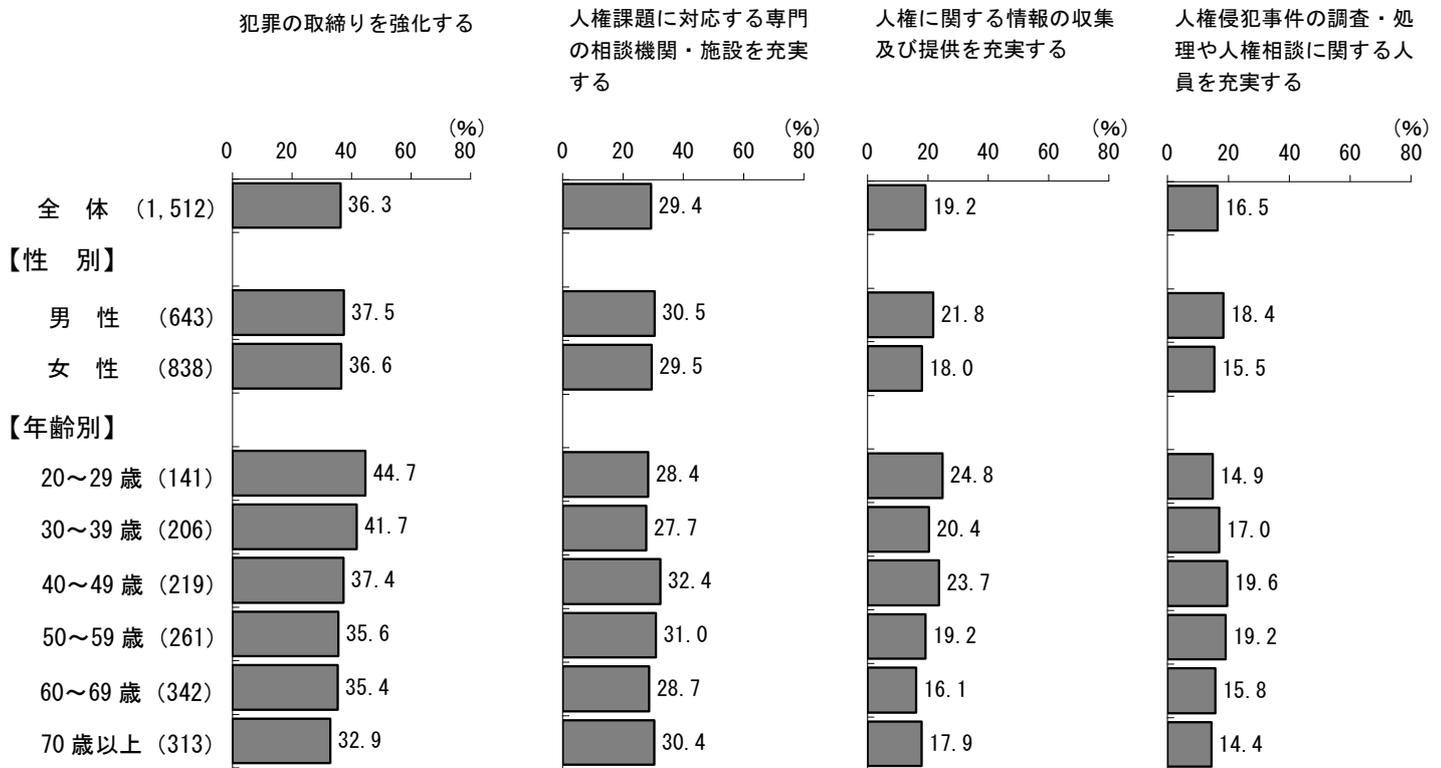
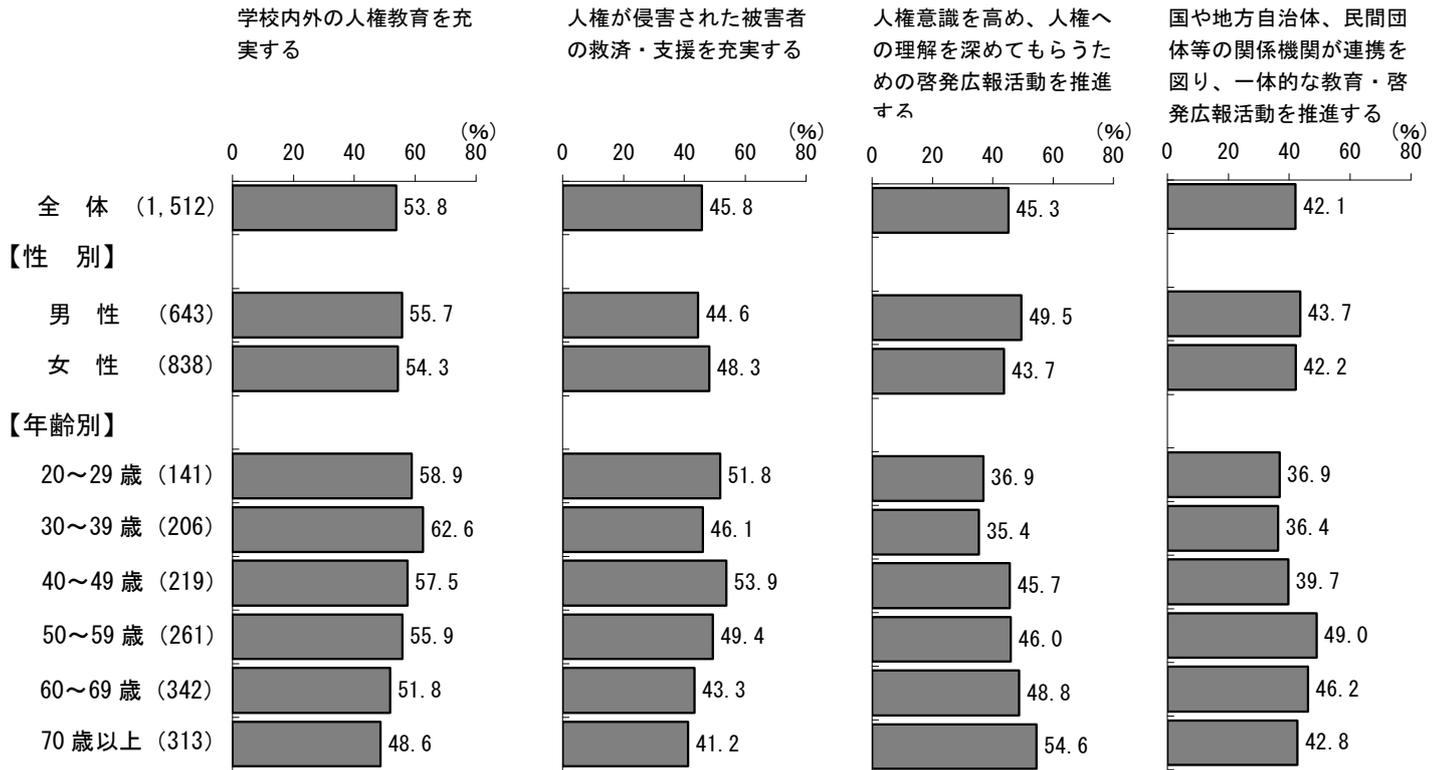
①図 32-1 人権課題の解決のための方策【全体】

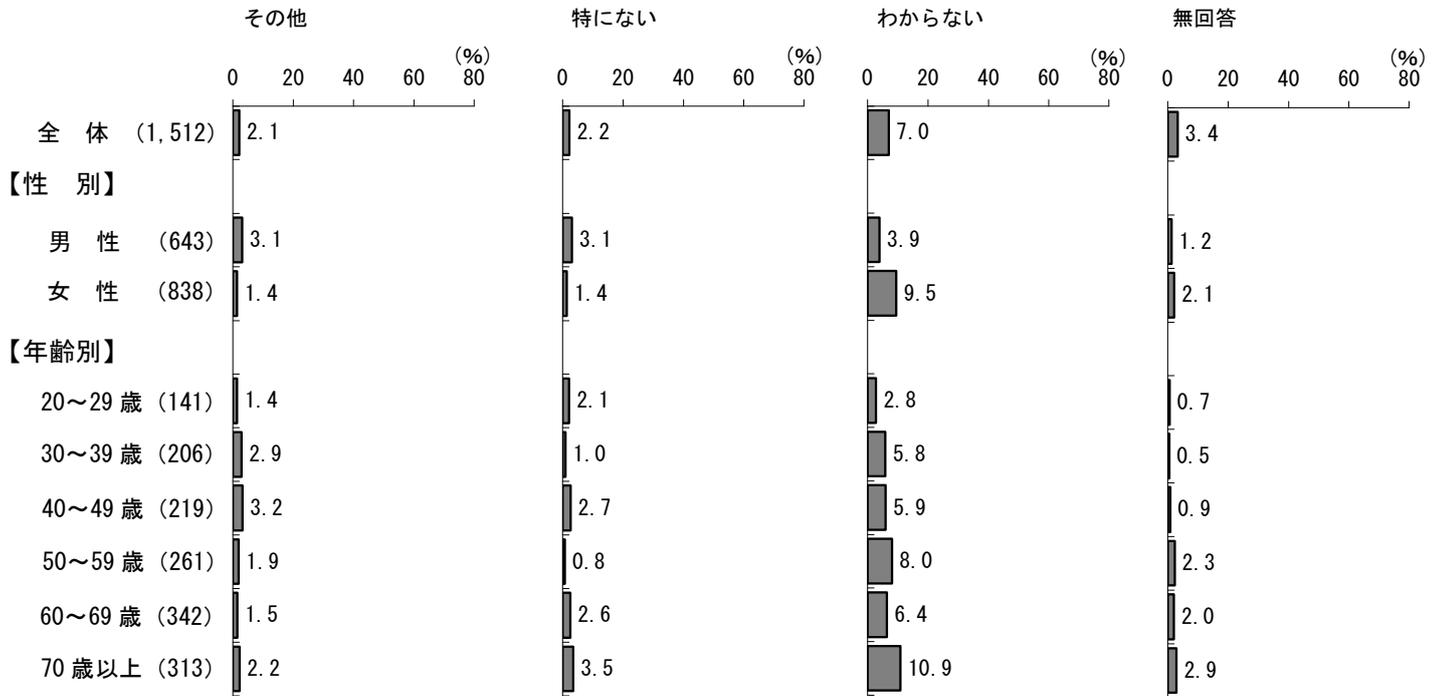


人権課題の解決のための方策について、「学校内外の人権教育を充実する」、「人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する」、「人権意識を高め、人権への理解を深めてもらうための啓発広報活動を推進する」の3つが5割

人権課題の解決のための方策について、「学校内外の人権教育を充実する」と回答した人の割合が53.8%と最も高く、次いで「人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する」(45.8%)、「人権意識を高め、人権への理解を深めてもらうための啓発広報活動を推進する」(45.3%)の順となっている。

②図 32-2 人権課題の解決のための方策【性別・年齢別】





年齢別で比較すると、「学校内外の人権教育を充実する」、「犯罪の取締りを強化する」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなる傾向にある。

【参考】全国調査（平成19年6月 内閣府 人権擁護に関する世論調査）

＜人権課題の解決のための方策＞

問21 あなたは、今後、国は、これらの人権課題の解決に向けて、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。

